

講義科目名称：社会福祉

授業コード：

英文科目名称：Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
宮平 隆央			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 児童福祉を中心に高齢者や障害者の権利保護・支援体制等について理解する。</li> <li>3. 現行の社会福祉制度・サービス体系・実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会福祉・ソーシャルワークの援助技術の実際を、事例等を通して理解する。</li> <li>5. 最新の社会福祉の状況を理解し、今後の展望について考察する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会福祉における様々な課題について調べ、考え、自分の意見を述べることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、大学で社会福祉を学ぶ意義 本講義の概要、講義構成、評価、注意事項の説明等、オリエンテーションを行う。併せて、この講義や他の福祉系科目との関連、福祉系科目と他の保育系科目との関連などについて概要を説明します。</p> <p>第2回 社会福祉の概念・理念 講義を通じて学ぶ「社会福祉」とはどのような考え方（概念）なのか、「社会福祉」という概念が目指すものとは何か（理念）などについて、学ぶ。</p> <p>第3回 社会福祉のながれ（海外） 「社会福祉」という考え方がどのように生まれ、発展・変化してきたか、海外の歴史・事例等について学ぶ。</p> <p>第4回 社会福祉のながれ（日本） 日本において、「社会福祉」に当たる考え方がどのように生まれ、海外からどのような影響を受けて、発展・変化してきたか、日本の歴史・事例等について学ぶ。</p> <p>第5回 社会福祉の法律と制度 「社会福祉」という考え方が、どのような法律や制度によって具体化されているかについて学ぶ。</p> <p>第6回 社会福祉の施策と進め方 「社会福祉」に関する法律・制度に基づき、具体的な施策が講じられている。社会福祉施策の概要および施策の実際の進め方（法律・制度等がどのように、実際の現場の仕事につながっていくのか、など）を学ぶ。</p> <p>第7回 当事者運動と権利保障 「社会福祉」は、国など「上から」の取り組みだけではなく、当事者による人権保障の問題として「下から」の運動により、大きく進歩してきた。そうした当事者の運動と権利保障の考え方について学ぶ。</p> <p>第8回 社会福祉現場の実践例 「社会福祉」がカバーする分野は多岐に渡る。そのうち、いくつかの実践例を取り上げ、「社会福祉」の考え方がどのように具体化されているのかを学ぶ。</p> <p>第9回 社会福祉現場の課題とまとめ 「社会福祉」の理念を実現するべく、さまざまな分野のさまざまな現場で取り組みが行われているが、法律・制度の制約や、社会状況の変化により様々な課題を抱えている。そうした今日の社会福祉の現場の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第10回 福祉現場における主な援助理論 福祉的ニーズを抱える当事者に、支援・援助を行う際の基本的な考え方（援助理論）について、代表的なものをいくつか取り上げる。</p> <p>第11回 社会福祉の専門性と専門職 「社会福祉」に職業として関わるものには、なぜ資格があるのか？「社会福祉」における専門性（支援・援助に関わる高い知識・経験・判断力などをもっていること）とは何か？それらの資格・専門性は、どのような職業として社会的に認められているのか、などを学ぶ。</p> <p>第12回 地方分権と市町村の役割 様々な福祉的ニーズをもつ個人に最も近い公的機関は市区町村など、個人が住んでいる地域の自治体である。そうした市区町村など自治体の役割について、近年の地方分権の動きなどを合わせて学ぶ。</p> <p>第13回 社会福祉の最新動向（児童福祉等） 今日、社会の仕組みや動きは急速になっている。そうした変化に対応するために、社会福祉に関する法律・制度も大きく変化しつつある。これらの変化は当事者運動や国際的動向などの影響を大きく受けている。社会福祉に関する運動や施策の最新動向について、児童福祉分野を中心に学ぶ。</p> <p>第14回 社会福祉の最新動向（高齢者・障がい者など） 前回同様、高齢者・障がい者等の分野の運動・施策等の最新動向について学ぶ。</p> <p>第15回 社会福祉の課題と今後の展望 これまでの講義を振り返り、これまでの「社会福祉」の考え方や施策等の課題を整理し、それを踏まえて、これから先の時代に望まれる「社会福祉」の在り方について考える。</p> <p>第16回 定期試験 講義内容を踏まえて、その理解度を期末試験で問う。試験は論述式（文章で答える形式）を予定</p>

	している。
授業の概要	①講義は以下の講義計画に基づいて行う。(但し、講義の進行状況等に応じて変更することもある) ②講義では可能な限り質疑を交えて行う。 ③講義ではテキスト・当日資料・スライド等を用いる。 ④理解を深めるためレポート等の課題を課す。 ⑤現場に関する課題を課し、理論と実践の関連について理解する。(但し、講義の進捗状況等に応じて変更することもある)
予習	事前に講義計画を確認し、自分なりに予習し、講義中の質問に備えること。
復習	毎回の講義中に必要事項についての振り返りおよび確認を行うので、復習しておくこと。
テキスト	適宜、講義中で指示する。
参考書	適宜、講義中で指示する。下記の書籍等を参考にするので、可能な限り購入・入手すること。 『国民の福祉と介護の動向』厚生統計協会、 『社会福祉小六法』または『保育小六法』(出版社は問わない、できる限り最新年度のもの)
評価方法・評価基準	評価は出欠状況・レポート・試験の成績等をもとに総合的に評価する。 評価のおおよその配点は、 ・期末試験：40% ・課題レポート：40% ・コメントカードほか、講義中で課す小課題の提出：15% ・質問など授業態度ほか：5%  【D P 1～4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	①レポートや小課題等の提出期限は厳守すること。 ②期末試験は論述式で行うので、日ごろから新聞記事等を読み、感想をまとめるなど、「意見を書く」練習をすること。 ③教科書<を>勉強するのではなく、教科書<で>勉強するので、日ごろから自主的な学習を心がけること。 ④講義中の私語・携帯電話は厳禁とする。講義の妨げとなる場合は、退席を命じ、欠席扱いとする。 ⑤欠席する場合は、必ず欠席届を事前または事後に提出すること。
オフィスアワー	宮平の研究室で、原則として下記の時間に対応する。ただし、急な外出等で下記時間に対応できない場合や、下記以外でも研究室に在室していて、対応できる場合は対応する。できれば、事前にメールを下さい。 火曜日 2限目 水曜日 4限目 金曜日 2限目
課題に対するフィードバック方法	レポート・期末試験については、回答例を学期終了後、配信する。

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲 理子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育の意義・目的や制度、実践に関する基礎理論について理解する。また、児童福祉との関わりや生涯学習社会の現状と課題についても理解し、教育に対する使命感や倫理観を育む。</p> <p>【到達目標】 教育の理念や意義、目的、制度などの基本概念について学び、それらが教育の歴史や思想をとおして、どのように現われてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「教育」とは何か？ 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育をとおして改めて考える。</p> <p>第2回 教育の意義・目的 社会の中で営まれている「教育」と何か、その意義と目的について学ぶ。また、子どもの発達の特徴をふまえた教育の在り方、特に児童福祉と教育の関係について理解する。</p> <p>第3回 子どもの教育の今日的課題 子どもが育つ上で必要な基本的信頼関係をふまえた教育の在り方について理解する。また、子どもの基本的生活習慣が教育にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。</p> <p>第4回 家庭教育の機能と課題 子どもが一番最初に受ける家庭教育とは何か、家庭教育を支える法制度もふまえて理解する。また、家庭教育の現状と課題についても理解する。</p> <p>第5回 学校教育の機能 社会の中で営まれている「学校教育」とは何か、自らが受けてきた学校教育もふまえて理解する。また、「学校教育」が学習者個人や社会にとって、どのような意味があるかについても考える。</p> <p>第6回 学校教育の法制度 「学校教育」に必要な法制度について理解する。また、教育に関連する法制度についても理解する。</p> <p>第7回 教育制度の運営 「学校教育」を支える教育制度とその運営について理解する。</p> <p>第8回 保育・幼児教育の現状と課題 就学前の乳幼児を取り巻く現状を把握し、保育・幼児教育の課題について理解する。</p> <p>第9回 教育課程の捉え方と類型 教育を営む際に必要な「教育課程」について、「教育課程」の意義と類型を理解する。</p> <p>第10回 諸外国の教育の歴史及び思想と子ども観の変遷 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。また、社会の中で子どもをどのように捉えてきたか、子ども観の変遷についても理解する。</p> <p>第11回 日本の教育の歴史及び思想と子ども観の変遷 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。また、社会の中で子どもをどのように捉えてきたか、子ども観の変遷についても理解する。</p> <p>第12回 学校の現状と課題 現在の子どもの教育、特に「学校」を取り巻く現状と課題について理解する。</p> <p>第13回 「幼稚園教育要領」に基づく教育 「幼稚園教育要領」に基づいた幼児期の教育は、どのように行われるかについて理解する。</p> <p>第14回 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づく教育・保育 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいた就学前の教育・保育は、どのように行われるかについて理解する。</p> <p>第15回 社会教育と生涯学習 学校教育を終えた後、個人は社会の中でどのように教育されるか、社会教育と生涯学習の視点から理解する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷をとおして、教育の意義や目的、制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、教育法規や教育制度についても理解する。
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない用語は調べておくこと。各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	授業で学んだ箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	北野幸子編著 2011 『シードブック 子どもの教育原理』 建帛社 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 ミネルヴァ書房編集部 [編] 2018年 『保育小六法2018 [平成30年版]』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法・評価基準	試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。  【DP 1~4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 提出物は期限厳守。レポートについては初回講義時に説明予定。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。
オフィスアワー	西研3-8 糸洲研究室 毎週**曜日 **限目 ※授業初回に掲示する。
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

講義科目名称：キリスト教保育

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Christian Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲理子・喜舎場勤子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	キリスト教保育の「世界観」「人間理解」「子ども観」等、基礎的事項を学び、キリスト教保育を実践するために必要な使命感や倫理観について理解することができる。さらに、国内外の子どもを取り巻く諸状況や社会的に弱い立場に置かれている人々に関心を持ち、聖書理解（「隣人愛」「共生」）の視点に立った保育実践の方法について学び、理解することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明。「キリスト教保育」とは何か？ 授業始めに講義概要を説明する。 「キリスト教保育」の意義と目的について理解する。</p> <p>第2回 聖書の世界観・人間理解 聖書が示す「隣人愛」や「共生」について学び、人間をどのように理解するか学ぶ。</p> <p>第3回 聖書の子ども理解 聖書は子どもをどのように捉えているか理解する。</p> <p>第4回 子ども理解とキリスト教保育 子どもの発達について概観し、キリスト教保育を営む上で子どもをどのように理解するか考える。特に、障がいのある子どもや支援の必要な子どもについて理解する。</p> <p>第5回 聖書物語 聖書に出てくる代表的な箇所について、絵本や紙芝居などをおして理解する。</p> <p>第6回 保育の中での子ども礼拝 キリスト教保育の中で行われる「子ども礼拝」について、目的や方法などを理解する。</p> <p>第7回 子ども礼拝 実際の「子ども礼拝」をおして、子どもが神とどのように関わるかを理解する。</p> <p>第8回 隣人としての子ども：日本 日本の中で育つ子どもの現状を把握し、「隣人」としての子どもにどのように接するか理解する。</p> <p>第9回 隣人としての子ども：外国 諸外国の子どもの現状を把握し、「隣人」としての子どもにどのように接するか理解する。</p> <p>第10回 教会暦と保育行事「イースター」 教会暦とは何か理解する。キリスト教にとって重要な行事である「イースター」の由来を理解し、保育園や幼稚園でどのように取り扱われるかを学ぶ。</p> <p>第11回 教会暦と保育行事「クリスマス」 キリスト教にとって重要な行事である「クリスマス」の由来を理解し、保育園や幼稚園でどのように取り扱われるかを学ぶ。</p> <p>第12回 課題発表：「子ども」 「キリスト教保育」の視点をふまえて、「子ども」「保育・教育」について調査し発表する。</p> <p>第13回 課題発表：「平和」 「キリスト教保育」の視点をふまえて、「平和」「子どもが置かれている困難な状況」について調査し発表する。</p> <p>第14回 教会暦と保育行事「ペンテコステ」 キリスト教にとって重要な行事である「ペンテコステ」の由来を理解し、保育園や幼稚園でどのように取り扱われるかを学ぶ。</p> <p>第15回 キリスト教保育と平和 キリスト教保育は「平和」をどのように捉えるかについて理解する。また、キリスト教保育を実践する保育者に必要な態度や心がまえについて理解する。</p>
授業の概要	キリスト教保育は、日本における創設期から発展の過程において、近代保育を形づくる重要な役割を担い多大な影響を与えてきた。本講義では、聖書に描かれる人間や子どもについて学び、キリスト教保育の根幹である「隣人愛」「共生」について理解する。また、キリスト教保育の重要な部分を占める「子ども礼拝」「保育行事」等の基礎的事項についても学ぶ。
予習	シラバスを確認し、関連する資料等を事前に読み、わからない用語は調べておくこと。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	授業で学んだ箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	キリスト教保育連盟 2017年（第10版）『新キリスト教保育指針』
評価方法・評価基準	グループ発表40%、レポート40%、課題10%、受講態度10%として総合的に評価する。  【DP 1~4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。

	<p>.. 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが双方向型の講義を重視して、できるだけ発言の機会を設ける。</p> <p>提出物は期限厳守。課題については初回講義時に説明予定。</p>
オフィスアワー	<p>糸洲 理子：西研3-8 糸洲研究室 毎週木曜日 2 限目</p> <p>喜舎場勤子：授業後に教室で受け付ける</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題及びレポートは、評価後に返却する。</p>

講義科目名称：発達心理学

授業コード：

英文科目名称：Developmental Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	1. 子どもの発達に関わる心理学の基礎的知識を獲得し、発達の過程および特徴を理解することができる。 2. 子どもの学びの過程や特性について基礎的知識を獲得する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義 発達心理学を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回 発達段階・発達課題 発達段階と発達課題について理解する。</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因 心身の発達に影響する外的・内定要因の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。</p> <p>第4回 胎児期の発達 胎児の発達を理解する。</p> <p>第5回 新生児期の発達 新生児の発達を理解する。</p> <p>第6回 乳幼児期の感情と自我の発達 乳幼児期の感情と自我の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第7回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第8回 乳幼児期の知覚と認知の発達 乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第9回 乳幼児期のことばの発達 乳幼児期のことばの発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第10回 乳幼児期の社会性の発達 乳幼児期の社会性の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第11回 乳幼児期の基本的信頼感の獲得 乳幼児期の基本的信頼感の獲得を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論 学びに関する理論を学ぶ。</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解 支援を要する子どもたちの発達を理解する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	乳幼児期の発達的特徴を学び、子どもへの理解を深める。さらに、支援を要する子どもたちの発達を学ぶ。
予習	テキストの該当箇所を事前に読む。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	テキストを読み、講義内容をより理解するように努める。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会（編） 2015年 『改訂2版 新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国社会福祉協議会 その他担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	定期試験50%、授業内レポート（毎時間提出）35%、受講態度15%  【D P 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。

	<p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	予習・復習をしっかり行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。
オフィスアワー	毎週水曜日 3限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を学ぶ。</p> <p>2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な活動場面を想定した指導方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 現代の子どもの健康課題と、その背景と要因について知り、保育者が必要な働きかけについて理解する。</p> <p>2) 子どもの健康に関わる生活習慣、運動遊び、安全教育、食育の指導方法について理解することを目標とする。</p> <p>3) 指導案のまとめ方について知り、保育場面を想定した指導案を作成出来るようになる。</p> <p>4) 模擬保育の実践とその評価を通して、自身の取り組みについて改善を続ける姿勢を持てるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、子どもの「健康」とは 一領域「健康」のねらい及び内容の理解— シラバスを確認しながら、講義の概要、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて学習する。</p> <p>第2回 子どもの健康の現状と課題 現代の子どもの健康課題について学び、その改善のための保育者に求められる内容や保育者の資質について学ぶ。</p> <p>第3回 子どもの心身の発達と特徴 子どもの心身の発達とその特徴について学び、子どもの健全な発達のために必要な保育者の働きかけについてグループワークも用いながら考えていく。</p> <p>第4回 子どもの基本的な生活習慣獲得過程（指導案作成） 子どもの生活習慣が健康に及ぼす影響について知る。次に、基本的な生活習慣獲得のプロセスについて確認し、模擬保育保育に向けて指導案の作成を行う。</p> <p>第5回 基本的な生活習慣に関わる保育の実践（模擬保育実践と評価） 基本的な生活習慣の獲得について模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら基本的な生活習慣獲得の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第6回 食育の推進 「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における食育の内容について学ぶ。その後、事例も持ちながら食育の内容、指導方法について理解し、具体的な食育の実践について構想を練る。</p> <p>第7回 食育実践と体験（模擬保育実践と評価） 現在行われている幼児向けの食育の実践を、模擬保育を通して行う。その後、各グループで評価を行い、その内容を元に食育推進についてのまとめを行う。</p> <p>第8回 運動遊びの意義（情報機器の活用） 情報機器も用いながら、子どもの動作の特徴を観察し、なぜ子どもの発達に運動遊びが必要なのかについて理解する。その他、運動遊びの考え方、方法についても学習する。</p> <p>第9回 運動遊びの展開方法（指導案作成） 運動遊びの展開について、グループワークも用いながら学んでいく。その後、具体的な保育場面を想定しながら、運動遊びの指導案を作成する。</p> <p>第10回 運動遊びの指導実践（模擬保育実践と評価） 運動遊びについて指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら運動遊びの指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第11回 子どもの病気や怪我、事故の予防と応急処置について 子どもが罹患する病気や、よくある怪我について知る。その他、事故の予防と応急処置の際の注意について学ぶ。</p> <p>第12回 子どもの安全教育と危険（指導案作成） 現場を想定した事故の対応等についてグループワークを用いて考える。その後、安全教育についての指導案作成を行う。</p> <p>第13回 安全教育の指導実践（模擬保育実践と評価） 安全教育について指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら安全教育の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第14回 健康保育の実践と評価の視点 子どもの健康を守るために、乳幼児の内面や、背景を理解することの重要性について学ぶ。また、日々の保育実践について、自身による評価や周囲からのフィードバックを活用して、日々改善につとめる視点をもつことの必要性を理解する。</p> <p>第15回 保幼小のつながりと地域との連携について 保育所・幼稚園と小学校をつなぐことの意義とその具体的な内容について正しく理解し、グループワークを用いて、将来を想定した保育構想について考える。</p> <p>第16回 定期試験 定期試験を行う。</p>
授業の概要	<p>1. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解し、健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を学</p>

	ぶ。 2. 乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育発達に対する理解を深め、適切な指導方法について学ぶ。 3. 現代の子どもの課題である「基本的な生活習慣」、「食育」、「運動遊び」について家庭や地域との連携のあり方について知る。
予習	テキストを事前によく読み、「子どもの健康」の知識を再確認しておくこと。
復習	授業の際に配布されたレジュメを読み、講義の内容をより理解し、応用できるように努める
テキスト	保育内容 健康【乳幼児教育・保育シリーズ】（2018） 著：吉田伊津美・砂上史子・松寄洋子. 光生館
参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	期末試験60% 授業態度20% 受講者の発表20%  <b>【D P 1～4との関連】</b> .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義だけではなく、指導案作成、模擬保育の実践も行います。 グループの活動も取り入れながら、授業をすすめます。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 島袋研究室
課題に対するフィードバック方法	・課題、試験等は、評価して各自に返却します。

講義科目名称：人間関係指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Hu. Rel. of Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
赤嶺優子・平安名盛孝			

授業のテーマ及び到達目標	(1) 幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針解説書で示されている幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」の特徴を知り目標、ねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 (2) 幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・現代社会と乳幼児の人間関係 講義概要説明、評価方法、授業の進め方について 昔の乳幼児の生育環境と現代社会の乳幼児の生育環境と人間関係</p> <p>第2回 領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて</p> <p>第3回 乳児期における人間関係の発達 乳児期の発達と信頼関係から構築される人間関係の発達</p> <p>第4回 幼児期における人間関係の発達 幼児期の生活や発達をとおした人間関係の広がり</p> <p>第5回 乳幼児期の発達と自立心を育む援助 乳幼児期の発達と自分のことは自分でする自立心を育む援助</p> <p>第6回 友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方（葛藤体験） DVD視聴をとおしてのグループ討議や意見交換</p> <p>第7回 乳幼児期の自立心の育ち 自分のことは自分でする自立心の芽生えを育む関わり</p> <p>第8回 共同的な遊びの中で育ち合う人とのかかわり（模擬保育） 模擬保育から捉える領域「人間関係のねらいや内容、内容の取扱い」</p> <p>第9回 幼児期の協同性の育ちー目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち 協同性をとおしてみえる共同に向かう幼児同士の関わりと育ち</p> <p>第10回 領域「人間関係の内容」：「友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付く」 決まりに関する幼児の葛藤と援助</p> <p>第11回 領域：「人間関係の内容」共通の遊具や用具を大切にし、みんなで使う」（視聴覚教材の活用） DVD視聴をとおして捉える個と集団の育ち</p> <p>第12回 共同的な遊びの中で育ち合う人との関わり - 共同的な遊びの事例を考える（模擬保育） グループで共同的な遊びに関する事例内容を考え、模擬保育</p> <p>第13回 領域「人間関係の内容」：「身近な友達と関りを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみをもつ」 交流保育の中で育つ人との関わり</p> <p>第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の生活や学習で生かされる力について</p> <p>第15回 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ 現代社会から見える、人間関係に関する諸門問題について話し合い、情報交換しまとめる</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。そのうえで、乳幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深め、発達に必要な主体的・対話的で深い学びを実現するための実践方法を身に付ける。
予習	目標とねらい、内容、内容の取扱い等は、幼稚園教育要領や保育所保育指針等を用いて事前学習をすること。
復習	授業終了後の学びや課題を明確にし、授業計画内容の理解を深めること。
テキスト	清水陽子/門田理世/牧野桂一/松井尚子【編著】2017年『保育の理論と実践』ミネルヴァ書房
参考書	文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館
評価方法・評価基準	試験60%、課題40%で総合的に評価する。

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」の課題を課す。
オフィスアワー	赤嶺 : 毎週月曜日、(12:00~13:00) 研究室 平安名 : 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	予習・復習（領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」）の課題を課す。 課題は、評価し授業内に返却します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
照屋 建太			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 身近な環境を利用し、乳幼児の発達や学びの過程を踏まえた場面を想定した指導方法を身につけることを目標とする。さらに、乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、具体的な場面を想定した保育を構想する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容の全体構造を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、乳幼児の保育環境や生活環境を考える 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における5領域の概要説明。そして、乳幼児の保育環境や生活環境の実態を考える。</p> <p>第2回 グループ学習①（環境観察、教材研究） 学生自ら環境を観察し、乳幼児にとって魅力的な環境についてグループで考え、発表する。</p> <p>第3回 領域「環境」の意義と概要、領域「環境」をより良く理解するために 5領域の中にある領域「環境」の意義を考える。そして、その環境について具体例を考え理解を深める。</p> <p>第4回 領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容についてしっかり把握する。</p> <p>第5回 好奇心・探究心のはぐくみ、物の性質や数量・文字の取り扱い 幼児にとって好奇心・探究心の出る環境を考える。また、身近な環境から数量や文字の取り扱い方法を把握する。</p> <p>第6回 子どもの発達と環境、基本的な生活習慣の自立 子どもの発達環境を考える。また、近年の乳幼児の基本的な生活習慣について実態を踏まえ把握する。</p> <p>第7回 自然環境を活用した実践事例（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践を視聴し、自分の考えをまとめる。</p> <p>第8回 自然に親しむ ー生命の尊さ、自然とのかかわりと保育 自然に親しむことで、命の尊さについて学ぶ。また、自然とのかかわりから保育について考える。</p> <p>第9回 自然環境（ビオトープについて）を利用した保育実践（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践（ビオトープ）の事例について実際に体験し、学ぶ。</p> <p>第10回 生活と関係する行事・文化、子どもを取り巻く情報機器（情報機器の活用） 生活と関係する行事や文化等を学ぶ。また、近年における保育の情報機器利用について事例を通して考える。</p> <p>第11回 指導計画と評価 ー領域「環境」の視点から（教材の活用） これまで学んだ保育環境の学びから、教材の活用方法を自ら考える。</p> <p>第12回 グループ学習②（身近な植物の特徴を知る、教材研究） 身近な植物の特徴や生育環境、保育での利用方法についてグループで学ぶ。</p> <p>第13回 0歳から2歳児の保育と環境、3歳から6歳児の保育と環境（模擬保育等の実践的内容） 保育環境について実践内容を考え、模擬保育を行う。</p> <p>第14回 保幼小との連携、特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」 近年の保養小連携と特別な支援を要する子ども達の環境について学ぶ。</p> <p>第15回 現代社会に内包する環境の問題、領域「環境」の振り返り 現代の保育環境に関する問題を考え、領域「環境」のまとめを行う。</p>
授業の概要	本講義では、領域「環境」を中心にその意義・内容について理解する。また、周囲の様々な環境に関わり、環境構成する力を養う。物の性質や数量、文字の取り扱いについて学ぶ。さらに、乳幼児の発達を踏まえた上で、環境について意図的に考え、計画する方法を自ら考える。
予習	講義前に予告したテキストの章を熟読する。大切な部分については、各自ノートにまとめておくこと。
復習	講義内で出す復習問題を確認し、各科目との関連性を理解すること。
テキスト	大沢裕・野末晃秀 2018年『コンパクト版 保育内容シリーズ「環境」』一藝社 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 その他、必要に応じてプリントは配付する。
参考書	沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他、必要に応じて紹介する。

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>講義のまとめ課題（60％）、レポート課題（20％）、受講態度（20％）</p> <p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>提出された課題は、講義最終日に返却する。</p>

講義科目名称：言葉指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Children's Sp. Dev.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
山盛 淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。</li> <li>・自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。</li> <li>・言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・授業内容・方法・実技・課題等の共通理解 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、三法令の改定のポイントについて学ぶ。</p> <p>第2回 保育の基本と領域 「言葉」 保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容について学ぶ。</p> <p>第3回 幼児理解と言葉 生活の中の言葉について学ぶ。</p> <p>第4回 言葉を豊かにする児童文化財 乳幼児の言葉と発達の関わりについて学ぶ。</p> <p>第5回 ①保育者の言葉と表現と表情 絵本の成り立ちと役割・取扱い方について学ぶ。</p> <p>第6回 ②言葉の発達と絵本 絵本カードとの関わりについて学ぶ。</p> <p>第7回 ③保育者の読み取りと感性 課題図書を読み、感想文を作成・提出する。</p> <p>第8回 紙芝居の成り立ちと基礎的理解 紙芝居の特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 紙芝居の取り扱いと実演（グループ）発表 グループに分かれて、紙芝居を実演する。</p> <p>第10回 発達の中の言葉 ① 聞くこと、話すこと、思いの伝え合いについて学ぶ。</p> <p>第11回 発達の中の言葉 ② 思考すること、想像することについて学ぶ。</p> <p>第12回 ①音声言語から文字言語へ 生活の中の文字について学ぶ。</p> <p>第13回 ②保育と文字の関わり 標識や文字・記号などへの興味関心を育てる環境づくりについて学ぶ。</p> <p>第14回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ① 素材を検討し、シナリオを作る。</p> <p>第15回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ② 前回作成した「ごっこ、劇遊び」について、グループ毎に発表する。</p> <p>第16回 まとめ・定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育指所保育指針や幼稚園教育要領の「言葉」を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法や実技等を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分であり、保育の実技において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財」の理解と活用、保育者と言葉の重要性を知り日本語の言葉の美しさや正しさ豊かさを学んでいく。</p>
予習	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領における「言葉」の領域について予備知識をもち授業に臨む。</p>
復習	<p>授業で学んだ箇所を振り返り、幼児の発達と言葉・保育者の関わりを理解する。</p>
テキスト	<p>岡田 明 『新訂』 子どもと「言葉」 萌文書林</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館          内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館          厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館          厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館          その他講義で提示</p>
評価方法・評価基準	<p>課題提出（絵本カード30%・感想文5%）、企画と発表（グループ）5%、定期試験60%、 総合評価</p>

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が豊かな言葉で話せるようにする。 絵本カード作製と提出（必須） グループ活動への参加と発表の取り組み（評価対象になる）</p>
オフィスアワー	<p>（仮）毎週**曜日 **限目 山盛研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やプリントは、評価後に返却します。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
仲松あかり・奥原友紀乃			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現の基礎技術を修得し、保育現場で活用できる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現の基礎技術が修得できる。</li> <li>・保育現場で活用できる音楽の教材研究を通して基礎的な知識・技術が獲得できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義説明概要及び『表現』領域について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」における表現領域について学ぶ。</li> <li>・イントロダクションにボイス・アンサンブルを学ぶ。</li> </ul> <p>第2回 リトミック音楽教育の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルクロワ教育法について：リトミックの発祥地であるスイスのリトミック音楽教育の現状をDVDの学習を通して、リトミックの原点を学ぶ（ICTの活用）</li> <li>・DVD学習の感想を次回授業に提出する。</li> <li>・沖縄県の幼児教育におけるリトミックの現状について学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 拍の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎リズムのリズム打ちとステップ（歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ）を獲得する。</li> <li>・ボディー・パーカッションを学ぶ。①</li> <li>・手遊び・歌遊びについて学ぶ。①</li> </ul> <p>第4回 リズムパターンとフレージング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパターンとフレージングについて幼児曲を活用して学ぶ。</li> <li>・ボディー・パーカッションの獲得。②</li> <li>・手遊び・歌遊びについて学ぶ②</li> </ul> <p>第5回 リズムパターンとポリリズム。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパターンとポリリズムについて学ぶ。（小テスト）</li> <li>・ボディー・パーカッションの獲得。③</li> <li>・手遊び・歌遊びについて学ぶ。③</li> </ul> <p>第6回 幼児曲を題材にした音楽的な身体即興表現（教材研究①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児曲（はみがきのうた）を題材にして各グループで音楽的身体表現を創意工夫して発表する。</li> <li>・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> </ul> <p>第7回 イメージによる音楽的身体即興表現（教材研究②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「熊蜂の飛行」（リムスキーコルサコフ作曲）を題材（CD鑑賞）に、音楽の強弱やテンポや楽曲の展開などについて考え、各グループで創意工夫し発表する。（ICTの活用）</li> <li>・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> </ul> <p>第8回 拍子感とアナクルーシス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的な拍子感（4拍子・3拍子・2拍子）について、身体で理解し獲得する。</li> <li>・アナクルーシスについて、音楽でいかに重要か、身体を通して理解し獲得する。</li> </ul> <p>第9回 3拍子の獲得（教材研究③）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易楽器やテニスボールを使って、3拍子を身体で理解し獲得する。</li> <li>・「ぞうさん」、「エーデルワイス」、「かわいいオーガスチン」など既成曲を歌唱しながら、3拍子を身体で理解し獲得する。</li> </ul> <p>第10回 3拍子とカノン（教材研究④）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3拍子「うみ」を題材に、アナクルーシスを生かしながら4人グループで音楽的に身体創作する。</li> <li>・「うみ」を題材に、一小節遅れのカノンを学ぶ。（中間テスト）</li> </ul> <p>第11回 テーマを生かした音楽的創作表現（教材研究⑤）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでテーマを設定し、音楽的な身体創作を創意工夫し発表する。</li> </ul> <p>第12回 合奏（教材研究⑥）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合奏の題材を各グループで選択し、練習を踏まえて発表する。</li> </ul> <p>第13回 指導案作成①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究①～⑥の題材から選択し、各グループで保育の導入と保育設定を立案する。（学生によるICT活用を含む）</li> </ul> <p>第14回 指導案作成②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究①～⑥の題材から選択し、各グループで保育の導入と保育設定を立案する。</li> </ul> <p>第15回 模擬授業・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育場面を想定した指導案をもとに各グループで模擬授業を行う。</li> <li>・各グループで行った模擬授業を、相互に評価し合いディスカッションする。</li> <li>・授業のまとめ</li> </ul>
授業の概要	<p>身体を通して音楽を感じ、考え、表現するE・J＝ダルクロワの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用できる手遊び、歌遊び、音楽的な身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。</p>

予習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究の課題を練習し発表する。</li> <li>・音楽的な身体創作発表をグループで事前に練習し発表に備える。</li> <li>・合奏の発表を各グループで事前に練習し発表に備える。</li> </ul>
復習	リズム・フレーズ、ポリリズムなどメトリカルなりズム課題をおさらいし獲得する。
テキスト	<p>①コピー資料。授業中に適宜配布する</p> <p>②井口太代表編著 2014年『新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導—』朝日出版社</p>
参考書	<p>文部科学省 2017年 「幼稚園教育要領」 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 「保育所保育指針」 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 「保育所保育指針解説」 フレーベル館</p>
評価方法・評価基準	<p>実技テスト及び授業における課題評価</p> <p>① グループ課題による評価—幼児曲を音楽的な身体創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究</p> <p>② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズム、カノンの実技及びレポート課題</p> <p>③ 発表への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある</p> <p>④ 受講態度—①④を総合的に評価する。</p> <p>音楽的な創作発表30% 受講態度10% 小テスト・中間試験20% レポート課題15% 指導案作成10% 模擬授業15%</p> <p><b>【DP 1~4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	軽装、室内シューズで受講すること。
オフィスアワー	<p>仲松：毎週金曜日 4限目 仲松研究室</p> <p>奥原：授業終了後に質問を受け付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	保育内容の各領域を総合的に捉え、幼児の造形活動における発達段階を学び、子どもの発育と造形活動との関わりを理解することができる。また、ものの色や形や質感に加え、音や匂いなどの五感を取り入れた表現活動を通して表現の面白さを確認し、表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付け、保育内容の展開や指導法を学ぶ。		
授業計画	第1回	講義概要説明、領域「表現」のねらい及び内容について 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、映像や画像などを用いて乳幼児の活動する姿から「表現」を見出し、領域「表現」のねらい及び内容と関連付けることを通し、「表現」を理解する。	
	第2回	幼児の表現活動の背景について考え、活動が広がる指導方法について考える。 どのような出来事や人とのかかわりが子どもの心を動かすのか。環境が幼児の表現にどのように関わるものなのかを理解する機会を設ける。幼児の描く線や形など、表現を学生が追体験することで、その表現の特徴や面白さに気づくとともに、新しい展開や応用を考える。	
	第3回	国内外の保育研究で提唱されている実践・方法論を通して、造形表現活動の環境について考える。 レジャエミリアやPlayful Learningをはじめとする海外の幼児造形の動向を映像や画像を用いて解説し、造形表現活動における物的環境、人的環境について考える。	
	第4回	インクルーシブ保育における表現活動の可能性について学び、保育構想について考える。 2006年12月に、国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」を基に、インクルーシブ教育についての概要を説明する。また、沖縄の障がい児・者による美術作品展を紹介し、インクルーシブ保育における表現活動の可能性について考える。	
	第5回	触覚的アプローチを用いた表現活動を実践し、その特徴や面白さ、留意点について考える。(教材研究) 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。小麦粉絵の具を作り、手や足で直接絵の具の感触を楽しみながら、ビニールや画用紙など、違う支持体へ描くことを経験することを通して、触覚的アプローチの特徴や面白さや留意点について理解する。	
	第6回	偶然性を生かした様々な表現技法について学び、イメージを刺激するような展開方法を学ぶ。(教材研究) 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。絵の具流しやドリップング、デカルコマーニーなど、偶然性を生かした表現を経験し、偶然性から生まれた色と形が子どもたちの想像力をどのように刺激するのかを考える。また、幼児の表現を受け止め共感し、声掛けなどのかかわり方によって表現が変化することを学ぶ。	
	第7回	自然環境を取り入れた表現活動について実践し、留意点について考える。(教材研究) 自然(風・光・影など)や自然物(葉、木の実など)を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。沖縄の植物について学生自身の知識も深め、身の回りの自然がどのような色、形、そして匂いがあるのか五感を通して感じ、表現を楽しむことを学ぶ。	
	第8回	五感を取り入れた表現活動を実践し、活動の面白さや留意点について考える。(教材研究) 音を聴いたり、匂いを嗅いだもの、時には味わったものを色と形で表現する。また逆に、色と形で表現されたものを音や身体で表現する活動を通して、表現することの楽しさ、面白さを知り、指導の留意点について考える。	
	第9回	廃材や身近な素材を用いた造形活動を実践し、教材研究を行う。(教材研究) 身近な素材(紙コップ・ペットボトルなど)を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や、活動の面白さ、留意点などを考える。また、幼児の製作意欲を刺激するために集まった素材をどう環境に配置していくのか、どういった声掛けが必要なのかを学生に考えてもらい提案の機会を与える。	
	第10回	年齢による発達を踏まえて、環境構成について考える。 年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。表現は幼児の遊びや生活の中に見られること、表現は生活を豊かにすること、そのためには出会う人、もの、事柄に心動かされるような感性を保育者自身が身に付け、年齢に応じた環境を構成できることの大切さを確認する。	
	第11回	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、アイデアを考える。(情報機器の活用) 幼児の表現活動を幼児の間で共有し認め合うための方法の一つとして、画像や映像等を提示することを学ぶ。また、保育者や保護者にとっての幼児の表現活動を視覚化することの意味や効果についても学ぶ。授業では学生同士が、作品を製作する過程を記録し合い、お互いに鑑賞・評価することをとおして視覚化することの意味を経験を基に学ぶ。	
	第12回	総合的な表現活動を実践するために、グループで指導案を作成する。(指導案作成) グループを編成し、各グループにおいて幼児の実態に応じ、既存の表現活動を基に指導案の作成、教材研究を行う。	
	第13回	各グループにおいて作成した指導案に沿って教材研究を深める。(教材研究) 各グループの指導案を発表し、意見交換を行う。幼児に身に付けてほしい事柄や経験から教材研究を再考し、既存の表現活動から応用・発展できるような指導案を再作成する。	
	第14回	各グループで指導案を実践し、その振り返りを通して改善を試みる。(模擬授業) 第12回～第13回で作成した指導案を踏まえ、幼児の表現する様子を予想し、保育の場における表	

	<p>第15回</p> <p>現活動を中心とした模擬保育を行う。幼児の表現がさらに育まれるための活動のねらいや設定、教材や道具、教材研究の適切さ、言葉がけなど振り返り、意見交換を行い、学びを深める。総合的な表現活動の実践を通し、保育における造形教育について考える。</p> <p>これまで学んできた幼児の造形表現活動を振り返り、幼児が心を動かされ、「表現」することを通して「健康な心と体」が育まれていくことについて再考する。製作だけではなく道具や材料の譲り合い、後片付けを通して「道徳心」も芽生える。人と関わり、自然と関わることを通して他者への理解力も培われる。保育における造形教育、そして表現について考える。</p>
授業の概要	<p>はじめに領域「表現」のねらい、および内容の取り扱いについて学び、幼児の表現が人を含む環境との関わり合いの中で変化することを知る。また国内外の保育研究で提唱されている実践・方法論などを通して課題を知り、造形表現活動の環境について考える。中盤では幼児の造形活動における発達段階を学びながら、ボディペインティングやフロッタージュなどの教材体験を行い、子どもたちの感性を刺激するような教材の取り入れ方、そして発展のしかたについて学ぶ。さらに音や匂いなど五感を取り入れた造形表現や、自然環境を取り入れた表現活動を試みる。終盤では指導案の立案について学び、模擬授業を実践し、振り返りを行い、改善を行うことを通して、幼児教育における造形教育について考え、学んでいく内容となる。</p>
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
参考書	<p>内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』（萌文書林, 2016）、福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践からー』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）</p>
評価方法・評価基準	<p>全授業を通して、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に学びの過程を評価する（70%）、そのうえで最終レポートで学びの成果を評価する（30%）。</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	ポートフォリオを回収・採点し、試験期間を利用して学生へ返却する。

講義科目名称：音楽Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：MusicⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。</p> <p>【到達目標】 保育現場で音楽の能力が発揮できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明及びピアノ奏法のウォーミングアップ</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』① No.1～37はグルーブレッスンで進める。 第2回はNo.1～4</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』② No.5. 9. 11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』③ No.13. 17. 21、及び属7度の和音（V7）</p> <p>第5回 『大学ピアノ教本』④ No.24. 25、及び4度の和音（IV）</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』⑤ No.27. 30. 32、及びヘ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（I、IV、V、V7）</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』⑥ No.33. 37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』⑦ No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（I・IV・V・V7）のまとめ</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』⑧、『幼児曲』① 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン。『幼児曲』とんぼのめがね</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』⑨、『マーチ集』① 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』ビーマーチ</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』⑩、『幼児曲』② 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『幼児曲』思い出のアルバム</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』⑪、『マーチ集』② 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』かけあしマーチ</p> <p>第13回 『大学ピアノ教本』⑫、『マーチ集』③ 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』手をたたきましょう （個人により曲の進捗が異なる）</p> <p>第14回 『讚美歌』、『任意の曲』 『讚美歌』だれがつくったの、『任意の曲』</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ』、『讚美歌』、『任意の曲』のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法と楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と連動して、歌唱とピアノ伴奏法の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、『ピアノ教則本』では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な幼児曲やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。</p> <p>1. 課題  (1) 楽典 ①音域 ②音程 ③音階 ④調と調号 ⑤和音  (2) ピアノ課題曲  ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.65程度 必修課題曲  No.1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、51、53、56、60、63、65、他任意の曲  ②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）  ③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ビーマーチ）  ④讚美歌 必修課題曲（だれがつくったの）  ⑤任意の曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次回の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社</li> <li>・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料</li> </ul>
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。  ※上記①～④を総合的に勘案して評価。  演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%</p> <p><b>【D P 1～4との関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	<p>毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 毎時間与えられた課題曲を事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。  授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。</p>
オフィスアワー	<p>大山：授業終了後に質問を受け付けます。  糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。  神谷：授業終了後に質問を受け付けます。  古謝：授業終了後に質問を受け付けます。  仲松：毎週金曜日 4 限目 仲松研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

講義科目名称：音楽Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Music Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。</p> <p>【到達目標】 保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く修得できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明（個別レッスンを中心に行い、習熟度によって進度が異なる）</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』① No.66～94（進度による課題曲の進め方）</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』②、『幼児曲』① 『大学ピアノ教本』No.67、『幼児曲』おはようのうた（幼児曲は順不同・達成度別の進度）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』③、『幼児曲』② 『大学ピアノ教本』No.68、『幼児曲』おかえりのうた</p> <p>第5回 『大学ピアノ教本』④、『幼児曲』③ 『大学ピアノ教本』No.70、『幼児曲』たんじょう日</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』⑤、『幼児曲』④ 『大学ピアノ教本』No.71、『幼児曲』たなばたさま</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』⑥、『幼児曲』⑤ 『大学ピアノ教本』No.74、『幼児曲』はをみがきましよう</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』⑦、『マーチ集』① 『大学ピアノ教本』No.75、『マーチ集』おお牧場はみどり（マーチは順不同・達成度別の進度）</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』⑧、『マーチ集』② 『大学ピアノ教本』No.79、『マーチ集』ブルーセスマーチ</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』⑨、『讃美歌』 『大学ピアノ教本』No.81、『讃美歌』お星がひかる</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』⑩、『幼児曲』⑥、『任意の曲』 『大学ピアノ教本』No.93、『幼児曲』かたつむり、『任意の曲』</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』⑪、『幼児曲』、『マーチ集』 『大学ピアノ教本』No.94、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第13回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第14回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ集』、『任意の曲』及び全体のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲等を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力やピアノ奏法の技術がさらに高められるようにする。幼児曲、マーチ曲の学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く修得出来るようにする。</p> <p>授業形態は、習熟度に応じ個別指導を中心に行う。予習型（自己学習）とする。</p> <p>1. 課題          (1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他          (2) ピアノ課題曲          ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.66～94のうち11曲程度          No.66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意          ②幼児曲 必修課題曲（おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましよう）          ③マーチ曲 必修課題曲（おお牧場はみどり・ブルーセスマーチ）          ④讃美歌 必修課題曲（お星がひかる）          ⑤任意曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。
テキスト	・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜

	出版社 ・『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料
参考書	特になし
評価方法・評価基準	①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。 ※上記①～④を総合的に勘案して評価。 演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%  【D P 1～4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 毎時間与えられた課題曲を事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。
オフィスアワー	大山：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。 仲松：毎週火曜日 4 限目 仲松研究室
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本邦華・荻谷洋介			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 図画工作 I では身近な自然や物の色や形、感触、匂い、音に親しむ経験をするのが大きな目標となる。日用品から食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルに加え、自然素材に実際に触れ、扱うことによって、身近な素材を体験・経験し、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。</p> <p>【到達目標】 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な、造形表現活動に関する知識と技術を習得する。演習を通し表現活動に係る教材の活用及び作成について学び、保育の環境構成について考え、具体的展開のための技術を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明—画像や映像資料を使用し、図画工作 I の目的と内容について説明を行う。 画像や映像資料を使用し、造形活動における子どもの表現について確認する。また、画用紙と鉛筆やクレヨンなど手軽な描画材を用いて自由に描くことを体験し、描画材や支持体の違いによって得られる体験の違いについて考えてもらう。</p> <p>第2回 表現の発達段階にそった造形あそびについて 幼児の造形表現における発達段階について再確認し、発達段階に合わせた描画材や支持体の用い方について学生に意見を自由に述べてもらう。1～2歳児、3～4歳児、5～6歳児で描画材の使い方がどう変わってくるのか、実際に体験しながら確認し、発達段階に合った環境整備、導入・展開の仕方など、現場での例を示しながら違いについて理解する。</p> <p>第3回 紙を使用した表現活動—素材を知る 紙を使用した表現活動を考える。紙の加工方法(切る、折る、曲げる、切り起こす、切り抜く、編む)を確認する。また、ぐしゃぐしゃに丸めてボリュームを出す、水に浸してパルプ状にし感覚遊びに用いるなど、一つの素材が多様に利用できることを学ぶ。</p> <p>第4回 紙を使用した表現活動—導入の工夫と展開について 新聞紙などの紙を用いて、年齢に合わせた導入の工夫と展開について考える。指の力が弱い子どもには少し切り込みを入れて渡すと、裂くコツをつかむことができる。裂いたものをまるめたり、広げたり、音を出したり、つなぎ合わせるなどの展開を楽しむ。4～5歳児は見立て活動も活発なので、新聞紙を用いて仮装をしたり、剣とマントを使ってごっこ遊びにつなげられる。一つの素材を展開していく技術を学ぶ。</p> <p>第5回 水や氷(物質変化による造形)による表現活動 色水を凍らせて色を楽しんだり、霧吹きを使って水を霧状にし、布に絵を描くことができる。またパステルで描いた絵を氷で濡らして偶然の色の混色を楽しむなど、いろいろな水の状態によって見える色の違いを体験し、感覚を取り入れた造形遊びに展開できることを学ぶ。</p> <p>第6回 風と色による表現活動 スズランテープなどを園庭に張り巡らし、風によってはためく音と、テープのたなびく色彩を楽しむ。張り巡らす身体活動が学生の軌跡を残し、音を生み、巨大な色と音の作品へと変化する。自然環境を取り入れながら表現活動を行う体験を通して、環境の取り入れ方について考える機会を与える。</p> <p>第7回 音と色による表現活動(1)—探した音・見つけた音を、色とカタチで表現する 学生になじみのない楽器などを使用し、目を閉じた状態で音を聴いてもらい、聞いた音をスケッチブックに色と形で表現してもらおう。聴覚を視覚へと変換する作業である。また学内を散歩し、聞こえた音を色と形で表現し、発表する機会を与える。感覚を変換し、表現することの楽しさを学ぶ。</p> <p>第8回 音と色による表現活動(2)—カタチと色から音を探る 第7回とは逆に、色と形から音を表現してみる。鍵盤楽器や、マラカスなどの打楽器などを用い、聴覚を視覚作品へと変換する作業を楽しむ。グループでまとめてみたり、それらを全体でつなげて一つの曲にするなどして、展開方法を学ぶ。</p> <p>第9回 動きと色による表現活動(1)—動きに合わせて生まれるカタチと色 液体の絵の具を大きい布かロール紙にドリッピングする。腕の動きによってラインやドットが生まれる。大きな動きをした時と、小さな動きをしたときの表現の差を体験し、身体の動きに合わせて生まれる形と色について学ぶ。</p> <p>第10回 動きと色による表現活動(2)—色から生まれる身体表現 色の明度・色相・彩度から受ける印象の違いについて解説し、提示した色によって感情や身体の動きで色を表現する。明度の高い色、低い色、彩度の高い色、低い色を身体全体で表現し、色の持つ性質を身体や感情で感じ取る。</p> <p>第11回 沖縄の植物から色をとる 自分が生まれ育った土地に、どのような植物があり、どのような色を持っているのかを知る。浸染では、昔から染め物に使われてきたフクギの葉を用い、鮮やかな黄色に染まることを体験する。たたき染めでは、改めて葉の形や色を観察するきっかけを持つことができる。造形的に楽しみながらも、科学的な目を育てることもつながることを体験を通して学ぶ。</p> <p>第12回 沖縄の土で遊ぶ・染める 沖縄の赤土を使って染める。赤土の水でじゃばじゃば染める作業は子どもたちの喜ぶ作業の一つであることを伝え、学生に追体験してもらおう。じゃばじゃば染を体験し、喜ぶ子どもだけではなく、汚れることに抵抗ある子どもへの声掛けや対応についても考えてみる。</p> <p>第13回 廃材を利用した造形活動—指導案立案 廃材を利用した造形活動をするにあたり、学生自身が廃材を収集するところから始める。子ども</p>

	<p>たちが興味を持つ廃材にはどのようなものがあるのか、それらはどのような道具で接着することが可能なのかなど、廃材の特性について考慮しながら、どのような活動ができるのかを提案し合い、指導案を立案する。</p> <p>第14回 廃材を利用した造形活動－模擬授業 実際に立てた指導案に基づき、保育士役と子ども役にわかれて模擬授業を行う。時間が来たら保育士役と子ども役を入れ替える。どういう声掛けや導き方ができるのか、また廃材を用いるときにあると便利な道具などについても考えてみる。</p> <p>第15回 模擬授業の振り返りとまとめ－表現と素材について－ 模擬授業を映像や画像を通して振り返り、気づいたことなどを発表し、意見交換を行う。廃材を利用する際に安全面などで気を付けることがあったか、あれば便利だと感じた道具や、面白い展開ができた素材などについて意見を述べる。また、子どもへの声掛けは適切だったかについて発表する。</p>
授業の概要	子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、造形作品の製作と鑑賞を通じて身につける。様々な素材・教材や用具の特性を理解し、保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とする。また終盤に具体的な図画工作の活動案の提案・模擬授業・ふり返りを行い、実践力を養う。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
参考書	内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館  福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート－プロジェクトアプローチの実践から－』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、村田浩子『子どもと楽しむ染め時間!』（かもがわ出版, 2013）
評価方法・評価基準	<p>演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で制作した作品・発表 70% 指導案・模擬授業 10% 小レポート 10% 授業態度 10%</p> <p>【D P 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	佐久本：毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室 荻谷：講義終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	演習に関しては、課題完成後の鑑賞の時間を用い、フィードバックを行う。 指導案や小レポートなどの提出物に関しては、採点后学生のメールボックスへ返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 主にグループでの共同製作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたく」や「ごっこ」のイメージ的な側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開、および環境構成について考える。</p> <p>【到達目標】 ごっこ遊びや見立て遊びなど、身体表現、音楽表現、言語表現なども重なった総合的な「表現」に展開するために必要な、造形表現からのアプローチに関する知識や技術を習得することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明－図画工作Ⅱの目的と内容について－ 画像資料や映像資料を使い、図画工作Ⅱの内容と目的について解説を行う。また、簡単なグループ創作活動を行い、コミュニケーションと表現とのかかわりについて理解を深める。</p> <p>第2回 版による造形表現(1)－雑材の収集とその造形性：教材の意味と導入の工夫 反復模様を生成する楽しさや面白さなど、版についての基礎について学ぶ。また雑材を用い、普段目にしていない形と、版として現れる形との違いに対する新鮮な驚きを体験する。どういった素材が面白い形を生み出すのか、材料研究を行う。</p> <p>第3回 版による造形表現(2)－雑材の収集とその造形性－：広がりのある展開とは？ 前回行った材料研究をもとに、それぞれに切り抜いた厚紙を台紙に雑材組み合わせ、台紙に接着し、一つの版を製作する。</p> <p>第4回 「みたく」による造形表現(3)－雑材の収集とその造形性－：振り返り それぞれの版を持ち寄り、ローラーや筆を使って版に絵の具を乗せ、一反の布に摺り上げ、一枚の大きな作品とする。表現が一つになり大きな画面となることで、作品に幅と深みがでることを体験する。</p> <p>第5回 「ごっこあそび」を通した造形表現(1)：教材の意味 4～5歳児からさかんになるごっこ遊びの事例を紹介し、何者かになりきることへの楽しさをについて確認する。ごっこ遊びをいかした造形遊びについて例を提示し、学生のごっこ遊びに対する意見も聞いてみる。</p> <p>第6回 「ごっこあそび」を通した造形表現(2)：魅力的な導入について 「名前」「性格」「特徴」を書いたくじをひとつずつ引いてもらい、自分のキャラクターを設定する。想定外の奇抜な名前や特徴などの、様々な要素の組み合わせが作り手のイメージを刺激することを体験する。そして自分で引いたくじをもとにキャラクターをデザインする。</p> <p>第7回 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：広がりのある展開とは？ 決定したキャラクターのお面を製作する。色や形、大きさについて、キャラクターの性格や特徴が伝わるようなお面を製作する。</p> <p>第8回 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：振り返り 仕上がったお面を持ちながら、キャラクターになりきって自己紹介をする。また他の学生がインタビューを行い、お面の学生はキャラクターになりきって受け答えをする。 振り返りを行い、キャラクターになりきったことで自分の中にどのような変化が起こったか話してもらい、学生間で意見を共有する。</p> <p>第9回 日常を「異化」する表現活動－光と影を楽しむ カラーセロハンを用いてガラス窓を装飾してもらおう。スタンドグラスのような光の色を楽しむ。また、無造作につなぎ合わせたカラーセロハンを校庭に持ち出し、太陽光を通して現れる色の影の美しさを体験する。</p> <p>第10回 コミュニケーションを通した造形活動(1)－つながる地図について 画像資料を基に、造形発達段階の視点から、子どもの絵地図の表現の変化について学ぶ。トポロジ的空間がユークリッド的空間へと徐々に変化する過程を確認し、4.5歳児を対象とした絵地図制作について考えてみる。次週から制作がスタートすることを踏まえ、段ボールや廃材などの素材を収集する。</p> <p>第11回 コミュニケーションを通した造形活動(1)－グループの世界をつくる 4～6人規模のグループを作成し、それぞれの夢の世界を作り上げる。コミュニケーションを通して、一つ世界観を作り上げることの楽しさを体験する。</p> <p>第12回 コミュニケーションを通した造形活動(2)－広がりのある製作にするには 各グループから打ち出されたテーマに沿って、地図を作り上げる。</p> <p>第13回 コミュニケーションを通した造形活動(3)－地図のつながり合わせと振り返り 隣のグループとコミュニケーションを取りながら、地図をつなげ世界を広げていく。最終的には一つの世界となる。完成後、各グループの世界についてそれぞれ発表してもらい、鑑賞する。世界観を共有し作り上げた感想等を述べてもらい、振り返りを行う。</p> <p>第14回 子どもたちの創造性を刺激する創作活動環境について考える 楽しかったり、嬉しかったり、驚いたりといった子どもの心に湧き上がる感情があって、初めて創作活動へと繋がるということを再確認する。またそのような体験は保育士や子どもどうしのかかわり、また自然環境とのかかわりから生まれるものであり、創作活動にとって体験を生み出す環境がいかに大切なのかについて理解を深める。</p> <p>第15回 子どもたちの創造性を刺激する働きかけについて考える－海外の現場の事例から レジャエミリアをはじめとする海外の幼児造形教育の現場について、映像や画像を用いて紹介する。学生がかつて経験したことのある創作活動との類似点や相違点について考え、意見を述べあう。</p>

授業の概要	図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」や「ごっこ遊び」を活発にするような共同製作について考え、提案し、取り組む。主にグループワークに取り組むことで、共同製作時の声掛けや環境設定における留意点についても考えてみる。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。また廃材などの準備があるので、教材内容をよく考えながら事前に様々な材料を収集すること。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった製作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布
参考書	<p>福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から一』 小学館、小串里子著 『みんなのアートワークショップ～子どもの造形からアートへ～』 2011年 武蔵野美術大学出版、平田智久・小林紀子・砂上史子編 『保育内容「表現」』 2015年 ミネルヴァ書房、</p> <p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館  文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館  内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館  厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館  厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法・評価基準	<p>演習でした作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で製作した作品・発表 60%  小レポート 30%  授業態度 10%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物がが必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	課題が終了するごとに、製作したグループワークの鑑賞を行う。その後、各学生に振り返りのレポートを提出してもらい、採点後に講義内、もしくはメールボックスにて返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋桂 真栄城勉			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。</li> <li>・子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得するとともに、模擬保育を通して実践力を養う。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動遊びを実践する際の環境設定、声かけの仕方等、具体的な展開方法を学び、模擬保育に活かすことが出来る。</li> <li>2) 子どもの発達段階に合わせた運動遊びの種類や方法について学び、具体的な保育場面を想定した指導案の作成が出来る。</li> <li>3) 自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善し続ける視点を持つことが出来る。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、学習計画と模擬保育の担当分担、幼児期の運動特性についての理解についてシラバスを確認しながら、授業の内容、評価方法等についてオリエンテーションを行った後、グループ分けと模擬保育の担当分担を行う。幼児期運動指針の内容を確認して、幼児期の運動特性について学ぶ。</p> <p>第2回 保育者に必要な力「体力」、集団行動、運動遊びの体験 子どもの体力や遊びの現状について知り、運動遊びの効果と、運動遊びの実践において保育者に求められている資質について学ぶ。その後、具体的な運動遊びについて実際に体験してみる。</p> <p>第3回 指導案作成の方法、展開の仕方、運動遊びの体験 具体的な保育場面を想定した指導案の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。</p> <p>第4回 鬼ごっこ・ルール遊び(1) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p> <p>第5回 鬼ごっこ・ルール遊び(2) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、様々な種類の鬼ごっこについて紹介と体験を行う。</p> <p>第6回 フォークダンス 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、フォークダンスのステップの種類について紹介する。</p> <p>第7回 体操遊び、力比べ遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、体操遊びと力比べ遊びのバリエーションについて紹介する。</p> <p>第8回 身近な素材で運動遊び ペットボトルや新聞、ビニール袋等の身近にある素材を使った運動遊びの模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、身近な素材を使った運動遊びの事例について体験しながら紹介を行う。</p> <p>第9回 からだの使い方(動作体験) 動作法の体験から、こころとからだの関係について学ぶ。具体的には、日常の活動の中で起こってくるこころの緊張とからだの緊張について理解を深め、からだの使い方を変えることで対処していく方法について紹介する。</p> <p>第10回 ストーリーゲーム 絵本等の物語の世界と運動を結びつけて行う運動遊びの模擬保育実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、子どもの想像力・表現力を活かした運動遊びの実践について紹介する。</p> <p>第11回 ボール遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、新しい子ども向けのボール遊びの紹介を行う。</p> <p>第12回 かけっこ遊び、とびっこ遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。かけっこ遊びととびっこ遊びのバリエーションについて紹介する。</p> <p>第13回 なわ遊び(大なわ、短なわ) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。なわ跳びだけではなく、なわを工夫して使うことによる遊びを紹介する。</p> <p>第14回 大型遊具遊び(1)(マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台) マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p>

	第15回 大型遊具遊び(2) (マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台) マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験とその指導法について学ぶ。安全な環境の設定、援助の方法の他、子どもへの声かけの仕方、活動の評価について学ぶ。
授業の概要	1) 幼児期運動指針の内容を理解し、子どもの健全な発達のために運動遊びが果たす役割について学ぶ。 2) 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、導上の留意点を学ぶ。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省; 幼児期運動指針策定委員会) 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	授業への参加度 (30%)、課題発表 (50%)、レポート (20%)などを総合して行う。  【D P 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 服装は、運動の出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 島 袋 : 毎週**曜日 **限目 島袋研究室 (仮) 真栄城 : 授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	・模擬保育の実践については、評価して講義内でそのフィードバックを行う。 ・指導案とレポートは、評価して返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>1) 保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。</p> <p>2) 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) マット、跳び箱、鉄棒の基礎課題研究について、課題を達成するための努力が出来るとともに、安全な補助が出来るようになる。</p> <p>2) 様々な運動遊びを通して、子どもの遊びに対する欲求を理解し、子どもとともにからだを動かして楽しめる保育者としての視点を持つことが出来る。</p> <p>3) 伝承遊びや伝統芸能の体験を通して、郷土の文化を理解し、子どもたちに郷土の良さを伝えることが出来る。</p> <p>4) 保育者としての表現力を磨き、身体表現による作品づくりを創作することが出来る。</p> <p>5) グループの活動において、仲間と協力・協働してそれぞれの活動に取り組むことが出来るようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、グループ編成、実習を通しての幼児の運動と環境についての振り返り シラバスを確認しながら、授業内容、授業計画、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、グループの編成と担当分担を行う。その他、実習の振り返りを行う。</p> <p>第2回 課題研究①・あやとり遊び 基礎課題研究として、マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の課題の紹介と練習を行う。用具の安全な使用の仕方、準備・片付けについても学習する。その他、あやとり遊びの紹介をする。</p> <p>第3回 課題研究②・なわ遊び マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）のと練習を行う。練習を通して、安全な援助の仕方について学ぶ他、情報機器を活用した課題の分析方法とそのフィードバックの方法についても紹介する。その他、なわ遊びについての紹介も行う。</p> <p>第4回 課題研究③お手玉遊び・鉄棒、マット、跳び箱のテスト 基礎課題研究のマット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の試験を行う。また、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。</p> <p>第5回 歩け歩け園外保育の企画と展開 担当者は園外保育（お散歩）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。園外での活動が子どもの運動にとってどのような効果をもたらしているかについて学ぶ他、安全教育の視点についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>第6回 公園でミニ運動会の企画と展開 担当者は園外保育（公園）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。公園にある遊具や自然を生かした運動遊びの展開方法について学ぶ他、環境保全の活動についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>第7回 わらべ歌で遊ぼう トランポリン（1） 様々な種類のわらべ歌遊びの体験を行う。一般的なわらべ歌遊びの他、沖縄のわらべ歌遊びについても体験し、郷土の文化とその背景を理解する。トランポリンの基本的な跳び方と安全管理について学習する。</p> <p>第8回 伝承遊びで遊ぼう トランポリン（2） 伝承遊びのビデオを視聴し、その後実際に伝承遊びの体験を行う。伝承遊びのルーツや魅力について理解し、現場で実践する力をつける。トランポリンでは、数種類の技を紹介し、挑戦してみる。</p> <p>第9回 身体表現で遊ぼう（1）・「幼児の身体表現（0歳から6歳まで）」（ビデオ鑑賞） 「幼児の身体表現」のビデオを視聴し、子どもの自由な身体表現を引き出す方法や声かけの仕方について学ぶ。最後にその内容についてレポートを作成する。</p> <p>第10回 身体表現で遊ぼう（2） 「表現力」について理解し、保育者に必要な表現力について学ぶ。具体的な身体表現遊びの体験を行いながら、子どもの表現力を引き出す方法を学ぶ。</p> <p>第11回 沖縄のリズムと動きで遊ぼう 外部講師を招き、琉球舞踊やカチャーシー、楽器の体験を行う。体験を通して、沖縄の文化について理解し、伝統芸能の魅力を子どもたちに伝える力をつける。</p> <p>第12回 作品づくり（1）と発表 テーマ（課題曲）に沿って、各グループで身体表現の創作を行う。グループでの協働の仕方や創作プロセスについて学ぶ。授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>第13回 作品づくり（2）と発表 沖縄の曲に合わせて各グループで身体表現の創作を行う。沖縄の伝統芸能で用いられる楽器や道具も使いながら、作品を創作する授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>第14回 作品づくり（3-1）、創作 各グループで身体表現による創作の企画・演出を練り、その練習を行う。作品は15分以内とし、翌週（15回）に発表を行う。</p> <p>第15回 作品づくり（3-2）と発表・まとめ 各グループで最終作品の発表を行う。それぞれの作品発表に対して評価し、フィードバックを行</p>

	う。最後に講義のまとめを行う。
授業の概要	1) 大型移動遊具の基礎技能の習得や、環境設定、安全な補助法について学ぶとともに、それぞれの課題について評価方法を学ぶ。 2) 仲間と協力しながら、戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する方法を学ぶ。 3) いろいろな動きの体験、歌やリズムにのって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省：幼児期運動指針策定委員会） 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	授業態度50% 受講者の発表30% 小テスト・授業内レポート20%  【DP 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 運動出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 島袋研究室
課題に対するフィードバック方法	・テストやレポート等は、評価した後、各自に返却する。



講義科目名称：飼育栽培

授業コード：

英文科目名称：Feeding and Growing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
照屋 建太			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて実体験しながら学ぶ。また、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 多くの保育現場で飼育や栽培が行われている。乳幼児にその影響がどのようにあるのか、そして、なぜ飼育や栽培を行う必要があるかについて実際に活動を行うことで理解することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、飼育栽培の意義について、グループ分け飼育や栽培活動がなぜ保育に必要か講義し、実際に飼育や栽培するグループに分かれ活動内容を考える。</p> <p>第2回 基礎学習①（植物の分類と特徴） 植物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。</p> <p>第3回 飼育栽培実習①（生き物を世話するための準備） 生き物の世話をするために必要な道具を準備し、環境を整える。</p> <p>第4回 飼育栽培実習②（生き物の世話における注意点） グループで選択した飼育動物や栽培植物の飼育場の注意点をしっかり理解する。その後、世話をを行う。</p> <p>第5回 基礎学習②（動物の分類と特徴） 動物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。</p> <p>第6回 飼育栽培実習③（生き物の環境維持） グループで世話をしている生き物の環境管理をしっかり継続する。</p> <p>第7回 飼育栽培実習④（生き物の観察） グループで世話をしている生き物の変化に気付き、環境維持に努める方法を理解し、実践する。</p> <p>第8回 基礎学習③（飼育や栽培における土の影響） 生き物への土壌の影響を学び、理解する。</p> <p>第9回 飼育栽培実習⑤（生き物の観察と病気） 生き物の病気や害虫の種類、そしてその対処方法について学び、実践する。</p> <p>第10回 飼育栽培実習⑥（生き物の命の大切さ） 生き物を育てる上で、命の大切さ、自然の尊さについて考える。</p> <p>第11回 基礎学習④（飼育や栽培における天気の影響） 生き物への天気の影響を学び、理解する。</p> <p>第12回 レポート作成①（レポートの書き方） グループ発表に向けてのレポート作成を行う。</p> <p>第13回 レポート作成②（レポートとパワーポイント作成の要点） グループ発表に向けてのレポート作成およびパワーポイントの作成の要点を学ぶ。</p> <p>第14回 パワーポイントの作成とレポートの作成 グループ発表に向けてのレポート作成を行い、提出する。また、パワーポイントの作成を行う</p> <p>第15回 グループ発表 各グループの飼育および栽培の結果について、レポートとともにパワーポイントを使用し発表する。</p>
授業の概要	<p>“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行い、人、社会、自然及び自分自身の生活についても考える。</p>
予習	<p>グループで飼育や栽培する生き物について事前に調べる。不明な点については、講義内に質問する。</p>
復習	<p>生き物の飼育や栽培をしっかり行う。その後、観察ファイルに記録する。活動について不明な点については、次回の講義にて質問する。</p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 必要に応じてプリントを配る。</p>
参考書	<p>その他、必要に応じて紹介する。</p>
評価方法・評価基準	<p>課題（20%）、発表（20%）、飼育に対する責任（20%）、受講態度（30%）、小テスト（10%）</p>

	<p>【D P1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義には積極的に参加し、レポートは参考文献を利用してまとめること。提出物の提出期限をしっかりと守ること。レポート発表は、パワーポイントを用いて行い、質問に対しても的確に答えること。生き物の世話をしっかりと行うこと。欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>提出されたレポートは、講義最終日に各グループまとめて返却する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山盛 淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。</li> <li>豊かなことばの感性と表現力を身につける。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できるようになる。</li> <li>保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。</li> <li>言葉を豊かにする教材を選択できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「言葉とは？」講義の概要 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ本科目に関する概要を理解する。</p> <p>第2回 言葉をめぐるワークショップ 言葉の機能について学ぶ。</p> <p>第3回 保育内容としての「言葉」の歴史 「関連法令・子どもの権利条約」などに関連した保育内容としての「言葉」の歴史を学ぶ。</p> <p>第4回 保育内容としての「言葉」の歴史 「要領・指針・認定子ども園」などに関連した保育内容としての「言葉」の歴史を学ぶ。</p> <p>第5回 乳幼児の発達と言葉① 言葉を話す前の「言葉の育つ道すじ」について学ぶ。</p> <p>第6回 乳幼児の発達と言葉② 言葉を話せるようになってからの「言葉の育つ道すじ」について学ぶ。</p> <p>第7回 乳幼児の発達と言葉③ 言葉の育つ道すじ(3歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第8回 乳幼児の発達と言葉④ 言葉の育つ道すじ(4歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第9回 乳幼児の発達と言葉⑤ 言葉の育つ道すじ(5歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第10回 言葉を育てる児童文化と地域文化① 地域の昔話を学ぶ(学生発表：前半・反省)</p> <p>第11回 言葉を育てる児童文化と地域文化② 地域の昔話を学ぶ(学生発表：後半・まとめ)</p> <p>第12回 言葉を育てるための保育者の関わり・役割 言葉に障害がある子へのかかわりについて学ぶ。</p> <p>第13回 指導計画と「ことば」 領域「ことば」を意識した指導計画について学ぶ。</p> <p>第14回 家庭との連携と「ことば」 クラスだよりについて学ぶ。</p> <p>第15回 ことばをめぐる新たな課題 メディアの発達、英語教育等とことばの発達に与える影響について学ぶ。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい(互いの関係性)」等を軸に乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ。
予習	事前に教科書を読み、授業内容をイメージしておく(特に乳幼児の発達段階)
復習	課題、まとめを読み、内容をより理解し、次の授業と関連づけができるよう努める
テキスト	『実践につなぐ 言葉と保育』近藤幹生 他
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書</li> <li>内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</li> <li>内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</li> <li>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館</li> <li>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館</li> </ul>

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>期末試験：30% 課題・実技・演習への取り組み：30% 授業態度：15% 受講者の発表：10% 演習：15%</p> <p><b>【D P 1～4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>(仮) 毎週**曜日 **限目 山盛研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題やプリントは、評価後に返却します。</p>

講義科目名称：保育課程総論

授業コード：

英文科目名称：Curriculum for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【目標及びテーマ】</b></p> <p>(1) 幼児教育施設において教育課程や保育の全体的計画が有する役割、機能、意義を理解する。</p> <p>(2) 教育課程領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>(3) 領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・カリキュラムの基礎理論と関連法規 カリキュラムの根拠規定、学校教育法、教育基本法において教育が行われることや児童福祉法に基づいて保育が行われること、また、カリキュラム（保育の全体的な計画）が作成されることへの理解</p> <p>第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児教育における基本と我が国の幼児教育のガイドライン（幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の意義と施行における告示</p> <p>第3回 幼稚園教育要領と教育課程、指導計画（カリキュラムマネジメント） 幼稚園教育要領が目指すものと幼稚園教育における教育課程の基本的な考え方、基本方針、カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>第4回 保育所保育指針と保育の全体的な計画 保育所保育における基本的原則（保育所の役割、目標、方法、環境、社会的責任）と保育の全体的な計画の基本的な考え方と基本方針</p> <p>第5回 教育課程と指導計画 幼稚園の教育目標と教育課程の役割と指導計画の考え方と作成上の留意事項および短期の指導計画作成</p> <p>第6回 教育課程の編成 学校教育法、教育基本法の関係法規と教育課程の編成上の基本的事項および編成上の留意事項</p> <p>第7回 教育課程と保育の全体的計画における保育の計画と評価の意義 幼児理解に基づいた評価の必要性和計画、実践、振り返りと評価、再実践の意義</p> <p>第8回 保育所保育指針と保育の全体的な計画と指導計画（カリキュラムマネジメント） 児童福祉法、保育所保育指針から捉える、保育の全体的計画と乳幼児理解に基づいた評価の必要性和保育の計画及び評価</p> <p>第9回 保育の全体的な計画の編成 保育所保育指針を基本として編成し、その編成における留意事項</p> <p>第10回 指導計画（短期）の作成の実際と作成上の留意点 短期の指導計画は、長期の指導計画に基づいていることへの理解と作成上の留意事項</p> <p>第11回 指導計画（長期的）の作成の実際と作成上の留意点 子どもの生活や発達を見通した全体的な計画であることへの理解と作成上の留意事項</p> <p>第12回 保育の省察及び記録の意義 保育を振り返り自己の保育を見つめ直すことへの必要性和記録をすることの意義</p> <p>第13回 幼稚園教諭・保育士及び幼児教育施設における自己評価 保育における評価の在り方と評価の意義と種類と方法</p> <p>第14回 カリキュラム評価の基本 カリキュラム評価の基本と意義</p> <p>第15回 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録 小学校以降の学習の基盤の育成につながる幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児教育施設において教育課程や保育の全体的計画が有する役割・機能・意義を理解する。また、教育課程の基本原則及び実践に即した教育課程や保育の全体的計画の方法を理解する。さらに、領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p>
予習	<p>対象年齢、発達段階を理解をしておくこと。</p>
復習	<p>指導の計画と評価について、教育課程や保育内容等を踏まえ、理論と実践の関係を深めること。</p>
テキスト	<p>石川 昭義 松川恵子編集 2015年『保育内容総論』中央法規出版株式会社</p>
参考書	<p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>試験80%・課題20%等で総合的に評価する。</p> <p><b>【D P 1～4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>日案作成においては、様式の項目内容を理解しておくこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日（12:00～13:00）研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題においては、提出を求め、必要に応じて個別に対応する。 課題は、評価して授業内に返却する。</p>

講義科目名称：保育者論

授業コード：

英文科目名称：Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会における教職や保育職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について学ぶ。特に、乳幼児期の教育・保育に関わる幼稚園教諭や保育士、保育教諭になるために、幼稚園教諭・保育士、保育教諭の役割と倫理、制度的位置づけ、職務内容等について学び、保育者の専門性について考察し、理解することができる。		
授業計画	第1回	講義概要説明。「幼稚園教諭・保育士になる」ということ 授業始めに講義概要を説明する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。	
	第2回	保育所保育士の仕事と役割 保育所保育士の仕事と役割について理解する。	
	第3回	幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。	
	第4回	保育教諭の仕事と役割 保育教諭の仕事と役割について理解する。	
	第5回	教育・保育に必要な子ども理解 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。	
	第6回	幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。	
	第7回	職場で学び合う専門家 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。	
	第8回	特別支援教育・保育 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。	
	第9回	子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。	
	第10回	現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。	
	第11回	幼稚園教諭・保育士の職務：服務、研修、身分保障 幼稚園教諭や保育士の服務や研修、身分保障について学び、その職務を理解する。	
	第12回	幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。	
	第13回	幼稚園教諭・保育士の権利 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。	
	第14回	専門職間及び関係機関との連携 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。	
	第15回	幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。	
	第16回	定期試験	
授業の概要	幼稚園教諭・保育士、保育教諭の役割や倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解する。		
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない用語は調べておくこと。 各回、約2時間の事前学習を要する。		
復習	授業で学んだ箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。 各回、約2時間の事後学習を要する。		
テキスト	編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 2016 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第3版』 みらい 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館		
参考書	ミネルヴァ書房編集部 [編] 2018年 『保育小六法2018 [平成30年版]』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。		

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。</p> <p>【DP 1~4との関連】..</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
<p>履修上の注意</p>	<p>講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。提出物の期限は厳守すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>西研3-8 系洲研究室 毎週木曜日 3限目</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題及びレポートは、評価後に返却する。</p>



講義科目名称：保育指導法ゼミ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to teaching methods in ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・糸洲理子・松田恵子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>(1) 乳幼児教育の幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針解説書を踏まえ、保育の基本や指導の考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、教育・保育の全体構造の理解 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方について説明 教育基本法や学校教育法において、教育がおこなわれることや児童福祉法に基づいて保育や行われることを理解し、教育・保育の全体的構造の理解</p> <p>第2回 子どもの生活と保育内容 子どもの生活と遊びの理解、養護と教育、5領域</p> <p>第3回 保育内容の歴史の変遷 6領域（健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作）から5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）と5領域の充実した内容への変遷。保育の目標、領域と保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）についての理解</p> <p>第4回 3歳未満児の発達と子ども理解 3歳未満児の生活と遊びから見える発達と子ども理解</p> <p>第5回 3歳以上児の発達と子ども理解 3歳以上の生活と遊びから見える発達と子ども理解</p> <p>第6回 幼児教育における環境構成をとおした保育（視聴覚教材の活用） 幼児教育における環境をとおして行う保育の基本とは、また、環境構成を通して行う保育について視聴覚教材を活用して把握</p> <p>第7回 幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり：遊びをとおしての総合的な指導 幼児教育における生活や遊びと5領域のねらいや内容とのつながりを見出し、その生活や遊びがどのようにつながっているかを知り、遊びをとおしての総合的な指導についての理解</p> <p>第8回 支援を要する子どもの理解とクラス運営 支援を要する子どもについて見識を深め、個々の状態に応じて指導内容や指導方法の工夫することの必要性やクラス運営の在り方について検討</p> <p>第9回 活動を分析し幼児教育における見方・考え方を話し合う：幼児期の教育と児童期の教育 幼児期と児童期への接続において、幼児期にふさわしい生活や遊びをとおした活動が児童期以降の生活や学習の基盤育成へつながることについて活動を分析しての話し合い</p> <p>第10回 幼児教育における教育課程、保育の全体的な計画・指導計画について 幼児教育の根拠法令（教育基本法、学校教育法、児童福祉法）および告示の意味を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて教育課程、保育の全体的な計画・指導計画の作成することの理解</p> <p>第11回 保育内容と計画のつながり（部分案作成） 部分案作成の作成方法について理解し、グループで乳幼児の発達と発達段階を把握し、生活や遊びから保育内容とのつながりを意識した部分案作成の検討</p> <p>第12回 模擬保育案の作成 グループで乳幼児の発達と発達段階を把握し、生活や遊びから保育内容とのつながりを意識した模擬保育案（部分案）の作成</p> <p>第13回 模擬保育 グループごとに模擬保育の実施</p> <p>第14回 模擬保育の振り返りと省察 個々人、模擬保育の実施した内容を部分案作成し、模擬保育を振り返り省察</p> <p>第15回 各領域の特性に応じた保育実践の動向と構想 領域の特性について理解し、領域の充実した内容を把握し保育実践の動向を構想</p>
授業の概要	<p>幼児教育の基本を踏まえ、保育の基本や指導の考え方を理解する。また、幼児教育は、環境を通して総合的に指導をすることを理解し、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。</p>
予習	<p>保育の目標、領域と保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について理解を深め、模擬保育案（部分案）作成および模擬保育を課す。</p>
復習	<p>保育の目標・子どもの発達・保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を関連付けて保育の全体的構造の理解を深める。</p>
テキスト	<p>入江礼子・榎沢良彦 編著、2018年『シードブック 改訂保育内容総論』建帛社</p>
参考書	<p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーバル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーバル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーバル館</p>

	厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	模擬保育案（部分案）作成（グループ・個人）（20%） 模擬保育（20%） 課題（①～⑥）（60%）  【D P 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	模擬保育案（部分案）作成（グループ・個人）で行う。 課題（①保育の目標について②養護と教育について③環境をとおして行う教育について：保育の基本）④教育課程について⑤保育内容について⑥遊びをとおした総合的な指導について）
オフィスアワー	赤嶺：毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室 糸洲：毎週木曜日 2限目 糸洲研究室 松田：授業終了後に教室で質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	課題や模擬保育案（部分案）等においては、講義内容の予習・復習を兼ねてその都度課す。 課題や模擬保育案（部分案）等においては、評価後、授業時に返却する。 模擬保育案（部分案）作成においては、提出を求め、必要に応じてグループおよび個人に対応する。

講義科目名称：保育カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：Counseling for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	1. 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリングの基礎的知識を獲得する。 2. 子ども理解・保護者理解に基づく支援方法を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、保育カウンセリング（保育相談支援）の意義 保育カウンセリング（保育相談支援）を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回 カウンセリングに関する理論 カウンセリング理論（ロジャーズ理論、育てるカウンセリング論）、精神分析（心理社会的発達理論）、行動理論を学ぶ。</p> <p>第3回 子ども理解と発達理論 子どもを理解するための発達理論を学ぶ。</p> <p>第4回 子ども理解の方法 観察と記録の方法、個と集団をとらえる視点を学ぶ。</p> <p>第5回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解） ロールプレイングを通して、受容・傾聴・共感的理解の重要性を学ぶ。</p> <p>第6回 カウンセリングの実践（アセスメント・対応・記録・職員間連携など） ケースに対するアセスメント・対応・記録・職員間連携について学ぶ。</p> <p>第7回 事例検討（離乳食・排泄） 事例を通して、離乳食の遅れ、排泄の自立についての支援方法を学ぶ。</p> <p>第8回 事例検討（アレルギー・歩行） 事例を通して、アレルギー児、歩行の遅い子への支援方法を学ぶ。</p> <p>第9回 事例検討（発達の遅れ・発達障がい） 事例を通して、ことばの遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ。</p> <p>第10回 事例検討（問題行動・不登園） 事例を通して、子どもの問題行動・不登園への支援方法を学ぶ。</p> <p>第11回 事例検討（いじめ） 事例を通して、いじめへの対応を学ぶ。</p> <p>第12回 事例検討（虐待） 事例を通して、虐待への対応を学ぶ。</p> <p>第13回 事例検討（乳児院） 乳児院での事例について学ぶ。</p> <p>第14回 関係機関等との連携 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携を学ぶ。</p> <p>第15回 支援になる連絡帳の書き方 保護者支援になる連絡帳の書き方を学ぶ。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリングの基本や子ども理解の方法について学ぶ。 事例検討（グループ討議）を通して子ども・保護者支援の実際について学ぶ。
予習	事例を事前に読み、支援方法を考える。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	講義内容、事例を振り返り、応用できるように努める。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	大野精一（編） 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 萌文書林、青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林、小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林から、講師作成資料を配布。その他、担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	定期試験40%、授業内レポート（毎時間提出）15%、グループ討議30%、発表5%、受講態度10%  【D P 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための

	<p>知識と技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	グループ討議を積極的に行うこと。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。

講義科目名称：教育実習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
授業計画	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義と目的および実習を臨むに於ける必要な事務手続きと留意事項</li> <li>・幼稚園教育の目的・目標と子どもの一日の生活、教師の役割</li> <li>・実習の内容と方法の理解、および保育内容の理解と事前計画と教材等の準備</li> <li>・一斉保育の保育方法の検討と指導案作成</li> <li>・支援を要する幼児の指導</li> <li>・教育実習先でのオリエンテーションおよび沿革・教育方針・運営等についての理解（事前訪問）</li> <li>・幼稚園教育実習先への観察学習（5月16日（水）～5月18日（金））いずれかの日に実習園と調整をして行うこと。</li> <li>また、支援を要する幼児の有無を確認し、指導の留意点等を把握し、実習までの事前学習</li> </ul> <p>教育実習の段階</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観察実習</li> <li>②参加/部分実習</li> <li>③部分/責任実習</li> <li>④預かり保育/他</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌</li> <li>・指導案</li> <li>・教育実習中間協議会</li> <li>・教員による巡回指導と実習園での反省会</li> </ul> <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習反省会</li> <li>・個別面談（教育実習の振り返りと自己の課題）</li> <li>・実習レポート</li> </ul>
授業の概要	教育内容を把握し教材研究を重ね、一斉保育の部分指導案を検討する。一斉保育の部分案作成し、模擬保育を行う。
予習	与えられた課題を準備し出席する。実習期間（9月）を考慮し、教材研究（教育内容および実習内容・他）を課す。実習先の方針や目標、指導計画などを勘案し教材研究および一斉指導の指導案を作成すること。
復習	学習した知識・技術の要点を整理し、実習の場で活用できるようにする。
テキスト	文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 その他必要な資料は担当者が準備する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	実習園からの評価資料（40%）、実習日誌（40%）実習レポート（20%）等で総合的に評価する。  【DP 1～4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。実習指導を履修している者。免許取得の関連において後期の開設科目に「保育・教職実践演習」があります。その科目は、自己の課題を認識し教師として最小限必要な資質能力を形成する目的をもった科目です。そのため、幼稚園教育実習後、自己の課題を認識できるようにしておくこと。また、その開設科目に支障がないように幼稚園教育実習を終えておくこと。
オフィスアワー	毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は、提出を求め評価後に、授業内で返却します。

講義科目名称：視聴覚教育

授業コード：

英文科目名称：Audio Visual Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	視聴覚教材の意義を理解し、保育内容を意識した、視聴覚教材を製作する。また、教材の演出（演じ方・他）方法を研究し基本的な技術・能力を養う。		
授業計画	第1回	幼児教育における視聴覚教育の意義 エプロンシターとは、 パネルシターとは、 軍手人形とは、 ペープサートとは、	
	第2回	視聴覚教育と保育内容を意識したニコニコシアター（大型）の教育方法と意義 保育内容を認識する。	
	第3回	視聴覚教育と保育内容を意識したニコニコシアター（大型）の教材観と活用方法の実際（年長） 年長に、どのような教材観があるのか分析・検討する。	
	第4回	視聴覚教育と保育内容を意識したニコニコシタターの教材観と活用方法の実際（年少） 年少に、どのような教材観があるのか分析・検討する	
	第5回	視聴覚教育の保育内容を意識した軍手人形・ペープサートの意義 軍手人形やペープサートの良さを見出す。	
	第6回	視聴覚教育と保育内容を意識した軍手人形・ペープサートの教材観と活用方法の実際（年長） 年長に、どのような教材観があるのか分析・検討する。	
	第7回	視聴覚教育と保育内容を意識した軍手人形・ペープサートの教材観と活用方法の実際（年少） 年少に、どのような教材観があるのか分析・検討する。	
	第8回	視聴覚教育の保育内容を意識したエプロンシター・パネルシターの意義 エプロンシター・パネルシターを保育に導入する良さを見出す。	
	第9回	視聴覚教育と保育内容を意識した軍手人形・ペープサートの教材観と活用方法の実際（年長） 年長に、どのような教材観があるのか分析・検討する。	
	第10回	視聴覚教育と保育内容を意識した軍手人形・ペープサートの教材観と活用方法の実際（年少） 年少に、どのような教材観があるのか分析・検討する。	
	第11回	視聴覚教育の保育内容を意識したエプロンシター・パネルシターの意義	
	第12回	視聴覚教育と保育内容を意識したエプロンシター・パネルシターの教材観と活用方法の実際（年長）	
	第13回	視聴覚教育と保育内容を意識したエプロンシター・パネルシターの教材観と活用方法の実際（年少）	
	第14回	保育内容に基づいた教材研究と教材開発（ニコニコシアター・軍手人形・ペープサート・エプロンシター・パネルシター・他）	
	第15回	まとめと指導案作成（視聴覚教育の意義と教育方法）	
授業の概要	保育における「視聴覚教材」の意義を理解する。幼児の豊かな感性を育くむための教材を研究し保育内容を意識した視聴覚教材を製作する。また作品発表を経験することで演出方法の素養を身につける。		
予習	年少・年長向け、大型視聴覚教材を含む4点の製作内容を事前に準備をしておくこと。		
復習	必要に応じて作品を修正し視聴覚教材の知識と技能を高める。また、演出方法を工夫する。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・評価基準	視聴覚教材（年少・年長向け、大型視聴覚教材を含む4点）80%、作品発表、課題（教材観・演出方法の研究）、作品の教材観・保育内容に関する教材研究20%等で総合的に評価する。  【DP 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。		

	○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	作品においては、視聴覚でなければならない作品も課す。
オフィスアワー	毎週月曜日、（12:00～13:00）研究室
課題に対するフィードバック方法	製作作品においては、必要に応じて製作方法のアドバイスをを行う。また、その製作作品の保育内容や教材観など、多様な視点で、アドバイスをする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解します。</li> <li>2. 観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深めます。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育(利用者の支援)および保護者(家族)への支援について総合的に学びます。</li> <li>4. 保育(支援)の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解します。</li> <li>5. 保育士(支援員)の業務内容や職業倫理について具体的に学びます。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>保育士(支援員)の業務内容と職業倫理について実習を通し理解することができる。利用者(子ども)の養護や適切な生活習慣を身に付けることを目標に、自立するための援助を行うことができるようになる。また利用者(子ども)の学習、社会性、個性を育むことなどの支援や援助を行うことができるようになる。</p>
授業計画	<p>&lt;居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設における実習の内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2. 子ども(利用者)理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子ども(利用者)の観察とその記録</li> <li>(2) 個々の状態に応じた援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 養護内容・生活環境       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助</li> <li>(2) 子ども(利用者)の心身の状態に応じた対応</li> <li>(3) 子ども(利用者)の活動と生活の環境</li> <li>(4) 健康管理、安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>4. 計画と記録       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と倫理       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>
授業の概要	施設実習指導を履修した学生が、居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設での実習を通じて、施設と利用者についての理解を深め、とりわけ基本的な生活習慣の指導法や利用者との信頼関係のきづきかた等について体験的に学習するとともに、広く施設における保育士の職務内容・役割ならびに他の専門職員とのチームワークのあり方などを学びます。
予習	実習施設の最終決定までに、施設についてよく調べ、見学またはボランティアをおこなうこと。
復習	反省会と実習評価のための個人面談において、実習についてよく振り返り、発言すること。
テキスト	特になし。
参考書	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>フレーベル 2018年 『ミネルヴァ社会福祉六法2018』</p>
評価方法・評価基準	<p>実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。</p> <p>実習担当者の評価(日誌、レポート、反省会、訪問指導、面談等による) 50%</p> <p>実習施設評価 50%</p> <p>【D P 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	施設での実習オリエンテーションが実習開始と心得、実習日誌および実習レポートを期限内に提出して実習終了と心得ること
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方	実習後に反省会を行い、その後個別、もしくはグループ面談を通して行う。





開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。</li> <li>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護について理解するとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>4. 保育士としての自己の課題を明確化する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>児童福祉施設等で実習することにより、施設保育士としての知識・技術を獲得し、自己課題を明確にすることができる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割と機能</li> <li>2. 施設における支援の実際       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受容し、共感する態度</li> <li>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>(3) 個別支援計画の作成と実践</li> <li>(4) 子どもの家族への支援と対応</li> <li>(5) 多様な専門職との連携</li> <li>(6) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</li> <li>4. 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>
授業の概要	施設実習Ⅰ、相談援助、社会的養護内容等諸科目で習得した知識と経験を踏まえ、児童福祉施設等で実習することによって、保育士として必要な態度や知識・技術を獲得し、自己課題を明確にする。
予習	実習施設についてよく調べ、事前訪問（見学またはボランティア）をおこなう。実習施設の利用者の特性や支援について学ぶ。
復習	反省会と個人面談において、実習についてよく振り返り、自己課題を明確にする。
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 2014年 『施設実習パーフェクトガイド』 わかば社 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
参考書	実習施設の分野別に適宜紹介します。
評価方法・評価基準	<p>実習施設の評価50% 実習担当教員の評価（実習日誌、レポート）50%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	実習施設のオリエンテーションが実習開始と心得ること。実習中は、毎日実習日誌を記録し施設に提出すること。実習後は期限内に日誌を施設に提出し、その後、実習レポートとともに大学に提出すること。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 研究室 実習中は、メールで質問に答えます。 メールアドレス：rie@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	実習日誌・レポートは、評価後、返却します。

講義科目名称：海外幼児教育研究

授業コード：

英文科目名称：Overseas Studies for ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
照屋 建太			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 就学前の保育・幼児教育について世界の事例を参考にし、各自の知見を広げる。また、異文化理解を通して多文化へ共生する力をつける。</p> <p>【到達目標】 世界の様々な保育方法を学び、各自の保育理念について再認識することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、海外の保育・幼児教育とは 海外の保育・幼児教育を学ぶ意義を考える。</p> <p>第2回 海外の保育・幼児教育について①（カナダ・イギリス） カナダ・イギリスについて保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第3回 海外の保育・幼児教育について②（フランス・スウェーデン） フランス・スウェーデンについて保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第4回 海外の保育・幼児教育について③（中国・タイ） 中国・タイについて保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第5回 海外の保育・幼児教育について④（アメリカ） アメリカについて保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第6回 発展途上国における保育・幼児教育 発展途上国における保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第7回 海外の保育・幼児教育について⑤（ハワイ州の事例） ハワイ州の保育について事例を踏まえて解説する。</p> <p>第8回 日本の保育・幼児教育 日本の保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第9回 沖縄の保育・幼児教育について 沖縄の保育・幼児教育の解説を行う。</p> <p>第10回 学びの発表①（グループ調査） これまでの学びからグループで国を選び、さらに海外と日本の保育を調べる。</p> <p>第11回 学びの発表②（グループ調査およびまとめ） グループで選んだ国についてまとめ、発表の準備をする。</p> <p>第12回 学びの発表③（グループ発表） 各グループの発表を行い、質疑応答から学びを深める。</p> <p>第13回 学びの発表④（グループ発表と総括） 各グループの発表を行い、質疑応答から学びを深める。最後に、総括を行う。</p> <p>第14回 海外と沖縄文化の比較と理解①（調査） 沖縄の文化施設を巡り、海外との文化比較について実際に体験し学ぶ。</p> <p>第15回 海外と沖縄文化の比較と理解②（まとめ） 沖縄の文化施設を巡り、学んだことをまとめレポートを提出する。</p>
授業の概要	我が国の保育・幼児教育と他国の保育・幼児教育について学ぶ。その学びを通して、多角的な視野を育て、自らの保育・幼児教育について考える。国際的な視野をもち、異文化について理解するとともに、自国の文化についても理解を深める。
予習	講義内容について事前に調べ、次回の講義に参加する。
復習	講義内容を振り返り、学んだ知識を活用できるように努める。
テキスト	必要に応じて配布する。
参考書	<p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館          文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館          厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館          厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館          内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館          内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館          必要に応じてプリントを配布する。</p>
評価方法・評価基準	<p>課題まとめ20%，課題発表50%，受講態度10%，レポート20%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li><li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li></ul>
履修上の注意	後期に行われる海外幼児教育研修に参加予定の学生は、必須条件ではないが受講していることが望ましい。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	提出された課題は、メールボックスに返却する。

講義科目名称：老人福祉論

授業コード：

英文科目名称：Welfare of the Aged

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 知識理解：事前予備知識は不要。医療福祉をより理解することができることを目指す。 関心意欲：医療・保健・福祉、障害者理解を含めた内容に興味を持てることを目指す。 思考判断：現代社会における福祉に潜む内容など、単方向でなく多層的理解を目指す。 その他：福祉の職場で保育士資格を有している人がいる。こうした人の知識に近づく。
授業計画	<p>第1回 老人と子ども両者に有効な福祉政策とは 一老人と子どもの交流一</p> <p>第2回 高齢者と子どもの「統合ケア」を考える視点</p> <p>第3回 3障害（身体・知的・精神障害者）と高齢者を考える視点</p> <p>第4回 ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン理念を考える視点</p> <p>第5回 バリアフリーのソフト面、ハード面を考える視点</p> <p>第6回 高齢者と子どもを同じ場所でケアすることに対する効果</p> <p>第7回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（アンケート作成手法を学ぶ）</p> <p>第8回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）①</p> <p>第9回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）②</p> <p>第10回 幼児の思いやり行動と高齢者との触れ合いを探る視点</p> <p>第11回 統合（障害者受け入れ）保育と幼老共生の視点</p> <p>第12回 福祉サービスを探る視点</p> <p>第13回 福祉コミュニティを探る視点</p> <p>第14回 実り豊かな人生を考える</p> <p>第15回 まとめ（最終レポート提出作業に向けての課題説明&amp;解説）</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	保育者養成における本講義の意義は、あらゆる子どもや障害児、者とその家族や高齢者の心理的側面の理解にある。また、高齢者の社会的ニーズについての社会的理解を深め、ノーマライゼーションの考え方が普及した中で、今後はさらにユニバーサルデザインなど一歩先行く概念の必要性などを考究しつつ、老人福祉サービスの包括的な体系を学ぶことも必要とされる。障害を持つ持たないに関わらず、人は必ず加齢に伴い老いを迎える。この時、障害を持つ可能性は高い。老人福祉法や介護保険制度などを学びながら、保育者として身につける豊かな人間性とケア能力を図る視点、資質を引き出す作業を講義を通して行うことを目指す。
予習	配付資料を用意して、講義を展開します。質問点を見つけ出して下さい。
復習	毎回、感想を書いて提出になります。アンケート的な部分はこちらで編集します。読み直して下さい。
テキスト	近藤功行（共著）1998『障害者の医療福祉のあり方についての考察』、川崎医療福祉学会誌8(1) 近藤功行（共著）2000『高齢知的障害者でのQOL意識に関する研究』、保健の科学42(1) 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事制度研究会（監修）2002 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集、第一法規
参考書	—
評価方法・評価基準	毎時間、感想用紙(B4)1枚を配布し、時間内に記述、回収する。この感想用紙の左端には講義に関連した質問内容を、右側には講義の感想を記述する欄を設けて書いてもらう。また右側の下部に「ここで一言」のコーナーを設け、ここは自由記載とする。欠席した場合も、後でこの感想用紙は提出して欲しい(この場合、講義の感想欄は配布プリントを讀んでの感想内容でよい)。なお、この感想は講義の理解度を知る上で用いるものであり、

	<p>試験にかわるレポート課題は終盤の講義で明示し、B5版の用紙に作成してもらうことになる。</p> <p><b>【D P 1~4との関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>.. 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	<p>予備知識は必要としない。講義は毎時間、担当者作成のプリント配布により行う。積極的に質問や発言をすることは大いに歓迎したい。講義で疑問に思ったことの学習なども含め、積極的な取り組みをして欲しい。なお、講義で課すものではないが、受講者のなかで国立療養所沖縄愛楽園訪問希望者があれば、訪問を計画、実施したい。</p>
オフィスアワー	<p>（仮）毎週**曜日 **限目 近藤研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>.</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
神田朋子・仲間裕子			

授業のテーマ及び到達目標	聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話が言語であることを理解し、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。名前を紹介しましょう。 1、名前を表すいろいろな方法&lt;手話・指文字・空書&gt;がある。 2、自分の名前をいろいろな方法で表現できる。 3、疑問詞&lt;何?&gt;の使い方を覚える。 4、あいさつの手話も覚えて、講座の始めと終わりに手話であいさつしましょう。</p> <p>第2回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。数を使って話しましょう。 1、数の表現(数詞)を覚える。正確に表現する。 2、いろいろな数の表現ができる。 3、疑問詞&lt;いつ?&gt;&lt;いくつ?&gt;&lt;いくら?&gt;を使って会話してみましょう。</p> <p>第3回 聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解する。 1、家族とのコミュニケーション。 2、地域の人々とのコミュニケーション。 3、子育てで困ったこと。 4、職場で困ること。 5、病院で困ること。</p> <p>第4回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。家族を紹介しましょう。 1、山本さん一家の家族紹介を通して、人物表現の基礎となる表現を覚える。 2、自分の家族の紹介ができる。 3、疑問詞&lt;だれ?&gt;の使い方を覚える。</p> <p>第5回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。趣味について話しましょう。 1、自分の趣味について、身振りや表情などを工夫しながら伝える。 2、趣味に関わる手話を覚える。 3、&lt;得意&gt;&lt;苦手&gt;&lt;上手&gt;&lt;下手&gt;なども使って、スポーツ、食べ物など身近な話題について会話ができる。</p> <p>第6回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。仕事について話しましょう。 1、仕事の様子の特徴をとらえ、見て分かりやすい表現を工夫して伝えることができる。 2、いろいろな仕事の手話を覚える。 3、仕事についての会話ができる。</p> <p>第7回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。住所を紹介しましょう。 1、疑問詞&lt;どこ?&gt;の手話を使って会話する。 2、身近な都道府県名、地名建物などの手話を学ぶ。 3、空間を使って位置関係や距離感を表すことが学ぶ。</p> <p>第8回 時の表現・疑問詞を学び、会話ができること。1日、1ヶ月のことを話しましょう 1、1日に関する時の表し方を覚える。 2、身体の位置を使って過去・現在・未来を表すことを理解し、一ヶ月に関する時の表し方を覚える。 3、疑問詞&lt;何時?&gt;&lt;なぜ?&gt;&lt;いつ?&gt;を使って会話する。 4、&lt;～した(過去、完了)&gt;の表現を学び、したことを話すことができる。 5、身振りやそのときの様子もうまく使って、自分の一日、一ヶ月の生活を話し合う。</p> <p>第9回 時の表現・疑問詞を学び、会話ができること。1年、行事のことを話しましょう 1、一年に関する時の表し方を覚える。 2、疑問詞&lt;どちら?&gt;&lt;～したい&gt;を使って会話する。 3、四季を通して、一年のことをテーマに会話する。 4、今まで学習した疑問詞を復習し、いろいろなことをたずねたり、答えたりする会話をする。 5、数に関する話題を中心に会話を広げていく。</p> <p>第10回 いくつかの生活場面を設定し、会話ができる。学校のことを話しましょう。 1、学校や保育所のことについて、今まで学習した手話を活かして話をする。 2、身振りも交えながら、学校や保育所での様子を具体的に表現する。 3、ろう学校(特別支援学校)や難聴学級のことなど、聴覚障害者の教育についても理解を深める。</p> <p>第11回 聴覚障害者の基礎知識・手話の基礎知識 耳の仕組みや聴覚障害の原因を理解するとともに、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。 日本の手話の歴史及び特徴を理解する。</p> <p>第12回 保育の仕事について話しましょう。 1、今まで学習した手話を活かして話をする。 2、位置関係や手話を動かす方向などについても注意し、様子や気持ちについて会話をする。 3、聴覚障害者たちの課題を理解する。</p> <p>第13回 今まで学習した基本をまとめの学習。 ろう者とのフリーディスカッション、手話スピーチ、手話劇の3つの方法から選択した発表活動を通して、今まで学習したことを活かしてろう者に伝えることができたかどうか、確認し復習する。</p> <p>第14回 短文の表現・読み取り・表現のまとめ学習</p>

	<p>学んだことを復習し確実に身につける。 自己紹介を豊かに、そしてスムーズに表現することができる。 相手の自己紹介が分かる。</p> <p>第15回 まとめ学習・テスト①学科 今まで学習した単語、短文など。</p> <p>第16回 定期試験 ②実技 自己紹介を表す。 お互いのことをたずねあってみましょう。</p>
授業の概要	聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話言語を理解するとともに、ろう講師と直接会話することでろう講師の話の内容が理解でき、自己紹介が表現できるようなレベルまで到達する。また、聴覚障害者の歴史・教育・就労など社会状況を学習し、ろう文化についても認識を深めていけるようにしていく。
予習	テキストに付いているDVDを見て、表現に慣れましょう。 単語を覚えておきましょう。
復習	手話単語、手話表現の工夫を確実に身につけて次のステップへいけるようにしてみましょう。 手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。
テキスト	手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟 ※内容が変わる時もありますのでご了承ください
参考書	『わたしたちの手話 (1) ～ (10) 巻 会話編1～3』全日本ろうあ連盟出版局
評価方法・評価基準	<p>1、手話実技(読み取り・表現)手話で日常会話をする力を高めていく。(70%)</p> <p>2、聴覚障害者に関する基礎知識(15%)</p> <p>3、手話の基礎意識(15%)</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	授業中は、講師の手話に集中し音声言語は慎むこと。 新しい表現について手や動かし方や方向を確認する。
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	.



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
神田朋子・仲間裕子			

授業のテーマ及び到達目標	手話の基本文法を学び、相手の会話が理解でき、特定の聴覚障害者となれば手話で日常会話ができるようになる。		
授業計画	第1回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に①表情・強弱・速度 1、形の大小と表情を工夫して表すことができる。2、強弱や速度と表情を工夫して表すことができる。3、どんな服を買いに行くのか、自分のイメージで表現し会話ができる。	
	第2回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に②具体的表現（様子や形） 1、動きや様子、形を視覚的イメージをもとに表すことができる。 2、視点の位置に合わせて表現を変えることができる。 3、買い物に行ったときの様子を具体的に伝え会話ができる。	
	第3回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に③具体的表現（動き） 1、動き（動詞）の視覚的イメージによる様子を表現できる。 2、日本語にとらわれず、その場・状況に合った手話ができる。 3、その場、状況の視覚的イメージを持って、会話ができる。	
	第4回	まとめ（表情豊かに、具体的に） 1、強弱・速度などの工夫が表情と一体になって表現できる。 2、動き・様子などの違いを視覚的イメージをもとに表現できる。 3、日本語にこだわらず、その場・状況に合った表現できる。	
	第5回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく①位置・方向（一対一で） 1、自分と相手の一対一の関係で手話の位置と動きの方向が変わることにより、主語が変わることを理解する。 2、一対一の関係で、いろいろな手話（動詞）を使って、「だれが」「だれに」ということを分かりやすく表現できる。	
	第6回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく②位置・方向（この場にはいない第三者を含んで） 1、3人以上の場合は、それぞれ人の位置を決めることが大切であることを知る。 2、それぞれ人の位置を決めたら、動きの方向で「だれが」「だれに」ということを分かりやすく表現できる。 3、2人の会話の中で、その場にはいない第三者の人の位置を決め、スムーズに会話できるようにする。	
	第7回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく③役割の切り替え 1、2人の会話を1人で、顔の向きや表情などを使い役割を演じ分けて表現できる。 2、3人以上になった場合、また2人の行動の様子を演じ分けることもあることも知る。	
	第8回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく④指さし 1、「だれが」したのか、指さしを使って主語が分かるように表現できる。 2、「指さし」は、ろう者の会話の中でたくさん使われています。	
	第9回	手話で基本文法の学習。空間をうまく使いましょう①左右・前後の空間活用 1、左右・前後の空間を上手に利用して、時間が経過していくことを表現できる。 2、いくつかの場所や内容を空間の位置を変えて分かりやすく表現できる。	
	第10回	手話で基本文法の学習。空間をうまく使いましょう②上下空間・指さしと視線の活用 1、上下の空間を使って、年齢、社会的立場、尊敬の気持ち、場所の移動の表現ができる。 2、一度表現した単語や話の内容をその空間の位置を指さしたり視線の活用したり表現することができる。	
	第11回	手話で基本文法の学習。両手や指をうまく使いましょう①同時性 1、両手や視線を上手に使うことで、2つのことを同時に表現できる。 2、手話では右手と左手で別々の単語を表現したり、手話と視線を同時に表現したりすることができる。	
	第12回	手話で基本文法の学習。両手や指をうまく使いましょう②指の代理的表現 1、指が前に表現し単語や話の内容の代わりになることを理解し、表現できる。 2、こども、きょうだい、場所、趣味など、複数の単語や話の内容を、指に割り当てて表現したあと、その指を代わり使っていく表現を学びます。	
	第13回	手話で基本文法の学習、繰り返しの表現・意味に合った手話 1、同じ手話を繰り返し表現することで、複数の意味を表現したり、話を強調したり、継続している様子を表現することができる。 2、日本語では同じことばでも、意味内容に合わせて適切な手話表現ができる。 3、助詞や時制による意味の違いに合わせて適切な手話表現ができる。	
	第14回	障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動の講義 障害者の概念、ノーマライゼーションの理念等障害者福祉の概要を理解する。 聴覚障害者活動の歴史を学習することにより、時代背景と聴覚障害者の要望、関連する聴覚障害者福祉施策を理解する。 ボランティア活動（手話奉仕員活動）の概念・心構え等を理解するとともに、手話奉仕員活動へ参加意欲を高める。	
	第15回	読み取り・聞き取りまとめ 学んだことを復習し、確実に身につける。 改めて手話単語・手話表現を確認する。	
	第16回	定期試験 ①学科②実技・まとめ	

	<p>今まで学習した単語・短文。          テーマに合わせて、手話で会話をする力を高めていく。          障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動</p>
授業の概要	<p>基本文法を学習し手話で伝えあう力のレベルアップを作ります。ここにおいても大切なことは「ろう者の手話表現を繰り返し見て学ぶ」ことです。講座の学習で学んだことを地域のろう者との交流で活用し、自分の意見が手話でできるようにしていく。</p>
予習	<p>テキストに付いているDVDを見て、表現に慣れましょう。          単語を覚えておきましょう。</p>
復習	<p>手話単語、手話表現の工夫を確実に身につけて次のステップへいけるようにしてみましょう。          手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。</p>
テキスト	<p>手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟</p>
参考書	<p>手話通訳がわかる本          わたしたちの手話辞典Ⅰ、Ⅱ</p>
評価方法・評価基準	<p>手話実技と学科試験の二通りで行います。(70%)          障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動 (30%)</p> <p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講師の話に対して「分かる・分からない」の意思表示ははっきりできるようにする。また授業中の音声言語は慎むこと。          新しい表現について、手や動かし方や方向を確認する。          ※手話Ⅰ(前期)を受けた方を対象とする。</p>
オフィスアワー	<p>(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>.</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
仲松 あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽Ⅰ・Ⅱの基礎クラス（必修科目）の学習を生かし、幼児教育現場で幅広い音楽指導の能力が発揮できる保育者をめざす。</p> <p>【到達目標】 ・音楽Ⅲは応用クラス（選択科目）として、弾き歌い、ピアノ奏法、多様な楽器によるアンサンブル奏法の教材研究を学習し、クラシックからポップスまで幅広い音楽に親しむ。 ・学習成果として、学内でミニコンサートを開催する。</p>
授業計画	<p>「第1回 講義概要説明 ・オリエンテーション ・ハノン (No.38) の課題を次回宿題として提示する。</p> <p>第2回 『ハノン』 No. 38 (音階) ・『ハノン』 No.38 (音階) を学習する。</p> <p>第3回 『ハノン』① No.39 (音階) ・4オクターヴのハ長調音階を学ぶ。</p> <p>第4回 『ハノン』② No.39、及び任意曲 ・4オクターヴのト長調音階を学ぶ。 ・各自の習熟度に応じた任意課題（幼児曲、マーチなど）を学ぶ。（教材研究①）</p> <p>第5回 『ハノン』③ No.39 (音階)、及び任意曲 ・4オクターヴのト長調・ニ長調・ヘ長調・変ロ長調の音階を学ぶ。 ・各自の習熟度に応じた課題（ブルグミュラーなど）（教材研究②）を学ぶ。</p> <p>第6回 4手ピアノ連弾① ・「ロンド」の課題曲を4手ピアノ連弾（2人組）で学習する。</p> <p>第7回 4手ピアノ連弾②、及び任意曲 ・「ロンド」の課題曲を4手ピアノ連弾（2人組）で学習する。 ・各自の習熟度に応じた課題を学習する。（教材研究③）例：犬のおまわりさんの弾き歌い等</p> <p>第8回 6手ピアノ連弾①、及び任意曲 ・「ラテツキー・マーチ」の課題曲を6手ピアノ連弾（3人組）を学ぶ。 ・学生の任意曲による課題曲を学ぶ。（教材研究④）例：幼児教育現場の季節の歌の弾き歌い等</p> <p>第9回 6手ピアノ連弾②、及び任意曲 ・「ラテツキー・マーチ」の課題曲を6手連弾（3人組）で学習する。 ・学生の任意曲による課題を学ぶ。（教材研究⑤）</p> <p>第10回 ハンドベル奏法① ・ハンドベル奏法を学ぶ。（教材研究⑥）例：ジブリより「さんぽ」等</p> <p>第11回 ハンドベル演奏② ・ハンドベル奏法を学ぶ。（教材研究⑦）例：星に願いを等</p> <p>第12回 ピアノ曲、三線、管楽器等のアンサンブル① ・学生の任意曲や楽器を選択しアンサンブルの学習をする。（教材研究⑧）</p> <p>第13回 ピアノ、三線、多様な楽器のアンサンブル② ・ピアノ、三線、管楽器、多様な楽器と学生が選曲するアンサンブルを仕上げる。（教材研究⑨）</p> <p>第14回 学生による独自の創作 ・音楽的身体創作表現や多様な楽器アンサンブルなど、学生による独自の創作を行う。（教材研究⑩）</p> <p>第15回 学習成果としてミニコンサートのリハーサル ・ミニコンサートリハーサルを行う。 ・ミニコンサートのチラシ・プログラムを作成する。</p> <p>第16回 学習成果としてミニコンサート・反省会 ・ミニコンサートを開催する。 ・反省会を行う。 ・ミニコンサート終了後、聴衆の感想文を「メッセージ集」にまとめ、学内関係者に配布する。</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学習したことを踏まえ、幼児音楽を具体的に教材化できる能力や、総合的に音楽能力が高められるようにする。授業形態は、習熟度に合わせて個人レッスンを行い、歌唱伴奏法や独奏、連弾など多様な音楽表現法（三線・木管楽器等）を習得する。幼児教育の「表現」領域の重要性を理解し、保育現場で活用できる応用力や、より資質の高い音楽指導能力を目指す。また、クラシックからポップスまで幅広い音楽を演奏し楽しさを味わう。（予習型学習）</p> <p>(1) 各自の習熟度に合わせて選曲課題の教材研究 ①練習曲（ハノン No.38及びNo.39）②ピアノ伴奏（弾き歌い）③ピアノ独奏 ④ピアノ連弾（4手連弾、6手連弾）</p> <p>(2) 幼児曲の弾き歌い 各自で選曲 ①幼児曲 ②保育園の生活歌</p> <p>(3) 伴奏法 ①弾き歌い</p> <p>(4) アンサンブル奏法 ①ハンドベル奏法 ②学生が希望する楽器によるアンサンブル奏法 ③学生の創作に</p>

	よるアンサンブル演奏 (5)学内ミニコンサート
予習	毎時間与えられた課題曲、または任意の曲を次の授業までに練習して臨むこと。
復習	繰り返し課題曲を復習すること。
テキスト	・コピー楽譜資料配布 ・各自選曲した楽譜持参
参考書	特になし
評価方法・評価基準	①受講態度②ピアノ実技テスト ③及び上記の授業の概要(1)～(5)を総合的に評価する。 受講者の発表80% 受講態度20%  【DP 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 .. 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	毎時間、各自のレッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し毎時間提出する。 自分で選曲した課題曲や教員による課題を、事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 仲松研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：海外幼児教育研修（実習）

授業コード：

英文科目名称：Presch. Ed. Overseas Fieldwork

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位	選択科目
担当教員			
照屋 建太			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 ハワイの就学前の保育・幼児教育について参観し、各自の知見を広げる。さらに、異文化への理解と共生について研修を通して体験し、学ぶ。</p> <p>【到達目標】 世界の様々な保育方法を学び、各自の保育理念について再認識することを目標とする。また、異文化理解を通して多文化への適応力を身につけることができる。</p>
授業計画	<p>事前準備 海外幼児研修に向けて、事前準備を行う。</p> <p>海外幼児研修 2月中旬から下旬にかけて（予定）ハワイ州カウアイ島にて研修を行う。</p> <p>研修後レポート 研修を終了後、自らの学びをレポートにて提出する。</p>
授業の概要	<p>ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ（ハワイ州カウアイ島）において、研修生用に開設された研修プログラムを受講する。さらに、就学前の乳幼児や保護者・学童等を対象としたTutu &amp; Me（移動式幼児教育）、Punana Leo（ハワイ語イマージョン教育施設）、Lihue Hongwanji Preschool, KCC Early Childhood Instructor, Boys and girls Club（学童クラブ）にて参観・部分実習を行う。これらの実習をとおして、日本および沖縄の保育・幼児教育を客観的に観る視点を養い、自らの保育・幼児教育に関する学びを深める。研修期間は、2週間の予定である。</p>
予習	<p>研修目的をしっかりと認識し、実習に参加する。また、事前準備は参加するメンバーと協力し、しっかり行うこと。</p>
復習	<p>研修を振り返り、今後の進路や学生生活で学びをしっかりと活用すること。</p>
テキスト	<p>必要に応じて提供する。</p>
参考書	<p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 必要に応じて提供する。</p>
評価方法・評価基準	<p>事前準備（50%）、受講態度（30%）、レポート課題（20%）</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	<p>前期に行われる海外幼児教育研究を受講していることが望ましい。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>研修後のレポートは、メールボックスに返却する。</p>

講義科目名称：保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・照屋建太・大城りえ・糸洲理子			

授業のテーマ及び到達目標	自己の課題を認識し、必要な知識や技能を身につけることができる。 保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、到達目標とこれまでの学修の振り返り 自己の課題の明確化 保育者としての①使命感、責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 これまでの学修（履修カルテ参照）や幼稚園教育実習を振り返り、知識、技能等の課題を明確化する。</p> <p>第2回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 保育者としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の責務を果たそうとする姿勢について学ぶ。</p> <p>第3回 教材・教具等を工夫した指導案作成 教材や教具の特性を理解し、指導案作成を行う。</p> <p>第4回 幼児理解とカウンセリングマインド 役割演技（ロールプレイング）を通して、子どもの気持ちを理解し、保育者としての対応を学ぶ。</p> <p>第5回 幼児の発達の特性 3歳未満児と3歳以上児の発達の特性を理解する。</p> <p>第6回 保育者の資質能力 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について学ぶ。</p> <p>第7回 社会性の学び 社会人としての基本（挨拶など）が身につけているか、そしてなぜ必要か理解する。</p> <p>第8回 支援の必要な子への対応</p> <p>第9回 幼児理解に基づいた学級経営 幼児期の発達の特性をふまえて、学級経営について理解する</p> <p>第10回 現地調査（フィールドワーク）・他 自己の課題とする特定の教育テーマで学校現場に向かい調査活動や情報収集を行い資料を作成する。また、自己の特定の教育テーマで資料を作成する。</p> <p>第11回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導の指導案を作成する。</p> <p>第12回 事例研究・他 特定の教育テーマにマ関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第13回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導等を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第14回 現地調査（フィールドワーク）の事例研究 特定の教育テーマにマ関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第15回 保育者の資質能力とまとめ（使命感・責任感・教育的愛情） 履修カルテをもとに教員と面談を行う。保育者としての資質能力等について振り返りまとめる。</p>
授業の概要	これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習、ロールプレイ等を通して、具体的に学んでいく。
予習	自己の知識・技能を振り返り、自己課題を認識すること。 実習を振り返り、自己の課題を認識する。
復習	授業内容を再確認し、理解に努めること。
テキスト	授業内容に応じて資料を配布 毎回：文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 大城：青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	各教員評価（10点×4人 40点） 模擬保育/場面指導・事例研究・教育研究（現地調査）などの資料作成および発表（20点）自己評価表（20点） 資料作成と発表の振り返りレポート（10点） 到達目標について（10点）

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	幼稚園実習開始前に、実習を終えて自己の課題が認識できるように事前シートを配布する。10月の講義開始前に自己の課題を明確化し、必要な知識や技能を補えるように受講すること。
オフィスアワー	赤嶺：毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室 大城：毎週月曜日（3限目）大城研究室 糸洲：毎週木曜日（2限目）糸洲研究室 照屋：毎週月曜日（3限目）照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	赤嶺：課題は、授業内に返却する。 大城：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 糸洲：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 照屋：提出された課題は、講義内にて返却する。

講義科目名称：保育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲理子・喜舎場勤子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	保育の意義及び目的・方法・内容等の基礎理論、保育者としての使命感や倫理観について学び、社会システムの中の保育の在り方に関心を持つ。特に、保育の意義や目的、保育の内容と方法の基本、制度など実践に必要な基礎理論や、保育の思想と歴史的変遷についても理解することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・「保育」とは何か？ 授業始めに講義概要を説明する。 「保育」とは何か、自らの保育歴を振り返りながら考える。</p> <p>第2回 保育の理念と概念 子どもが「育つ」ことと、子どもを「育てる」ことはどういうことかをふまえながら、保育の基盤を成す理念や概念について理解する。</p> <p>第3回 保育の社会的役割と責任 保育所等に求められる社会的責任について学び、保育が果たす社会的役割や意義について理解する。</p> <p>第4回 保育の制度的位置づけ 保育に必要な法律や制度について理解する。また、子育て支援に関する法律や制度についても理解する。</p> <p>第5回 「保育所保育指針」に基づく保育 保育の指針である「保育所保育指針」の内容や制度的位置づけについて理解する。さらに、「幼稚園教育要領」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」との共通事項について理解する。</p> <p>第6回 3歳未満児の保育 0歳児、1歳児、2歳児の発達過程や保育の基本をふまえ、乳児保育及び1歳以上3歳未満児の保育の内容、具体的な援助や関わりについて理解する。</p> <p>第7回 3歳以上児の保育 3歳以上の幼児の発達過程や保育の基本をふまえ、5領域のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。また、乳幼児期において育みたい資質・能力と、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する。</p> <p>第8回 子育て支援と家庭との連携 保護者が置かれている子育ての現状を把握し、保育所等に求められる子育て支援と家庭との連携について理解する。</p> <p>第9回 保育の目標 保育を行う際になぜ目標が必要かを考え、保育の目標について理解する。また、子どもにとっての「遊び」とは何かを考え、乳幼児期の保育に「遊び」がどのような意味をもつか理解する。</p> <p>第10回 保育の方法 保育の目標を基に、生活や遊びをとおして行われる保育の方法について理解する。</p> <p>第11回 保育の計画・実践・評価 保育の目標を達成するために必要な計画と実践、省察、評価の意義と仕組みについて理解する。</p> <p>第12回 諸外国の保育の歴史 諸外国で保育がどのように営まれてきたかについて学び、近代以前と近代以降の保育の歴史を理解する。</p> <p>第13回 諸外国の保育の思想 諸外国で保育がどのように営まれてきたかについて、代表的な保育思想を理解する。</p> <p>第14回 日本の保育の思想と思想 日本で保育がどのように営まれてきたかについて学び、近代以前と近代以降の保育の歴史を理解する。また、戦前及び戦後の代表的な保育思想を理解する。</p> <p>第15回 保育の現状と課題 日本及び諸外国において、子どもが育つ環境を把握し、保育を取り巻く現状と今日的課題について理解する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育原理では、保育の根源を踏まえつつ諸分野の専門的事項を学ぶ。保育者は限られた個人的信条や経験にのみとられることなく、理論的根拠や学問的背景に基づいて、自らの保育を実践していくことが求められる。本授業では保育の意義・目的・目標等の基礎知識の習得を目的とすると共に、保育を取り巻く諸課題についても理解を深める。
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読み、わからない用語は調べておくこと。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	授業で学習した箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	監修 公益財団法人児童育成協会 編集 天野珠路・北野幸子 2017 『基本保育シリーズ① 保育原理 第2版』 中央法規 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館



	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
参考書	その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法・評価基準	試験60%、レポート30%、授業参加度（討議・ミニレポート等）10%として総合的に評価する。  <b>【D P 1~4との関連】</b> ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 提出物は期限厳守。レポートについては初回講義時に説明予定。
オフィスアワー	糸 洲：西研3-8 糸洲研究室 毎週木曜日3限目 喜舎場：授業終了後に質問を受け付ける
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
宮平 隆央			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解します。</li> <li>2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解します。</li> <li>3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解します</li> <li>4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解します。</li> <li>5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解します。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>児童の人権に関し基礎的な理解をもち、その保障に必要な制度等に関する基礎的な知識を学び、実習等を経て現場に出るための、保育者としての考え方や知識の基礎が身につく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、福祉系科目の体系 講義の概要、評価方法、受講上の注意などオリエンテーションを行うとともに、この講義や他の福祉系科目との関連、福祉系科目と他の保育科科目との関連などについて概要を説明します。</p> <p>第2回 児童家庭福祉の定義 「児童家庭福祉」とは何か？ その基本的な考え方（概念・定義）について学び、児童家庭福祉に関する基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>第3回 児童家庭福祉の課題—現代社会と子どもの生活 社会の仕組みや動きの変化に合わせて、個人のライフスタイルも大きく変化している。そうした現代社会の中で生活する子どもとその家庭はどのような状況にあるのか？現状や課題の概況を学ぶ。</p> <p>第4回 児童家庭福祉の理念 前回までの講義を踏まえ、「児童家庭福祉」という考え方が目指すもの（理念）は何か？ なぜ「児童福祉」ではなく「児童家庭福祉」なのか？ について考える。</p> <p>第5回 児童家庭福祉の歴史（留岡幸助と北海道家庭学校を中心に） 家庭環境の問題等から、健やかな育ちに困難を抱える児童に対して、どのような取り組みがなされてきたか？日本における取組の先駆者のひとりである留岡幸助と、留岡が創設した「北海道家庭学校」を中心に、児童家庭福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>第6回 児童家庭福祉および関連施策の体系 児童家庭福祉は、どのような法律・制度や関連施策の上にさまざまな取り組みが行われているのか。その概要について学ぶ。</p> <p>第7回 児童家庭福祉の法制度 児童家庭福祉の取り組みの基本的な骨組みとなっているのが、児童福祉法である。その児童福祉法の概要について学ぶ。</p> <p>第8回 事例に学ぶ児童家庭福祉 前回までの内容を踏まえた上で、事例を通じて児童家庭福祉に関する取り組みの具体例を学ぶ。</p> <p>第9回 児童家庭福祉と保育の関り 社会の変化・ライフスタイルの変化に伴い、家庭の在り方も変化している。それに応じて、保育所に求められる役割も多様化している。保育と児童家庭福祉の関係について、制度の変化など、最近の情勢を含めて学ぶ。</p> <p>第10回 児童養護問題 保護者の事情や事件・事故・災害等によって、保護者によって養育することができない・適切ではない児童がいる。そうした児童をどのように保護・養育していくのか、その仕組みや課題について学ぶ。</p> <p>第11回 非行問題 時代の変化に伴い、少年非行の状況も変化している。その歴史的な動向を踏まえ、非行児童の保護・自立支援の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第12回 障害児福祉 障がい児（者）に対する考え方は、近年、大きく転換しつつある。心身の状態だけでなく社会の在り方も含めて「障害/障がい」を考える視点について学ぶ。</p> <p>第13回 児童家庭福祉の専門職 福祉的ニーズを必要とする子ども・親子への関りに関して、なぜ専門性が必要なのか？そして、その専門性はどのような職業として位置づけられるのか？専門職に求められる役割とは何か？などについて学ぶ。</p> <p>第14回 世界の子どもたちと「子どもの権利に関する条約」 人として尊重されながら育つことは子どもの権利である。しかし日本にも、外国にも、その権利が十分守られていない子どもがいる。「子どもの権利に関する条約」と海外の事例などを通じ、子どもの人権について幅広く学ぶ。</p> <p>第15回 講義のふりかえり・児童家庭福祉の最新動向 これまでの講義を振り返り、児童家庭福祉の内容を再確認するとともに、時事問題など前回までの講義で触れられなかったトピックについて学習する。</p> <p>第16回 定期試験 講義を通じて学んだことについて、理解度を確認するために、期末試験を行う。</p>
授業の概要	テキスト、参考書（小六法等）に即して講義します。盛りだくさんな内容ですが、留岡幸助、北海道家庭学校、子どもの権利条約についてはクローズアップし、施設実習ならびに家庭支援論への橋渡しも試みます。ま

	た、児童家庭福祉の現状認識を深めるために、現場関係者をゲストスピーカーとして迎え、お話を聞く機会を設けることも検討しています。
予習	①テキストを事前に読むこと ②新聞記事等に毎日目を通し、児童家庭福祉に関する日々の出来事を把握すること。
復習	①テキストを読みなおし、配布資料および講義記録ならびに小テストを読みなおすこと。 ②講義で学んだ内容を自分なりに整理し、プレゼンテーション（発表）できるよう、感想などを書く練習をすること
テキスト	講義中で指示する。ただし、下記の書籍等を使用する予定なので、可能な限り購入・入手すること。 松本園子・堀口美智子・森和子『子どもと家庭の福祉を学ぶ<改定版>』ななみ書房、2017年 [小六法]『保育小六法2017』ミネルヴァ書房、2017年
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応
評価方法・評価基準	評価は出欠状況・レポート・試験の成績等をもとに総合的に評価する。 評価のおおよその配点は、 ・期末試験：40% ・課題レポート：40% ・コメントカードほか、講義中で課す小課題の提出：15% ・質問など授業態度ほか：5%  【DP 1~4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	①レポートや小課題等の提出期限は厳守すること。 ②期末試験は論述式で行うので、日ごろから新聞記事等を読み、感想をまとめるなど、「意見を書く」練習をすること。 ③教科書くを>勉強するのではなく、教科書くで>勉強するので、日ごろから自主的な学習を心がけること。 ④講義中の私語・携帯電話は厳禁とする。講義の妨げとなる場合は、退席を命じ、欠席扱いとする。 ⑤欠席する場合は、必ず欠席届を事前または事後に提出すること。
オフィスアワー	宮平の研究室で、原則として下記の時間に対応する。ただし、急な外出等で下記時間に対応できない場合や、下記以外でも研究室に在室していて、対応できる場合は対応する。できれば、事前にメールを下さい。 火曜日 2限目 水曜日 4限目 金曜日 2限目
課題に対するフィードバック方法	レポート・期末試験については、回答例を学期終了後、配信する。

講義科目名称：乳児保育

授業コード：

英文科目名称：Seminar in Prenursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
大城りえ・仲宗根京子・大石洋子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 乳児保育の理念と役割、現状について学び、乳児保育の課題を考察する力を身につける。</p> <p>2. 発達の特徴を踏まえた3歳未満児の生活と遊びが提供できるようになる。</p> <p>3. 乳児保育の計画、記録等について学び、作成する力を身につける。</p> <p>4. 保護者支援や関連機関との連携についての知識を獲得する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義内容説明、乳児保育の理念と役割 乳児保育のあゆみを学び、理念と役割を理解する。</p> <p>第2回 乳児保育の現状と課題 子ども・子育てをめぐる状況を学び、課題について考察する。</p> <p>第3回 乳児保育（0歳児）の実際：ある保育園の1日（DVD学習） DVDを通して、乳児保育の実際（0歳児の生活と遊び）を学ぶ。</p> <p>第4回 6か月未満児と保育内容（グループ発表） グループ発表を通して、6か月未満児の発達の特徴を踏まえた遊びと生活を学ぶ。</p> <p>第5回 6か月から1歳3か月未満児と保育内容（グループ発表） グループ発表を通して、6か月から1歳3か月未満児の発達の特徴を踏まえた遊びと生活を学ぶ。</p> <p>第6回 乳児保育（1・2歳児）の実際：ある保育園の1日（DVD学習） DVDを通して、乳児保育の実際（1・2歳児の生活と遊び）を学ぶ。</p> <p>第7回 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容（グループ発表） グループ発表を通して、1歳3か月から2歳未満児の発達の特徴を踏まえた遊びと生活を学ぶ。</p> <p>第8回 2歳児の発達と保育内容（グループ発表） グループ発表を通して、2歳児の発達の特徴を踏まえた遊びと生活を学ぶ。</p> <p>第9回 乳児の抱き方、おんぶの実習 人形を使用し、乳児の抱き方・おんぶの仕方を練習する。</p> <p>第10回 調乳・授乳の実習 実際に調乳し、人形で授乳の練習を行う。</p> <p>第11回 オムツ替え、清潔、着替えの実習 人形を使用し、オムツ替え、清潔、着替えの練習を行う。</p> <p>第12回 乳児期の遊びと遊具 0歳児から2歳児の発達を促す遊びについて学ぶ。</p> <p>第13回 乳児保育の計画 乳児保育独自の計画の在り方を理解する。</p> <p>第14回 乳児保育の記録、連絡帳 記録の方法や連絡帳の書き方について学ぶ。</p> <p>第15回 乳児保育における連携 保護者や関係機関との連携について学ぶ。</p>
授業の概要	乳児保育の基本と3歳未満児の発達の特徴を踏まえた生活と遊びについて学ぶ。また、実習を通して、乳児の世話の仕方や、必要な道具の扱い方を習得する。それらを踏まえた乳児保育の実践を理解する。
予習	テキストの該当箇所を読む。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	テキストおよびグループ発表の資料を読み、講義内容をより理解するように努める。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 2014年 『見る・考える・創りだす 乳児保育』 萌文書林 その他担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	<p>小テスト30%、グループ発表20%、実習20%、課題（手作り教材）の提出20%、受講態度10%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、</p>

	短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	グループ発表や実習を積極的におこない、欠席しないこと。
オフィスアワー	大 城：毎週月曜日 3限目 大城研究室 仲宗根：授業終了後、教室で質問を受け付けます。 大 石：授業終了後、教室で質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	小テストおよび課題（手作り教材）は、授業内で返却します。

講義科目名称：子どもの保健 I

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
知念 菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
授業計画	<p>第1回 はじめに 妊娠・出産のビデオ鑑賞</p> <p>第2回 子どもの健康と保健の意義</p> <p>第3回 子どもの発達・発育(子どもの成長)</p> <p>第4回 子どもの発達・発育(身体計測・身体発育の評価①)</p> <p>第5回 子どもの発達・発育(身体発育の評価②)</p> <p>第6回 子どもの発達・発育(身体発育の評価③・成長に影響を及ぼす因子)</p> <p>第7回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅰ 脳・感覚器)</p> <p>第8回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢)</p> <p>第9回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅲ 精神発達)</p> <p>第10回 子どもの発達・発育(生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収)</p> <p>第11回 子どもの発達・発育(生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠)</p> <p>第12回 子どもの発達・発育(新生児)</p> <p>第13回 子どもの栄養(母乳栄養を中心に)</p> <p>第14回 小児(子どもの)保健行政</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅰのまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どもの持っている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	「わかりやすい子どもの保健」 西村昂三編著 同文書院
参考書	「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子 編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社 「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館 「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社
評価方法・評価基準	<p>期末試験50% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p>

	○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
古堅由紀子・下地房子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：5大栄養素・食品・食事の関係を理解できる。                  関心意欲：幼児期からの規則正しい食習慣が健康に影響を及ぼすことに関心がもてる。                  思考判断：保育者の立場から、自身の生活習慣を評価し、課題を修正できる。                  態度：栄養情報が正しい根拠かどうかを選択でき正確な判断で、対応できる</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、第1講 子どもの健康と食生活の意義                  講義概要の説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、第1講の子どもの健やかな発育・発達のための食事の重要性について、栄養面だけではなく情緒の安定や社会性の発達、食習慣の形成における意義を確認する。児童福祉施設における食事の提供のあり方や食育も含めた支援の必要性を理解する。その一方で、現在の子どもの食を取り巻く状況の問題点を認識し、対処方法について考察できるようにする。</p> <p>第2回 第2講 栄養の基本 第3講 栄養素の種類とはたらき                  第2講では、栄養の基本的知識として、①栄養の定義、②食べ物のゆくえ（摂取・消化吸収・代謝・排泄するまでの過程）、③栄養の摂り方、④子どもの栄養の特徴について学ぶ。                  さらに、その知識を子どもに説明する場合の教材についても考えていく。</p> <p>第3回 第3講では、食生活を営む上で必要とされる①五大栄養素の種類と働き、②水分代謝について学ぶ。                  不足しやすいビタミンとミネラルについては、欠乏症、それらを多く含む食品について学び、栄養素と食品を繋げる事で理解を深める。</p> <p>第4回 第4講 日本人の食生活の目標 第5講 献立作成・調理の基本                  第4講では、日本人の食生活の目標を示す、①「日本人の食事摂取基準」、②「食事バランスガイド」、③「食生活指針」について学ぶ。                  ①「日本人の食事摂取基準」では、1日に必要なエネルギー量や栄養素量を数字で学ぶ。                  自分の適切なエネルギー量を算出してみる。                  ②「食事バランスガイド」では、料理の組み合わせでバランスの良い食事を学ぶ。                  「食事バランスガイド」を使って、自分の食生活を点検することで改善策を見つけ出す。                  ③「食生活指針」では、日本の食生活で現在、課題となっていることを探っていく。</p> <p>第5回 第5講では、食生活を日々営むために必要とされる①献立作成の基本、②調理の基本について学ぶ。                  ①献立作成の基本では、良い献立の作成するための条件と手順を学ぶ。                  ②調理の基本では、五感で感じるおいしさ、調理法、味について学ぶ。</p> <p>第6回 第6講 乳児期の授乳の意義と食生活 第7講 乳児期の離乳の意義と食生活①                  第6講では、乳児期の意義と栄養について、①乳児期の栄養・食生活の特徴、②咀嚼・嚥下機能、食行動の 変化、③母乳栄養、④母乳育児の支援、⑤人工栄養について学ぶ。                  第7講では、乳児期の離乳の意義と食生活について、①離乳の定義と必要性、②離乳食の進め方について学ぶ。</p> <p>第7回 次回、離乳食の調理実習について準備するもの、レシピについて説明をする。                  離乳食の調理実習                  離乳食の調理実習に必要なエプロン・三角巾が準備されているか確認する。                  離乳食の調理の仕方、調理形態・味の確認（試食）、食べさせ方、ベビーフードとの味の比較をする。</p> <p>第8回 離乳食実習の考察 第7講 乳児期の離乳の意義と食生活②                  前回の調理実習の考察をグループごとにまとめて発表する。                  第7講の前回の続き、②離乳食の進め方、食べ方、食事の目安、③離乳の完了、④成長の目安について学び、子どもの成長・発達に欠かせない手づかみ食べの意義や支援について理解を深めていく。                  さらに、離乳期の食生活の問題と対応について、知識を広げていく。</p> <p>第9回 第8講 幼児期の心身の発達と食生活                  第8講では、幼児期の発達や栄養、おやつのある方について学ぶ。栄養面、衛生面に配慮した興味もてる 組み合わせをお弁当で考えたり、おやつ具体的な組み合わせを学ぶ。この時期の子どもの食の問題と背景、その対応について考える。                  次回の幼児食の調理実習について準備するものやレシピの説明をする。                  幼児食の調理実習                  幼児食の調理実習に必要なエプロン・三角巾が準備されているか確認する。                  幼児食の作り方、調理形態、組み合わせ、量、味について学ぶ。</p> <p>第9回 幼児食実習の考察 第9講 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活                  前回の調理実習の考察をグループごとにまとめて発表する。                  第9講では、学童期以降の生涯にわたっての心身の発達と食生活について学ぶ。特に、妊娠期（胎児期）の</p>



第10回	<p>栄養と食生活について学ぶ。</p> <p>第10講 食育における養護と教育の一体性 第11講 食育の内容と計画および評価</p> <p>第10講では、食育についての基本的な事項の理解を深めるために、食育基本法や保育所保育指針などについて学ぶ。特に食育の実践につなげていくために、保育における「養護」と「教育」がどのように関係しているかについて理解を深める。</p>
第11回	<p>第11講では、保育の一環としての食育の展開をするために、食育の計画を立てるための食育の「ねらい」と「内容」を学ぶ。また食育の展開のための環境づくりについても学ぶ。</p> <p>第12講 地域や家庭と連携した食育の展開 第13講 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</p> <p>保育の中で食育を展開するためには、地域や家庭との連携が不可欠である。食育の取り組みを行う上で、配慮すべき、①地域の関係機関との連携や職員間の連携、②食生活指導、助言及び食を通じた保護者への支援について学ぶ。さらに、保護者への支援において役立つ、行動変容の理論についても学ぶ。</p> <p>家庭や児童福祉施設における食事と栄養に関して、①家庭における食生活上の問題点、②家庭における食事の役割、③児童福祉施設の特徴、④児童福祉施設における食事の提供について学ぶ。</p> <p>また、保育所において子どもたちに行事食を伝える方法を考えていく。また、施設における衛生管理について理解を深める。</p>
第12回	<p>第14講 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 第15講 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②</p> <p>第14講では、感染症をはじめとする急性疾患と、日常的な管理を必要とする慢性疾患について学び、それぞれの子どもの食に関する特別な配慮について学ぶ。子どもの慢性疾患のうち、食物にかかわる長期的な管理が特に重要なのが食物アレルギーと摂食障害である。これらの病態の特徴を学び、適切な対応について理解する。</p>
第13回	<p>お弁当の献立作成</p> <p>これまでに学んできた知識を活かして、自分たちのお弁当の献立を実際にグループごとに立ててみる。</p> <p>予算の中で、調理室の調理器具、自分たちの調理技術などの条件の中で栄養のバランスのとれたお弁当の献立を考える。</p>
第14回	<p>作成献立の調理実習</p> <p>調理実習に必要なエプロン・三角巾が準備されているか確認する。</p> <p>自分たちで作成したお弁当をグループごとに協力して調理し、調理の楽しさを知る。</p> <p>試食して味の確認をする。</p>
第15回	<p>調理実習の考察・総括</p> <p>前回の調理実習の考察をグループごとにまとめて発表する。</p> <p>これまでの授業のまとめを今まで使ったプリントを使って復習し、試験に備える。</p>
第16回	<p>定期試験</p> <p>これまでの講義で学んだことが理解できているかチェックする。</p>
授業の概要	<p>小児期における食生活は生涯における健康の基礎を築く重要な時期である。栄養の基礎知識を理解し、自身の食生活を見直すことを基本としながら、授乳期・離乳期・幼児期・学童期の子どもの発育・発達の栄養摂取法・食生活のあり方について講義または実習を通して学習する。また、現代の食環境の課題から食育の重要性を知り、具体的な食育実践の方法を探る。</p>
予習	<p>次回の講義に関するキーワードを調べておくこと。</p>
復習	<p>授業内プリントをまとめること。</p>
テキスト	<p>『子どもの食と栄養』 中央法規 2016年（最新） 監修 公益財団法人 児童育成協会 編集 堤 ちはる 藤澤 由美子</p>
参考書	<p>適宜紹介する</p>
評価方法・評価基準	<p>定期試験50% 授業態度25% 授業内プリント・レポート25%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>教科書・配布されたプリントを忘れず持参すること。</p> <p>調理実習の際は、エプロンと三角巾を持参すること。</p> <p>最近の『食』の問題・話題について自分の考えを発表できるように準備しておく。</p>
オフィスアワー	<p>事前にメール予約をお取りください。</p> <p>クラス・学籍番号・氏名を忘れずに。</p> <p>（仮）メールアドレスは、初回の授業でお知らせします。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>授業内プリントの提出後、評価しコメントを付けて返却する。</p> <p>調理実習の後、次回授業でグループごとに考察・発表してもらう。</p> <p>発表後、質疑応答することによって学びを深める。</p>

注

発表後、質疑応答することで学びを深める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
宮平 隆央			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭の意義とその機能について理解します。</li> <li>2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解します。</li> <li>3. 子育て家庭の支援体制について理解します。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>子育て支援を取り巻く現状と課題に関する基本的な理解をもち、実習を通じて現場へ出るにあたり、子育て支援に関する基礎知識が身につく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、福祉系科目の体系・本講義の概要 本講義の概要、評価方法、講義計画などオリエンテーションを行う。 併せて、本講義と他の福祉系科目や保育科提供科目との関連についての説明を行う。</p> <p>第2回 家庭支援の現場体験/映画「クレイマー・クレイマー」視聴 離婚を経て父子家庭になった親子を描いた映画「クレイマー・クレイマー」を視聴し、ひとり親家庭の生活を追体験し、ひとり親家庭に対する支援についての考えを深める。</p> <p>第3回 家庭支援の基本的視点①家庭支援をめぐる現代的課題 前回の映画視聴を踏まえ、近年の児童と家庭をめぐる状況や抱える課題について、各種資料を基に理解を深める。</p> <p>第4回 ディスカッション・発表 前回・前々回の内容を踏まえ、ひとり親家庭の抱える「生きにくさ」やさまざまな課題について議論し、どのような支援が必要か、話し合い、発表する。</p> <p>第5回 家庭支援の基本的視点②家族・家庭と家庭支援 「家族」「家庭」ともに聞きなれた言葉だが、家族や家庭の在り方は大きく変化してきている。改めて「家族」「家庭」とは何かについて考え、今日の家族・家庭が必要とする支援について考える。</p> <p>第6回 保育・子育て支援における家庭支援①地域子育て支援拠点 なぜ社会全体で子育てを支援することが必要なのか？自分の住んでいる地域ではどこが子育て支援の役割を②案っているのか？地域における子育て支援の拠点について学ぶ。</p> <p>第7回 保育・子育て支援における家庭支援②保育所の役割 子育て支援に関わる施設として、保育所は重要な役割を果たしている。また、家族・家庭の在り方の変化に伴い、保育所に期待される役割も変化している。子育て支援における保育所の役割について、近年の法律・制度の動向なども含めて学ぶ。</p> <p>第8回 保育・子育て支援における家庭支援③子育てを支える社会資源 家族・家庭の子育てを支える資源にはどのようなものがあるのか？具体的な事例などを踏まえながら、子育て支援に関する社会資源について学ぶ。</p> <p>第9回 障害児支援における家庭支援①障害児福祉制度と家庭支援 心身に障害のある子どもの子育ては、保護者の生活にも大きな変化をもたらす。障害児福祉制度の概要について学びながら、障害児の家庭支援の必要性などについて理解を深める。</p> <p>第10回 障害児支援における家庭支援②障害児支援と子育て支援の連携、家族の地域生活を支える社会資源 障がいのある子どもに特化した支援とその他の子育て支援はどのように連携することができるか、両者の連携にはどのような課題や可能性があるのか、連携をすすめる、障がいのある子どもと保護者の地域生活を支えるために活用できる社会資源はどのようなものがあるかについて学ぶ。</p> <p>第11回 児童虐待の予防と家庭支援①社会的養護と家庭支援 児童虐待はどのようなことが原因として起こるのか？児童虐待の予防や虐待を受けた子どもの家庭復帰などにおいて、家庭支援はどのようなことが求められているのか？児童虐待と家庭支援の関係について考える。</p> <p>第12回 児童虐待の予防と家庭支援②社会的養護における子育て支援の役割 児童虐待の予防・早期発見・保護などにおいて、地域の子育て支援活動はどのような役割を担うことができるのか？事例などをもとに理解を深める。</p> <p>第13回 ひとり親家庭における家庭支援①ひとり親支援制度と家庭支援 ひとり親家庭支援については、近年、父子家庭への支援の拡大や就労支援を核とした自立支援の強化など、さまざまな変化が起きている。ひとり親支援制度の概要を学ぶとともに、ひとり親への家庭支援の必要性について理解を深める。</p> <p>第14回 ひとり親家庭における家庭支援②ひとり親家庭支援と子育て支援、家庭の地域生活を支える社会的資源 ひとり親家庭に特化した支援とその他の子育て支援や福祉施策等の連携はどのようなものがあるのか？ひとり親家庭の親子が安定した家庭生活を営むために活用できる社会資源にはどのようなものがあるのか、事例などをもとに学ぶ。</p> <p>第15回 家庭支援の方法 支援を必要とする家庭には多様なニーズがある。しかし、どのようなニーズに対応するにせよ、ほぼ共通して取りうる支援の考え方・手順・方法はないのか？さまざまなニーズを抱える家庭を支援するにあたり、基礎的な家庭支援の方法について学ぶ。</p> <p>第16回 ディスカッション/発表 期末試験に代えて、これまで学習した内容を踏まえ、グループでのディスカッションと発表を行う</p>

	う。
授業の概要	すべての子育て家庭への支援を考える科目ですが、その中心に、ひとり親家庭への支援をおきたいと思っています。沖縄は日本で一番離婚率が高く、ひとり親家庭の出現率が高いからです。自分たちの結婚がうまくいかどうかは、誰もがフィフティ・フィフティの確率ですから、将来、支援される側の母親・父親にも、支援する側の保育者にもなるつもりで勉強します。家庭支援の現状認識を深めるためには現場体験をおこないます。また、予防的支援の視点から映画「クレイマー・クレイマー」の視聴を推奨します。
予習	テキストを事前に読むこと
復習	テキストを読みなおし、配布資料および講義記録等を読みなおすこと
テキスト	講義中で指示する。その他、必要に応じプリントを配布する。
参考書	下記の書籍をもとに講義を進める予定なので、可能な限り購入・入手すること。 渡辺頭一郎・金山美和子著『家庭支援の理論と方法——保育・子育て・障害児支援・虐待予防を中心に』金子書房、2015年
評価方法・評価基準	評価は出欠状況・レポート・試験の成績等をもとに総合的に評価する。 評価のおおよその配点は、 ・ディスカッション・発表：40%（20%×2回） ・課題レポート：40% ・コメントカードほか、講義中で課す小課題の提出：15% ・質問など授業態度ほか：5%  【DP 1~4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 .. 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	①グループでのディスカッションや発表・作業等を課す予定なので、積極的・自主的な学習を期待する。 ②レポートや小課題等の提出期限は厳守すること。 ③日ごろから新聞記事等を読み、感想をまとめるなど、「意見を書く」練習をすること。 ④教科書くを>勉強するのではなく、教科書くで>勉強するので、日ごろから自主的な学習を心がけること。 ⑤講義中の私語・携帯電話は厳禁とする。講義の妨げとなる場合は、退席を命じ、欠席扱いとする。 ⑥欠席する場合は、必ず欠席届を事前または事後に提出すること
オフィスアワー	宮平の研究室で、原則として下記の時間に対応する。ただし、急な外出等で下記時間に対応できない場合や、下記以外でも研究室に在室していて、対応できる場合は対応する。できれば、事前にメールを下さい。 火曜日 2限目 水曜日 4限目 金曜日 2限目
課題に対するフィードバック方法	レポート・発表等については、講評を配信する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	1単位	必修科目
担当教員			
佐久本邦華・宮平隆央・島袋桂・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 子育て家庭を取り巻く今日の課題を理解し、子育て・子育てを支援する内容及び方法を検討する。地域の親子を招待し、学内・もしくは学外の施設で地域子育て支援プログラムを実施する。</p> <p>【到達目標】 身体を使ったあそび、おもちゃ作りや造形遊び、また昔からある伝統あそびなどを通して、親同士・子ども同士のふれあいの場について考え、親子支援のありかたについて実践的に学ぶことができる。学生が主体となって地域子育て支援プログラムを企画・実行することを通して、保育に係る実践力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 地域における子育て支援について考える 画像資料をもとに、前年までの地域子育て支援実習の振り返りを行い、概要を理解し、地域における子育て支援について考える。</p> <p>第2回 親子・親同士・子同士のコミュニケーションを促す場について考える 前年までの資料をもとに、親子・親同士・子どもどうしのコミュニケーションを促す場所・機会について考え、学生に発言の機会を与え、どういった取り組みにしていくのか、事業の方向性について考える。</p> <p>第3回 内容・方法の検討① 開催場所および開催日程について検討する グループのリーダー、副リーダー、記録係、会計係等を決め、開催場所および開催日程について話し合う。</p> <p>第4回 内容・方法の検討② 開催時期と開催場所にあったテーマと内容について考える。 リーダー、副リーダーが中心となり、開催時期と開催場所に合ったテーマと内容について考える。</p> <p>第5回 準備① テーマにあった具体的な内容を考え、班を編成する 前回で決定したテーマに合わせ、具体的な内容を出し合う。内容を精査し、それに合わせて班を編成する。</p> <p>第6回 準備② 内容に合わせて予算を割り振り、材料を購入する 内容に合わせて、各班に予算を割り振る。予算に応じて必要な材料を購入する。また、段ボールなどの廃材を収集する。</p> <p>第7回 準備③ 各班に分かれて製作活動に入る 購入、または収集した材料を使い、各班製作活動に入る。</p> <p>第8回 準備④ 購入するもの以外に必要な廃材使用について検討し、収集する リーダー、副リーダーが中心となり、各班の進捗状況を発表し合う。新たに購入が必要なものや、廃材で必要なものがある場合は、各班で声をかけあい、予算を再分配するなどして材料をそろえる。</p> <p>第9回 準備⑤ 購入したもの、収集したものをもって各班で作業を進める 新たに購入、または収集した材料を加えて、製作をすすめる。</p> <p>第10回 準備⑥ チラシ作成、新聞広告、地域の保育所・保育園、幼稚園、子ども園、児童館などに宣伝をする 日時、場所、テーマや内容を盛り込んだチラシを作成し、手分けして近隣の保育所・保育園、幼稚園、子ども園、児童館などにチラシを置いてもらうよう宣伝に行く。また、新聞媒体などのイベント広告欄に掲載してもらうよう手続きを行う。だいたい2週間前には締め切られてしまうので、締め切り日を確認する。</p> <p>第11回 準備⑦ 広報活動の確認、各班で進捗状況を確認し、作業を進める 広報活動の確認を行い、まだ宣伝が行われていない場所へのチラシ配布を促し、広報活動をすすめる。また、各班の製作活動をすすめる。</p> <p>第12回 準備⑧ 進捗状況の最終確認、製作の仕上げ リーダー、副リーダーを中心に、各班の進捗状況を確認し、最終準備へととりかかる。</p> <p>第13回 プログラム実施① 開催当日：会場準備 会場設営と最終準備を行う。不足しているものはないか、最終確認を行い、受け入れの準備を整える。</p> <p>第14回 プログラム実施② 開催当日：プログラム実施 親子連れや学童の子どもたちが訪れたら、各班で役割を遂行し、不測の事態には臨機応変に対応し、3時間のプログラムを無事完遂させる。</p> <p>第15回 振り返りと反省 後日、振り返りを行い、反省点や良かった点を発表する。学生自身がプログラムを通し、何を学べたのかを確認する。</p>
授業の概要	1・2年次合同の4クラス編成で行い、各クラスを1名の専任教員が担当する。 子育て支援とは何かを理解し、クラスごとに子育て支援の内容・方法を検討する。学内あるいは学外で、地域子育て支援プログラムを実施する。講義回数1～13回までは実施に向けて企画・制作・準備を行い、講義回数14・15回目が本番となる。16回目で反省会を行い、振り返りの機会を持つ。
予習	子育て支援について、事前学習を行う。
復習	実施内容を振り返り、子育て支援について理解を深める。

テキスト	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
参考書	その他適宜参考書を提示します。
評価方法・評価基準	授業態度：60％ 自己評価：40％  <b>【DP 1～4との関連】</b> ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	企画・立案・予算管理さらに対外的な交渉等も含まれるため、主体的に参加・活動を行うこと
オフィスアワー	佐久本：火曜・木曜日 2 時限目 宮平：○曜日○時限目 島袋：○曜日○時限目 仲松：○曜日○時限目
課題に対するフィードバック方法	演習の最終回に振り返りの機会を設けることでフィードバックとする。

講義科目名称：保育ボランティア体験

授業コード：

英文科目名称：Volunteer in Childcare Program

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
宮平 隆央			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b>          本学学生が地域の子どもと触れ合うことにより、座学では学びえない「子どもの生活環境」理解や「遊び」の体験等を深める。本体験は、大学における学びへの動機づけを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b>          本実習を前に、子どもや施設職員等との関りを通じ、保育者として担うべき役割と責任を自覚できるようになる。その上で、本実習の前に学習を深めるべき点について理解し、実践することができる。</p>
授業計画	<p>実習期間：①通年とする。(4月～12月まで)          ②体験時間数は、30時間以上とする。</p> <p>実施方法：①本学に依頼があるボランティア要請と連携して実施する。          ②学生自身がボランティア先を確保して実施する。</p> <p>対象施設：保育所・幼稚園・児童館・学童クラブ・施設実習配置対象の施設・子ども関連団体等</p> <p>提出物：①保育ボランティア体験報告書</p> <p>その他：①学生課・学科事務室・担当教員への連絡・報告等を怠らない事。          ②体験時間数(30時間以上)の確認を行う事。          ③オリエンテーション・中間報告会・全体報告会(後期)へ参加する。</p> <p>※詳細については変更となることもあります。変更があった場合は随時お知らせします。</p>
授業の概要	<p>学生自身が直接施設へ依頼・日程調整等を行い、ボランティアを実施。終了後、報告書を提出する。          また、必要に応じて、指導・助言、資料提供等を行う。</p>
予習	<p>①ボランティア先の情報を把握し、到達目標に合致したボランティア先に依頼する。          ②事前学習として決定したボランティア先の体験内容を十分に把握する。          ③本実習及び就職活動の予行演習的な意義もあるため、電話の応対等、基礎的なビジネスマナーを学習しておくこと。</p>
復習	<p>保育ボランティア体験を振り返り報告書にまとめる。</p>
テキスト	<p>必要な資料のプリント配付</p>
参考書	<p>必要に応じ、適宜指示する。</p>
評価方法・評価基準	<p>①ボランティア体験時数(30時間以上)：50%          ②報告書の提出：50%</p> <p><b>【DP 1～4との関連】</b></p> <p>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。          ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。          ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。          ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>①事前オリエンテーション・中間報告会・全体報告会への参加は必須である。原則として、いずれかを正当な理由なく欠席した場合には評価対象としない。欠席した場合は、速やかに欠席届を提出すること。          ②学外での活動を伴うため、安全には十分注意すること。事故やトラブルがあった場合は、すぐに担当教員に連絡すること。          ③学外の施設等に勉強の協力をお願いする立場であることをわきまえ、マナーや現場でのふるまい・身だしなみに十分注意すること。          ④「現場では何が大事か」「何を学ぶべきか」などを常に意識し、自主的に学習・記録等をとることを期待する。          ⑤その他、詳細についてはオリエンテーション・掲示等を通じて随時告知するので、掲示版等のチェックに注意すること</p>
オフィスアワー	<p>宮平の研究室で、原則として下記の時間に対応する。ただし、急な外出等で下記時間に対応できない場合や、下記以外でも研究室に在室していて、対応できる場合は対応する。できれば、事前にメールを下さい。</p> <p>火曜日 2限目          水曜日 4限目          金曜日 2限目</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>報告書の講評等を配信する。</p>

講義科目名称：相談援助

授業コード：

英文科目名称：Social Work Practice Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
砂川 亜紀美			

授業のテーマ及び到達目標	<p>○テーマ ソーシャルワークの視点から相談援助の知識・技術を獲得する。</p> <p>○到達目標 相談援助に必要な知識・技術を獲得し、対象者へ関わる際の姿勢・視点が身につく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／相談援助の概要 地域社会には、多様な価値観や特性をもった「人」が生活しており、相談援助の対象もまた「人」であることから、実際の対象をイメージするための導入を行う。</p> <p>第2回 他者を理解するために必要な自己理解 対人援助に欠かせない要素としての自己理解について説明し、ワークを通して「自己理解」につなげる。</p> <p>第3回 相談援助の理論と意義および機能 相談援助の専門性、必要性、原理・原則について説明する。</p> <p>第4回 保育とソーシャルワーク ソーシャルワーカーの専門性や実践事例、また保育の現場に求められるソーシャルワークについて、事例を元に検討する。</p> <p>第5回 相談援助の方法と理解 相談援助の対象やプロセス（ケースの発見～アフターケア）、相談を受ける姿勢について説明する。</p> <p>第6回 相談援助の具体的展開（個人に対する相談援助） 個人に対する援助技術（ケースワーク）における基本的態度や自己覚知について、具体的に事例を用いて説明する。</p> <p>第7回 相談援助の具体的展開（小集団を活用した相談援助） 小集団を活用した援助技術（グループワーク）の展開過程や諸原則など、実際の事例を用いて具体的に相談援助の場面を想定しながら説明する。</p> <p>第8回 相談援助の具体的展開（記録・評価） 援助過程の中での記録の取り方や記録の意義、振り返りの必要性について説明し、ワーク形式で実践する。</p> <p>第9回 関係機関との協働・専門職との連携 相談援助の場面での連携の必要性、他機関（フォーマル、インフォーマル）との関わりの実際について説明する。</p> <p>第10回 多様性の理解① 前半 1970年代イタリアで制定されたバザリア法によって精神科病院から地域へ押し出された精神障害者らの実話を元にした映画から、相談援助に必要なストレス視点やエンパワメントについて考える。</p> <p>第11回 多様性の理解② 後半 1970年代イタリアで制定されたバザリア法によって精神科病院から地域へ押し出された精神障害者らの実話を元にした映画から、相談援助に必要なストレス視点やエンパワメントについて考える。</p> <p>第12回 社会資源の活用、調整、開発 地域の中にある様々な資源について理解し、資源の活用方法を検討する。また、ニーズをキャッチし新しい資源の開発に向けた取り組みやその必要性について説明する。</p> <p>第13回 事例検討 事例を通して、これまで学んだ理論や方法について振り返り、実際の支援の状況から気づきや疑問などを確認する。</p> <p>第14回 事例分析 障害のある子どもとその保護者への支援など当事者からの事例提供を受け、生の事例を元に支援のあり方について検討し、他者との視点の違いについて共有する。</p> <p>第15回 事例分析・まとめ 相談援助の場面で必要な視点・姿勢について、学んだことを実際に活用し、ロールプレイなどを通して擬似的に実践する。</p> <p>第16回 定期試験 講義全体を通して考える、相談援助に必要な視点と支援者の姿勢について問う。</p>
授業の概要	<p>社会福祉に関わる基礎知識と実習経験を基にしながら、相談援助の方法と技術を学び活用する意義は何かを検討した上で、その概要、効果的な展開のあり方を事例と共に考えたい。</p>
予習	<p>①配布する資料の疑問点（用語等）について調べておくこと ②日頃から福祉に関するニュースに目を配り、自分なりの考えを持っておくことが望ましい。各回、2時間程度の事前学習を要する。</p>
復習	<p>教科書や配布資料を見直し、授業での疑問点については次回の授業時に質問するなど、理解に努めること。各回、2時間程度の事後学習を要する。</p>
テキスト	<p>特に指定せず、レジメや資料などは講師が印刷して配布する。</p>



参考書	授業中に必要に応じて随時紹介する。
評価方法・評価基準	<p>授業への参加度、授業態度、小レポート、試験等をすべて取り入れた評価をする。  試験（中間・期末試験）50% 授業態度20% 小テスト・授業内レポート10% 受講者の発表10% 演習10%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>.. 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	演習を取り入れた形で授業を進めるので前向きで積極的な参加（意見や質問の表明）を求めたい。
オフィスアワー	<p>①授業終了後、教室で質問を受け付けます。</p> <p>②メールで質問に答えます。メールアドレスは、初回の授業でお知らせします。</p>
課題に対するフィードバック方法	提出物はその都度返却、もしくは各自メールボックスへ返却しフィードバックを行う。

講義科目名称：社会的養護

授業コード：

英文科目名称：Principles of Protective Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
照屋 徹			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>・社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。</li> <li>・施設養護における家庭支援の重要性とその実践方法について理解する。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 子どもの社会的養護の基本的な考え方</p> <p>第2回 欧米における児童福祉観の変遷</p> <p>第3回 日本における児童福祉観の変遷</p> <p>第4回 養育環境に問題を抱える子どものための施設</p> <p>第5回 心身に障がいを抱える子どものための施設</p> <p>第6回 情緒、行動に問題を抱える子どものための施設</p> <p>第7回 社会的養護の制度と法体系</p> <p>第8回 児童福祉を支える主な法律</p> <p>第9回 施設養護の職員の専門性</p> <p>第10回 施設養護における基本的な援助技術</p> <p>第11回 個別支援援助計画の作成（Ⅰ）</p> <p>第12回 個別支援援助計画の作成（Ⅱ）</p> <p>第13回 虐待問題と児童養護</p> <p>第14回 今後の課題と展望</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	社会的養護の場としての児童福祉施設において、児童の養護に従事するための必要な専門的知識と技術について体系的に学び、さらに施設養護における専門職としての在り方について考察する。
予習	レジュメを事前によく読み毎回授業に出席してください
復習	講義内容をより理解し、応用できるように努めること
テキスト	松本峰雄編著『子どもの養護』 建帛社
参考書	吉田眞理編著『社会的養護』 萌文書林
評価方法・評価基準	<p>定期試験80% 小テスト・授業内レポート10% 授業態度10%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>

履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：保育の心理学

授業コード：

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城りえ・中野久美子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 子どもの心身の発達を促す援助を考えることができる。</p> <p>2. 子どもの経験の重要性や学習の過程を踏まえた保育実践力を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、保育の心理学の意義 保育の心理学を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回 子ども理解における発達（胎児期から幼児期）の把握 発達の特性を踏まえ子どもを理解することを学ぶ。</p> <p>第3回 個人差や発達過程に応じた保育 子どもの個人差や発達過程に応じた保育を具体例を通して学ぶ。</p> <p>第4回 身体感覚を伴う経験と環境の相互作用 子どもの発達に、身体を用いた直接経験が重要であることを学ぶ。</p> <p>第5回 環境としての保育者と子どもの発達 事例を通して、人的環境としての保育者の役割を学ぶ。</p> <p>第6回 子ども相互の関わり 仲間関係の重要性について学ぶ。</p> <p>第7回 自己主張と自己抑制 自己統制の発達について学ぶ。</p> <p>第8回 子どもの生活と学び 子どもたちは生活の習慣をどのように培っていくのか、事例を通して学ぶ。</p> <p>第9回 子どもの遊びと学び 遊びは子どもたちの発達にどのような意味を持つのか、事例を通して学ぶ。</p> <p>第10回 生きる力の基礎 「生きる力」とは何かを学ぶ。</p> <p>第11回 発達の課題に応じた援助 発達の課題（生活年齢・発達年齢）に応じた援助や関わりについて学ぶ。</p> <p>第12回 発達の連続性と就学への支援 発達・生活の連続性をふまえ、家庭と連携した就学の支援について学ぶ。</p> <p>第13回 発達援助における協働（関係機関の理解） 関係機関との連携、協働について学ぶ。</p> <p>第14回 支援を要する子どもへの援助（低出生体重児、障がいのある子ども） 低出生体重児、障がいのある子どもへの援助と関連機関との連携を学ぶ。</p> <p>第15回 支援を要する子どもへの援助（病児、情緒行動上の問題がある子ども） 病児、情緒行動上の問題がある子どもへの援助と関連機関との連携を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>子どもたちの発達を促す具体的な発達援助について、具体例やグループ討議を通して学ぶ。さらに、生活と遊びを通じた子どもたちの経験や学習の過程を学ぶ。</p>
予習	<p>テキストの該当箇所を、事前に読む。 各回、約1時間の事前学習を要する。</p>
復習	<p>テキストを読み、講義内容をより理解するように努める。 各回、約1時間の事後学習を要する。</p>
テキスト	<p>新保育士養成講座編纂委員会（編） 2015年 『改訂2版 新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国社会福祉協議会</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法・評価基準	<p>小テスト40%、授業内レポート（毎時間提出）15%、グループ討議30%、発表5%、受講態度10%</p> <p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、</p>

	短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	グループ討議を積極的に行うこと。
オフィスアワー	大城：毎週水曜日 3限目 大城研究室 中野：授業終了後、教室で質問を受け付けます
課題に対する フィードバック方法	小テスト・授業内レポートは、授業内で返却します。

講義科目名称：子どもの保健Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
知念 菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。</li> <li>2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。</li> <li>3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。</li> <li>4. 施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 はじめに ダウン症ビデオ鑑賞</p> <p>第2回 よくみられる病気と事故 先天異常</p> <p>第3回 よくみられる病気と事故 感染する病気（ウイルスによる病気）</p> <p>第4回 よくみられる病気と事故 感染する病気（細菌感染による病気）</p> <p>第5回 よくみられる病気と事故 呼吸器系の病気・循環器系の病気</p> <p>第6回 よくみられる病気と事故 消化器の病気・血液の病気と小児がん</p> <p>第7回 よくみられる病気と事故 腎臓・泌尿器・性器内分泌の異常による病気</p> <p>第8回 よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気</p> <p>第9回 よくみられる病気と事故 皮膚の病気、骨・関節・筋肉の病気と異常</p> <p>第10回 よくみられる病気と事故 眼・耳・鼻・口・歯の病気と異常</p> <p>第11回 よくみられる病気と事故 子どもの事故</p> <p>第12回 病気の予防と保健指導</p> <p>第13回 子どもの精神保健～心のケア～</p> <p>第14回 生活環境と育児</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅱのまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。</li> <li>2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。</li> </ol>
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院
参考書	<p>「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社</p> <p>「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館</p> <p>「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社</p>
評価方法・評価基準	<p>期末試験50% 受講者の発表30% 授業態度20%</p> <p><b>【DP 1～4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p>

	○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：子どもの保健Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
知念 菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。</li> <li>2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。</li> <li>3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。</li> <li>4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 はじめに 妊婦・赤ちゃん体験</p> <p>第2回 子どもの発育を知ろう 身体測定</p> <p>第3回 子どもの発達を知ろう</p> <p>第4回 子どもの健康状態を知ろう バイタルサインの測定</p> <p>第5回 日常における養護の方法① 抱っこ・着替え・おむつ替え等</p> <p>第6回 子どもの保育環境づくり</p> <p>第7回 よくわかる病気について知ろう</p> <p>第8回 よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気</p> <p>第9回 よく起こる事故について知ろう</p> <p>第10回 いざというときの応急処置について知ろう</p> <p>第11回 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう</p> <p>第12回 子どもの生活習慣について考えてみよう</p> <p>第13回 世界の子どもの保健をながめてみよう</p> <p>第14回 ほけんだより作成</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅲまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	子どもの保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	これならわかる！「子どもの保健演習ノート」 *子育てパートナーが知っておきたいこと* 榊原 洋一 監修 診断と治療社
参考書	「子どもの保健Ⅱ」 佐藤 益子 編著 ななみ書房 「子どもの保健実習」 兼松 百合子 他 編著 同文書院 「小児保健実習」 高内正子編著 保育出版社 「最新乳幼児保育指針」 母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編 日本小児医事出版社
評価方法・評価基準	<p>期末試験50% 演習30% 授業態度20%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を</p>



	<p>追求する。</p> <p>○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：障害児保育

授業コード：

英文科目名称：Handicapped Child Caring Pract.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山田 悦子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：健全児、障害児の発達を説明できる。 思考判断：育ちの基本を指摘できる。</p> <p>関心意欲：障害児保育・療育に興味を持てる。 態度：既存概念に疑いを持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 障害児の発達について①</p> <p>第2回 障害児の発達について②</p> <p>第3回 障害児の種類とその特徴①</p> <p>第4回 障害児の種類とその特徴②</p> <p>第5回 発達の遅れ①</p> <p>第6回 発達の遅れ②</p> <p>第7回 自閉症スペクトラムについて①</p> <p>第8回 自閉症スペクトラムについて②</p> <p>第9回 自閉症スペクトラムについて③</p> <p>第10回 演習①</p> <p>第11回 演習②</p> <p>第12回 障害児保育発達の保障①</p> <p>第13回 障害児保育発達の保障②</p> <p>第14回 きょうだいへの支援・まとめ①</p> <p>第15回 きょうだいへの支援・まとめ②</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>1) 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。</p> <p>2) 障害児保育場面における日常生活動作、食事、排泄、更衣の生活動作など具体的な保育方法について理解させる。</p> <p>3) 相談機関等の種類と内容を理解すると共に障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に理解を深めさせる。</p>
予習	事前に配布したプリントを読み、障害に対して認識しておく
復習	授業学んだ箇所を再度読み、障害の理解をより深め次への授業のステップに繋げる
テキスト	『障害児保育』近藤直子・白石正久・中村尚子編著 全障研出版
参考書	『障害児の療育的保育』『発達とは矛盾をのりこえること』、その他等
評価方法・評価基準	<p>期末試験70% 授業態度20% 授業への参加度10%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</li> </ul>

履修上の注意	講義には目的意識を持って、主体的に参加すること。講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：社会的養護内容

授業コード：

英文科目名称：Seminar in Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
砂川 純子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護における子どもの最善の利益の意味を理解した支援・援助について学ぶ。</li> <li>・社会的養護を通して、家庭支援、児童福祉、地域支援（福祉）等について認識を深める。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所の業務内容、児童福祉施設及び里親に関する入門的な知識を獲得する。</li> <li>・個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、社会的養護とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の概要説明、評価方法、授業の進め方などのオリエンテーション実施</li> <li>・社会的養護を必要とする児童の実態を説明する。</li> </ul> <p>第2回 児童の権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法、児童福祉法、児童憲章、児童の権利条約を通して児童の権利擁護を理解する。</li> <li>・児童福祉施設における児童の権利擁護のシステムについて学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 社会的養護の実施体系/社会的養護の理念と原理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の実施体系を学ぶ。</li> <li>・児童養護施設の運営指針を通して、社会的養護の基本理念を学ぶ。</li> <li>・施設入所の仕組みと児童相談所の役割について説明する。</li> </ul> <p>第4回 施設における自立支援のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設における自立支援の在り方について学ぶ。</li> <li>主にリービングケアについて説明する。</li> </ul> <p>第5回 施設における生活支援と規則について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童養護施設の設備運営基準の説明。</li> <li>・ビデオを通して、入所児童の生活支援の在り方について学ぶ。</li> </ul> <p>第6回 事例分析（乳児院、里親）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して、乳児院・里親・ファミリーホームの概要と課題について学ぶ。</li> </ul> <p>第7回 事例分析（障害児入所施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して、障害児入所施設及び児童自立支援施設、児童心理治療施設の実態を学ぶ。</li> </ul> <p>第8回 児童福祉施設での記録と評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設での記録について学ぶ。</li> <li>特に自立支援計画を作成するにあたっての留意事項について学ぶ。</li> <li>・第三者評価事業と自己評価について学ぶ。</li> </ul> <p>第9回 自立支援計画書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習</li> <li>・架空の事例からアセスメントの方法、課題分析、グループ討議をし自立支援計画書を作成する。</li> <li>・自立支援計画書の提出。（レポートとして評価）</li> </ul> <p>第10回 被虐待児の生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを通して、虐待の種類・特徴、ケアのあり方について学ぶ。</li> </ul> <p>第11回 保育士の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児の説明。</li> <li>・施設での保育士の役割を考える。（心理士との連携）</li> <li>・被措置児童等虐待対応ガイドラインを通して施設内虐待について考える。</li> </ul> <p>第12回 児童相談所及び関係機関との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所の業務内容を説明。</li> <li>・入所にかかわる児童福祉法の規定について学ぶ。</li> <li>・児童相談所との連携の在り方について学ぶ。</li> </ul> <p>第13回 保育士・ソーシャルワーカー等の専門性に係わる知識、技術とその応用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設におけるリービングケア、アフターケアのあり方について学ぶ。</li> <li>・事例を通して具体的な支援方法を考える。</li> <li>・自立援助ホームの概要説明。</li> </ul> <p>第14回 施設の小規模化と地域とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設の小規模化の必要性について考える。</li> <li>・グループホーム、ファミリーホームの概要説明。</li> <li>・養育者の専門性について（基幹的職員の配置）</li> <li>・児童家庭支援センターの概要説明</li> </ul> <p>第15回 社会的養護の今後の課題と展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・学校・関係機関との連携の在り方を通して、社会的養護の課題を考える。</li> </ul> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>各児童施設の養護内容の理念を前提にした支援・援助についてディスカッション等を通して具体的なあり方を学習できるようにする。</p>

予習	テキストにて事前学習を行い授業に臨む。
復習	授業内容をふりかえり理解を深める。
テキスト	「児童福祉を支える演習 社会的養護内容」 萌文書林 吉田眞理編著
参考書	「子ども虐待という第四の発達障害」 学研 杉山登志郎著
評価方法・評価基準	<p>評価割合：期末試験 80%</p> <p>レポート 20%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	授業終了後、教室で質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	・自立支援計画書を作成し提出。評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：保育所実習 I

授業コード：

英文科目名称：Nursery Sch. Teaching Pract. I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			

授業のテーマ及び到達目標	保育所の役割と機能、子ども理解、子どもの発達、保育内容、保育環境等について、保育の計画、観察、実践、記録及び評価を基に具体的に実習し学ぶ。特に、保育所実習 I をとおして、保育所の役割や機能、子どもの発達、子どもの人権の尊重、保育内容、保育環境、保育士の役割及び倫理等について学び、保育所保育を理解することができる。また、実習をとおして、保育士としての自己課題について考察することができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育所の生活と一日の流れ</li> <li>②保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの観察とその記録による理解</li> <li>②子どもの発達過程の理解</li> <li>③子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育の計画に基づく保育内容</li> <li>②子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>③子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>④子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>②記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育士の業務内容</li> <li>②職員間の役割分担や連携</li> <li>③保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>
授業の概要	保育所実習 I をとおして、保育所の役割と機能、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割と倫理等について理解する。
予習	「保育所保育指針」を読み、保育所の役割と機能、子どもの発達、保育内容等について理解を深めること。
復習	保育所実習 I を省察、自己評価して、自己課題を認識し課題解決を図ること。
テキスト	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 その他、必要な資料を配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	<p>実習園による評価 50%</p> <p>実習担当教員による評価（保育所実習 I 実習日誌・実習レポート） 50%</p> <p>【D P 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	事前に実習園のオリエンテーションをしっかりと受け、実習生としての自覚を持つこと。
オフィスアワー	西研3-8 糸洲研究室 毎週木曜日3限目
課題に対するフィードバック方法	保育所実習 I 実習日誌は、評価後に返却する。

講義科目名称：保育所実習指導 I

授業コード：

英文科目名称：Nurse.Schools Pract. Orientation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
糸洲理子・赤嶺優子・宮平隆央・山盛淳子			

授業のテーマ及び到達目標	保育の実践力を培うために、子どもの観察方法や記録の取り方等を学び、子どもの発達や保育内容、保育の指導法等について具体的に学ぶ。特に、保育所実習指導 I をとおして、保育所の役割や機能、子ども理解、子どもの最善の利益の尊重、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割及び倫理、個人情報の保護等について具体的に学び、保育所保育を理解することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、保育所実習 I の意義①：実習の概要 授業始めに、講義概要について説明する。 保育所実習 I の概要を理解する。</p> <p>第2回 保育所実習 I の意義②：実習の目的 保育所実習 I の目的を理解する。</p> <p>第3回 実習の内容の明確化 保育所実習 I の実習内容を理解する。</p> <p>第4回 実習の課題の明確化 保育所実習 I の課題を理解する。</p> <p>第5回 事前訪問（実習先オリエンテーション）と訪問時のマナー 実習園を訪問する際のマナーについて理解する。</p> <p>第6回 実習に際しての留意事項①：子どもの人権と最善の利益の考慮 保育を行う際に必要な、子どもの人権の尊重と子どもの最善の利益について理解する。</p> <p>第7回 実習に際して留意事項②：個人情報の保護と守秘義務 保育を行う際に必要な、個人情報の保護と保育士の守秘義務について理解する。</p> <p>第8回 実習に際して留意事項③：実習生としての心がまえ 実習生として適切な言葉づかいや態度など、保育所実習に関する心がまえについて理解する。</p> <p>第9回 実習の計画と記録①：実習における計画と実践 保育を行う際に必要な、計画の意義と実践について理解する。</p> <p>第10回 実習の計画と記録②：実習における観察、記録及び評価 子どもを観察する方法と記録の取り方、実践後の評価について理解する。</p> <p>第11回 保育技能の実践と評価①：計画と指導案の作成 子どもの発達をふまえた保育技能を実践するための計画を立て、指導案の作成方法を理解する。</p> <p>第12回 保育技能の実践と評価②：保育技能発表 指導案を基に保育技能を発表し、ふり返り、改善点を学ぶ。</p> <p>第13回 特別講義 保育所保育について、特別講義を行う。</p> <p>第14回 事後指導における実習の総括 保育所実習 I を総括する。さらに、保育所実習 I をとおしての自己課題について考える。</p> <p>第15回 保育所実習 I の自己評価と保育所実習 II の課題 保育所実習 I を自己評価し、保育所実習 II に向けた課題を明確にする。</p>
授業の概要	<p>【事前指導】 保育所の役割や機能、子ども理解、子どもの最善の利益の尊重、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割や倫理等を学び、保育所保育を理解する。</p> <p>【事後指導】 保育所実習 I の反省点と改善点をまとめ、次の実習へ向けて自己課題を明確にする。</p>
予習	保育所実習 I の実習内容を把握し、実習の目的、意義、保育内容等を理解すると共に、自己課題を認識する。次回講義に必要な課題に取り組む。
復習	講義内容を復習し、理解を深める。 保育所実習 I 終了後に実習の総括と自己評価を行い、自己の課題を認識し、保育所実習 II の課題を明確にする。
テキスト	公益財団法人児童育成協会監修 近喰晴子他編集 2016年 『基本保育シリーズ20 保育実習』 中央法規 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーバル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーバル館 その他、必要な資料を配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	授業内レポート20%、保育記録10%、指導案作成（部分案）20%、保育技能発表及び評価10%、その他課題及び提出物40%で総合的に評価する。  【DP 1~4との関連】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	課題等の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	糸洲：西研3-8 糸洲研究室 毎週木曜日 3限目 赤嶺：西研3-4 赤嶺研究室 毎週月曜日 12：20-12：50 宮平：西研3-5 宮平研究室 毎週金曜日 2限目 山盛：西研2-8 山盛研究室 毎週木曜日 3限目  ※授業初回にオフィスアワー日を掲示する
課題に対するフィードバック方法	課題は評価後に返却する。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本邦華・宮平隆央・山盛淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にします。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解します。</li> <li>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解します。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にします。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <p>施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学び、実習の内容を理解することができる。また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習への心構えをすることができる。最後に実習の事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明ー施設実習とは 実習の意義と概要 事前訪問・ボランティア レポートを踏まえて、あらためて施設実習とは何か、施設実習の意味や学びを確認する。保育士として、子どもや利用者の生活を支えるということを理解する。</p> <p>第2回 実習施設への理解を深める 施設実習で配置される施設の種類の概要について学ぶ。養護系、障害系（児童施設・成人施設）、育成系の違い、また入所・通所などの形態の違い、対象者、保育士以外の職員の職種、そして法令について理解する。</p> <p>第3回 実習施設への理解を深める（実習施設に関する調査レポート） 施設の区分について理解し、調査レポートの作成を通して、実習先の施設について学ぶ。レポートでは施設の正式名称、所在地、施設の種類の種類、形態、根拠となる法令・条文・条項等、施設の活動内容、職員体制などについて調査する。</p> <p>第4回 実習の内容と課題の明確化（実習の内容と課題） 施設における保育士の役割について確認し、施設保育士の職務内容について理解する。これまでの学びから自分の関心を整理し、実習先の具体的な方針や概要などを確認し、実習の課題を設定する。</p> <p>第5回 演習「心身障害児への対応について」（沖縄中部療育医療センター派遣講師） 障害児の楽しむ遊びや、遊ぶ際の注意点などについて演習形式で体験する。また、利用者役と保育士役に分かれて目隠しをした利用者役の学生に食べ物や飲み物を与える実演をする。演習を通して、障害児・者を援助するときの留意点について気づきを得る。</p> <p>第6回 DVD「保育者への歩みー乳児院・児童養護施設」 DVD教材を通して、乳児院・児童養護施設での実習生の一日の流れを学ぶ。気づいた点を書き出してもらい、学びを再確認する。</p> <p>第7回 DVD「施設実習の予備知識ー障害者支援施設」 DVD教材を通して、障害者支援施設での実習生の一日の流れを学ぶ。気づいた点を書き出してもらい、学びを再確認する。</p> <p>第8回 実習の計画と記録（1）実習における計画と実践 実習計画書について 施設における様々な計画を理解する。施設実習での部分実習や責任実習について確認し、部分実習や責任実習の立案をする。</p> <p>第9回 実習における計画と実践 責任案・部分案発表（前半グループ） 対象となる人の年齢・理解の程度、好み、人数などを考慮し、各グループで指導案を立案し、実演する。実演後短い振り返りを行い、反省点や課題などについて意見交換を行う。</p> <p>第10回 実習における計画と実践 責任案・部分案発表（後半グループ） 対象となる人の年齢・理解の程度、好み、人数などを考慮し、各グループで指導案を立案し、実演する。実演後短い振り返りを行い、反省点や課題などについて意見交換を行う。</p> <p>第11回 実習における観察、記録および評価について（先輩の日誌から学ぶ） 実習日誌を書く意義について説明し、日誌についての理解を深める。実習初期、中期、後期における日誌の内容の変化について日誌例を基に解説する。また、過去の先輩の日誌から、実習における観察、記録について学ぶ。</p> <p>第12回 元施設利用者による特別講義 元施設利用者による特別講義をしていただく。利用者の視点から見た施設について話を聞かせていただくことで、利用者の視点について理解を深める。学生には講義を聴き、初めて知ったことや心に残ったことを書き出し、講義の振り返りの資料とする。う。</p> <p>第13回 実習に際しての留意事項（子どもの人権と最善の利益の考慮と、プライバシーの保護と守秘義務） 子どもの人権と最善の利益を考慮する観点から、利用者のプライバシーの保護と秘密主義に関して理解を深める。実習生自身の個人情報についても注意することについて確認する。</p> <p>第14回 実習終了者からの情報伝達会 実習を終了した先輩から、実際の実習の様子、アドバイスなどをもらい、事前準備を整える。</p> <p>第15回 実習前直前オリエンテーション 実習生としての心構え 実習先が実習生に求めるもの、養成校が実習生に求めるもの、そして実習生が実習に何を求めたらよいのかを確認し、実習に対する意識を明確にする。大人としてのマナーや礼儀、生活技術など、実習までに身に付けておくことについて確認し、実習に備える。</p>

授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 可能であれば、実習施設の見学または1日ボランティアをおこない、レポートし、発表する。</li> <li>2. 実習に行く前にテキストを読み、小レポートを2回程度課す。</li> <li>3. 実習施設に関する調査レポートを提出し、発表する。理解がゆきとどくまで再提出をおこなう。</li> <li>4. 部分実習・責任実習があることを想定して、準備する。</li> <li>5. 実習生調査書、実習計画書、誓約書等を作成する。</li> <li>6. 施設職員による特別演習をおこない、元施設利用者による特別講義をおこなう。</li> <li>7. 上級生の助言を聴く会と実習終了者からの情報伝達会を設ける。</li> </ol>
予習	指定されたテキストの箇所を読んでくる。提出物を期限内に提出する。
復習	実習施設に関する提出物ならびにテキストを読み返す。
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 編著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2015（変更の可能性あり） ミネルヴァ 2018 『社会福祉六法2018』
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 その他、分野別に適宜紹介します。
評価方法・評価基準	<p>レポート（事前訪問・調査）、テキスト試験、受講者の発表、指導案、特別講義レポート、その他調査書や計画書を総合的に評価します。</p> <p>レポート（事前訪問・調査） 25% 小試験 20% 指導案作成・発表 10% 特別講義レポート等 25% 調査書・計画書等 20%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	児童家庭福祉、社会的養護等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいでください。
オフィスアワー	佐久本：○曜日 1・2時限目 佐久本研究室 （仮）宮平：毎週**曜日 **限目 宮平研究室 （仮）山盛：毎週**曜日 **限目 山盛研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はその都度採点し返却します。

講義科目名称：保育所実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Nursery Sch. Teaching Pract. Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
島袋 桂			
実習			
授業のテーマ及び到達目標	保育所の役割や機能、子どもの発達、保育内容、保育環境、子育て支援等について、保育の計画、観察、実践、記録及び評価を基に具体的に実習し学ぶ。特に、保育所実習Ⅱをとおして、保育所の役割や機能、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割、子育て支援等を学び、保育所保育を総合的に理解することができる。また、実習をとおして、保育士としての自己課題を明確にする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所実習Ⅱによる総合的な学び             <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの最善の利益を考慮したほいるの具体的理解</li> <li>②子どもの保育と保護者支援</li> </ol> </li> <li>2. 保育実践力の育成             <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの状態に応じた適切な関わり</li> <li>②保育の表現技術を生かした保育実践</li> </ol> </li> <li>3. 計画と観察、記録、評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</li> <li>②保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</li> </ol> </li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理</li> <li>5. 事後指導における実習の総括と評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育所実習Ⅱの総括と自己評価</li> <li>②自己の課題の明確化</li> </ol> </li> </ol>		
授業の概要	保育所実習Ⅰで習得した知識や経験と、専門科目で学んだ理論を基に保育所保育士としての知識や保育の指導法を学ぶ。さらに、保育所における子育て支援について理解を深める。		
予習	保育所実習を通し、保育所の役割、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割、子育て支援等について理解する。 事前に実習園を訪問して、子どもたちの様子を確認する。		
復習	保育所実習Ⅱを省察、自己評価して、自己の課題を認識し課題解決を図ること。		
テキスト	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 その他、必要な資料を配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・評価基準	実習園による評価 50% 実習担当教員による評価（保育所実習Ⅱ実習日誌・実習レポート） 50%  <b>【DP 1～4との関連】</b> ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。		
履修上の注意	事前に実習園のオリエンテーションをしっかり受け、実習生としての自覚を持つこと。		
オフィスアワー	西研 島袋研究室 毎週**曜日 **限目		
課題に対するフィードバック方法	保育所実習Ⅱ実習日誌は、評価後に返却する。		

講義科目名称：保育所実習指導Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Nurse.Schools Pract. Orientation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
島袋桂・糸洲理子			
演習			

授業のテーマ及び到達目標	保育所実習Ⅰや既習の教科の内容とその関連性を基に、保育の実践力を培うために、保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について学ぶ。保育所実習指導Ⅱをとおして、保育所の役割や機能、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割、保育の専門性、子育て支援等について学び、保育所保育を総合的に理解することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、保育所実習Ⅱの意義と目的 授業始めに、講義概要を説明する。 保育所実習Ⅱの意義と目的について理解する。</p> <p>第2回 保育所実習Ⅱの課題の明確化 保育所実習Ⅱの課題を明確にする。</p> <p>第3回 観察に基づく保育理解 子どもの発達をふまえた観察の方法を学び、保育を理解する。</p> <p>第4回 保育記録の方法 乳児及び幼児の記録の取り方を理解する。</p> <p>第5回 「場面記録」の取り方 子ども理解を深めるための「場面記録」の取り方について学ぶ。</p> <p>第6回 事前訪問：オリエンテーション 実習園を訪問して、事前オリエンテーションを受ける。</p> <p>第7回 事前訪問：保育観察 実習園を訪問して、保育観察を行う。</p> <p>第8回 保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 保育所に求められる保護者・家庭への支援の在り方と、地域社会との連携について理解する。</p> <p>第9回 特別講義：地域子育て支援 地域子育て支援について、特別講義を行う。</p> <p>第10回 保育所実習Ⅱのふり返り 保育所実習Ⅱをふり返り、自己課題を明確にする。</p> <p>第11回 保育所実習Ⅱ反省会 保育所実習Ⅱを終えて、実習の成果、反省点、課題等についてふり返る。</p> <p>第12回 特別講義：保育所保育 保育所保育について、特別講義を行う。</p> <p>第13回 保育行事の観察：3歳未満児 保育所で行われる保育行事を実際に観察する。</p> <p>第14回 保育行事の観察：3歳以上児 保育所で行われる保育行事を実際に観察する。</p> <p>第15回 個別面談 個別面談を行い、保育所実習で明確になった課題等について確認し、自己の保育士像を明確にする。</p>
授業の概要	<p><b>【事前指導】</b> 事前指導では、保育実習に対する理解を深め、有意義な実習となるよう十分な準備をする。実習生としての基本的心がまえをはじめ、実習内容を十分に理解し、自己課題を持って実習に望めるようにする。</p> <p><b>【事後指導】</b> 事後指導では、保育所実習Ⅱ反省会を行い、保育所実習Ⅱで得た成果や反省点、課題を出し合い、グループ討議及び全体でまとめをする。また、実習総括と事後評価を行い、保育に対する自己課題や認識を明確にする。</p>
予習	実習園の概要と実習時期の行事、実習中の固定クラスを確認しておくこと。
復習	講義内容を復習し、理解を深める。
テキスト	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーバル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーバル館 その他、必要な資料を配布する。
参考書	その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	<p>レポート20%、保育記録10%、場面記録20%、保育行事の観察20%、その他課題及び提出物30%で総合的に評価する。</p> <p><b>【D P 1~4との関連】</b> ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための</p>

	<p>知識と技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	課題等の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	<p>島袋：西研 島袋研究室 毎週**曜日 **限目  糸洲：西研3-8 糸洲研究室 毎週木曜日2限目</p> <p>※講義初回に、オフィスアワー日を掲示する</p>
課題に対するフィードバック方法	課題は評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習の意義・目的を踏まえ、社会的養護（保育、支援）について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、養護（保育、支援）実践力を培う。</li> <li>3. 養護（保育、支援）の観察、記録及び自己評価等を踏まえた養護（保育、支援）の改善について学ぶ。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前指導を通して、施設保育士としての知識を獲得する。</li> <li>2. 事後指導を通して、施設保育士としての自己課題を明確にすることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、施設実習Ⅱの意義 施設実習Ⅱを選択し、実習する意義を理解する。</p> <p>第2回 事前訪問（見学・ボランティア）レポート作成 実習施設の事前訪問（見学・ボランティア）レポートを作成する。</p> <p>第3回 実習施設に関する調査 実習施設に関して、施設の種類および法的規定、事業内容、利用者の特性などについて調べ、レポートを作成する。</p> <p>第4回 実習施設に関する調査レポート発表 実習施設に関する調査レポートを発表する。</p> <p>第5回 実習生調査書・実習計画書作成 実習生調査書および実習施設の種類や利用者の特性を踏まえた実習計画書を作成する。</p> <p>第6回 実習記録 日々の記録の書き方について学ぶ。</p> <p>第7回 部分実習・責任実習指導案 実習施設の利用者の特性を踏まえた指導案を作成する。</p> <p>第8回 部分実習・責任実習指導案発表 部分実習・責任実習指導案の発表会をおこなう。</p> <p>第9回 実習事前オリエンテーション 実習の心得や注意事項等を確認する。</p> <p>第10回 実習反省会 ディスカッションや自己評価を通して、実習を振り返る。</p> <p>第11回 実習報告レポート作成 実習中のエピソード等をレポートにまとめる。</p> <p>第12回 実習報告レポート発表 実習報告レポートの発表会をおこなう。</p> <p>第13回 実習評価票開示 実習施設からの評価と自己評価を比較することで、実習を振り返る。</p> <p>第14回 実習伝達会 施設実習Ⅰをおこなう1年生へ実習の伝達をおこなう。</p> <p>第15回 個人面談 個人面談を通して、総括をおこない、保育士としての自己課題を明確にする。</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設についてレポート作成を行い、発表する。</li> <li>2. 記録や指導案作成について学び、部分実習・責任実習案を発表する。</li> <li>3. 実習に必要な書類（実習生調査書、実習計画書、誓約書等）を作成する。</li> <li>4. 実習後、反省会・個人面談を通して、保育士としての自己課題を明確にする</li> </ol>
予習	提出物を期限内に提出する。 各回、約1時間の事前学習を要する。
復習	実習施設に関する提出物ならびにテキスト、講義内容を振り返り、理解を深めるよう努める。 各回、約1時間の事後学習を要する。
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 2014年 『施設実習パーフェクトガイド』 わかば社 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
参考書	実習施設の分野別に適宜紹介します。
評価方法・評価基準	事前訪問レポート10%、実習施設に関する調査レポート20%、学生調査書・実習計画書10%、部分実習・責任実習指導案および発表20%、実習報告レポートおよび発表30%、受講態度10%

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	社会福祉、相談援助、社会的養護内容等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。提出物は期限内に必ず提出してください。部分実習・責任実習に向けて技能をみがいてください。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	提出物は、授業内で返却します。

講義科目名称：総合表現

授業コード：

英文科目名称：Comprehensive expression and activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本邦華・島袋桂・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育・幼児教育において表現する様々な行為は子どもにとって日常的な活動であり、本来、分断化されない総合的なものであると考えられる。本科目「総合表現」では、上記した問題意識から、まずは身体・音・色と形という馴染みある観点を入り口とし、最終的には全てを横断包括する「総合的な表現活動」への認識を高める事を目的とする。</p> <p>【到達目標】 これまでに学んだ「身体」「音」「色と形」に関する技術を再確認し、保育における表現活動について考える。創作活動の中でそれぞれの要素の取り入れ方について実践を通して学び、身に付けることができる</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション-総合表現の意義と目標- 映像などの資料を提示し、保育の場面から表現活動をとらえる。実際の子どもたちの表現活動には、身体の動き、音、色と形が複合的に組み合わせられていることを確認する。</p> <p>第2回 色と形から生まれる総合表現-導入 画像資料や映像資料をもとに、色と形を手掛かりに、音と身体表現を組み合わせた表現活動について考える。</p> <p>第3回 色と形から生まれる総合表現-展開とまとめ 色と形を手掛かりに、音と身体表現を組み合わせた表現活動を行い、その展開方法について考え、まとめる。</p> <p>第4回 音から生まれる総合表現-導入 画像資料や映像資料をもとに、音を手掛かりに、色と形と身体表現を組み合わせた表現活動について考える。</p> <p>第5回 音から生まれる総合表現-展開とまとめ 音を手掛かりに、色と身体表現を組み合わせた表現活動を行い、その展開方法について考え、まとめる。</p> <p>第6回 身体から生まれる総合表現-導入 画像資料や映像資料をもとに、身体を手掛かりに、音と色と形を組み合わせた表現活動について考える。</p> <p>第7回 身体から生まれる総合表現-展開とまとめ 身体を手掛かりに、音と色と形を組み合わせた表現活動を行い、その展開方法について考え、まとめる。</p> <p>第8回 身体、音、色と形について振り返り これまでに体験した総合表現技法について振り返る</p> <p>第9回 学生の企画から展開される総合表現-企画① 保育園での発表へ向け、立案 保育園で実演する総合表現について考える。学生主導で意見を出し合い、方向性を探る。</p> <p>第10回 学生の企画から展開される総合表現-企画② 発表へ向けた準備：セリフや動き 話し合いをもとに決定したテーマで準備を進める。役割分担や、必要なものについて確認を行う。</p> <p>第11回 学生の企画から展開される総合表現-企画③ 発表へ向けた準備：音楽や効果音、楽器などの準備 身体表現に合わせる音源や造形物の準備をすすめる。</p> <p>第12回 学生の企画から展開される総合表現-企画④ 最終確認 活動のはじめから終わりまでを通し、不足はないか最終確認を行う。</p> <p>第13回 学生の企画から展開される総合表現-学内発表 リハーサルを行い、修正を行う。</p> <p>第14回 学外発表（幼稚園・保育園） 近隣の保育園、もしくは幼稚園で準備してきたものを発表する。</p> <p>第15回 まとめ・反省 発表の動画を鑑賞し、振り返りを行い、反省点や良かった点、改善点などについて意見を述べ合う。</p> <p>第16回</p>
授業の概要	<p>総合表現という科目は、身体による表現（島袋）と音による表現（仲松）、造形による表現（佐久本）の教員が三人一組で行い、保育・幼児教育の現場で展開できる「表現」のあり方を演習形式で探っていくものである。概要としては、前半部分で「ごっこ遊び」や「お話」から展開される総合表現活動についての演習を行い、後半では学生自身が総合表現活動を企画・立案する。さらに最終的に学外に赴き、実際に現場において学生自身が活動案を発表し、「表現」活動のありかたを学ぶ。</p>
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容について知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。
テキスト	分野別に適宜紹介します。



参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館  内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	演習、受講者の発表、最終発表、受講態度を総合的に評価します。 演習（20%）、発表（20%）、授業態度（20%）、最終発表（40%）  <b>【D P 1～4との関連】</b> ∴ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	場所の移動が考えられるので、事前に告知される準備物に留意すること
オフィスアワー	佐久本：火・木曜日の2時限目 （仮）島袋：毎週**曜日 **限目 島袋研究室 （仮）仲松：毎週**曜日 **限目 仲松研究室
課題に対するフィードバック方法	第14週学外発表のビデオを見ながら振り返りを行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋 浩子			

授業のテーマ及び到達目標	『私達の暮しと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。		
授業計画	第1回	講義概要説明、幼児の基本的な生活習慣について考える 近年、家庭教育力や子育て機能等が低下していることが指摘されている。沖縄県の現状について問題提起し、乳幼児期の子どもたちの生活、基本的な生活習慣の重要性について理解し、自らの生活を振り返り自信の資質につなげてもらう。	
	第2回	乳幼児期の子どもたちの生活「基本的な生活習慣」①食事の習慣 食生活における食情報の氾濫や安全の問題等を通して、幼児期には食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味・関心やよく噛んで何でも食べられる食生活の基本を身につけさせるポイントについて説明する。	
	第3回	乳幼児期の子どもたちの生活「基本的な生活習慣」②睡眠の習慣 近年の子どもたちの睡眠状況について問題提起し、睡眠の重要性や発達との関わりについて事例等を通して説明する。	
	第4回	乳幼児期の子どもたちの生活「基本的な生活習慣」③排泄の習慣 子どもが安心して排泄できる、心地よい排泄につながる環境について、文化財等を活用し説明する。	
	第5回	乳幼児期の子どもたちの生活「基本的な生活習慣」④着脱衣の習慣 衣服の役割や重要性、幼児の発達に即した衣服の着脱の仕方等を具体的に説明する。	
	第6回	乳幼児期の子どもたちの生活「基本的な生活習慣」⑤清潔の習慣 健康に暮らすために欠くことのできない習慣であり、幼児期のうちから身に付けなければならない大切なことであることを事例等を通して具体的に説明する。	
	第7回	乳幼児期の子どもたちの生活 「社会的生活習慣」 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園の関連領域を通して説明し、保育現場において身につけさせるための保育者のかかわりについてグループ協議を行わせる。	
	第8回	常識マナー・保育現場での心構え 子どもや保護者、先輩保育者等と接する時の基本的な姿勢、また社会人としてのマナー等について保育者として身につけておくべき心得やマナーを具体的に説明する。	
	第9回	はさみや箸の持ち方等 近年、簡単で便利な生活、直接手を使う体験や見て学ぶ機会が減少していることについて問題提起し、正しいもち方、使い方を説明し実践してもらう。	
	第10回	課題発表 保育実習の中で基本的な生活習慣について具体的な場面に視点をもち観察したことをまとめて発表してもらう。	
	第11回	園だより・学級だよりの作成 園と家庭を結ぶ大切な架け橋の役目を果たし、教育効果を深めるものであることを説明し、現在の社会状況は情報過多であることから、読んでもらえる、喜ばれる園だよりを工夫し作成してもらう。	
	第12回	折り紙の魅力について 折り紙の歴史や保育現場での活用等を紹介し、折り紙を折ることで何が培われるか等をグループ協議を行わせる。	
	第13回	廃品を利用した製作① 限りある資源を大切に使い、廃棄物を減らすことで自然環境への負担を押さえることの大切さを説明し、チラシの再利用をしてもらう。	
	第14回	廃品を利用した製作② 再利用することで形が変わることの意外性に気づかせ、実際に作品を作ってもらう。	
	第15回	伝承遊び 子どもの伝承遊びの現状と意義の説明と遊び方を紹介し、実際におもちゃで遊んでもらう。又、手作りおもちゃを作ってもらう。	
	第16回	定期試験 講義で学んだ基本的な生活習慣や折り紙の魅力、伝承遊び等について振り返り、定期試験を受けてもらう。	
授業の概要	子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもたちの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。		
予習	講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。		
復習	講義の中で話した内容や実践を復習し、理解をさらに深めること。		
テキスト	谷田貝公昭 監修『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版		
参考書	内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館		

	厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 子どもとマスターする49の生活技術、その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	<p>期末試験および小テスト、授業中に出すレポート課題、受講態度、演習、受講者の発表による総合評価 総合評価（成績）＝期末試験（40％）＋小テスト・課題（30％）＋受講態度（15％）＋演習（10％）＋受講の発表（5％）</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	課題の提出については、様式と期限を守ること。
オフィスアワー	授業終了後、教室等で質問を受付ます。
課題に対するフィードバック方法	レポートのフィードバックは最終授業時に行う。

講義科目名称：子どもの保健 I

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
授業計画	<p>第1回 小児保健の意義</p> <p>第2回 小児の発達・発育（小児の成長）・健康の概念と子どもの健康</p> <p>第3回 小児の発達・発育（身体の計測・身体発育の評価）成長に及ぼす因子</p> <p>第4回 小児の発達・発育（身体発育の評価）脳、感覚器、運動機能</p> <p>第5回 小児の発達・発育（演習）</p> <p>第6回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅰ）</p> <p>第7回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢）</p> <p>第8回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅲ 精神発達）</p> <p>第9回 小児の発達・発育（生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収）</p> <p>第10回 小児の発達・発育（生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠）</p> <p>第11回 小児の発達・発育（新生児）</p> <p>第12回 小児の栄養（母乳栄養を中心に）</p> <p>第13回 小児の栄養（乳幼児の食生活と健康）</p> <p>第14回 小児保健行政・母子保健対策 地域における保健活動</p> <p>第15回 幼児期の性の健康教育</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。</p> <p>2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。</p>
予習	教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく
復習	レジュメ及び教科書を再度読みかえす
テキスト	わかりやすい小児保健 同文書院
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>試験：80% レポート：10% 授業態度：10%</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	特になし

オフィスアワー	(仮) 授業終了後、教室等で質問を受付ます。
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：子どもの保健Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	I 子どもの心身の健康を守り、育てるための科学としての知識・技術を学ぶ。 II 健全な成長を量るうえで必要な疾病や事故、その予防や防止についての知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 はじめに・・・ 講義に望む心構え／講義内容について</p> <p>第2回 小児の主な病気・・・ 小児の病気の特徴／先天異常 DVD鑑賞（レポート提出）</p> <p>第3回 小児の主な病気・・・ 感染する病気 ①ウイルス感染症</p> <p>第4回 小児の主な病気・・・ 感染する病気 ②細菌感染症／その他の感染症 感染症の予防と対策</p> <p>第5回 沐浴の演習</p> <p>第6回 小児の主な病気：呼吸器系／循環器系の病気</p> <p>第7回 小児の主な病気：消化器系／血液の病気／小児がん</p> <p>第8回 小児の主な病気：腎臓・泌尿器・性器の病気</p> <p>第9回 小児の主な病気：アレルギー／神経系及び精神心理系の病気</p> <p>第10回 小児の主な病気：皮膚／骨・関節・筋肉／眼・耳・鼻・口・歯の病気</p> <p>第11回 小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～①</p> <p>第12回 小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～②</p> <p>第13回 子どもの精神保健／子どもの心の健康とその課題 グループワーク</p> <p>第14回 子どもの精神保健 ～虐待について～ グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	小児疾患、看護について学び、保育士に必要な知識、養育力を養う。
予習	教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく。
復習	レジュメ、教科書を再度読みかえす。
テキスト	「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>期末試験：80% レポート：10% 授業態度：10%</p> <p>【DP 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）授業終了後、教室等で質問を受付ます。

課題に対する  
フィードバック方  
法

.

講義科目名称：子どもの保健Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 子どもの保健Ⅰの理論をふまえ、子どもの健康・安全の捉え方及び成長発達に応じた計画・指導・方法について具体的に学び、実践できる能力を習熟する。</p> <p>② 現代社会における子どもや子どもの家族などの心の健康問題について理解し、実際の関わり方の考え方やその方法について学ぶ</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに 授業のこころがまえ／ 講義内容</p> <p>第2回 演習① 手洗いの実習 保育者にとっての手洗いの意義 抱っこの実習 月齢に応じた方法</p> <p>第3回 演習② 子どもの発育を知ろう 身体計測（頭囲・胸囲・体重・身長）</p> <p>第4回 演習③ おむつ交換／着替えの方法 紙おむつと布おむつ、衣服の選び方</p> <p>第5回 演習④ 沐浴の演習</p> <p>第6回 演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を考えて実践してみよう①</p> <p>第7回 演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を考えて実践してみよう②</p> <p>第8回 演習⑥ 保育における看護 グループワーク</p> <p>第9回 演習⑦ 保育における看護 発表</p> <p>第10回 よく起こる事故について知ろう DVD鑑賞</p> <p>第11回 演習⑧ 子どもに起きやすい事故 グループワーク（家庭内・園内の事故）</p> <p>第12回 演習⑨ 子どもに起きやすい事故の応急処置 止血法、包帯法</p> <p>第13回 演習⑩ 子どもの生活習慣について考えてみよう I</p> <p>第14回 演習⑪ 子どもの生活習慣について考えてみよう II</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	小児保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。
予習	演習内容箇所を事前に読んで理解しておく
復習	習得した技術内容をより理解し、応用できるように努めること
テキスト	子どもの保健演習ノート 診断と治療社
参考書	<p>兼松百合子・遠藤巴子編著『小児保健実習 保育と保健・看護の視点から』同文書院</p> <p>跡見一子編著『小児保健実習』建帛社</p> <p>高内正子編著『小児保健実習』保育出版社</p> <p>千羽喜代子・吉岡毅・長谷川浩道『実習育児学』日本小児医事出版社</p> <p>母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編『最新乳幼児保育指針』日本小児医事出版社</p>
評価方法・評価基準	<p>期末試験：50％ レポート：20％ 発表：10％ 演習：20％</p> <p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p>



	○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	（提出物）2019年（H31）・1月まで『保健だより』 各レポート（指定）
オフィスアワー	（仮）授業終了後、教室等で質問を受付ます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：保育者論

授業コード：

英文科目名称：Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解する。 関心意欲：保育者の専門職的成長について関心を持つ。 思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。 態度：保育者の協働について理解する。
授業計画	<p>第1回 「保育者になる」ということ</p> <p>第2回 保育者の役割</p> <p>第3回 保育者に求められる倫理</p> <p>第4回 保育者の制度的位置づけ</p> <p>第5回 子ども理解</p> <p>第6回 保育者の専門性①（養護と教育）</p> <p>第7回 保育者の専門性②（資質・能力）</p> <p>第8回 保育者の専門性③（知識・技術及び判断）</p> <p>第9回 保育の省察</p> <p>第10回 保育課程・教育課程による保育の展開と自己評価</p> <p>第11回 保育と保護者支援に関わる協働</p> <p>第12回 専門職間及び専門機関との連携</p> <p>第13回 保護者及び地域社会との協働</p> <p>第14回 多様な保育ニーズ</p> <p>第15回 保育者の専門職的成長</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育を営む際、保育者の役割は重要である。本科目では、保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解して、自らの保育者像を明確にする。また、保育者の資質・能力、保育者の専門性について理解し、保育者の協働、関係機関との連携のあり方、保育問題などについても理解を深める。
予習	シラバスを確認して、教科書の該当箇所を事前に読むこと。わからない用語は調べること。
復習	授業で学習した箇所の要点を整理して理解すること。
テキスト	汐見稔幸・大豆生田啓友編 2016（第2版） 『最新保育講座② 保育者論』 ミネルヴァ書房
参考書	厚生労働省 2008年 『保育所保育指針』 文部科学省 2008年 『幼稚園教育要領』 内閣府 2014年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法・評価基準	<p>試験50%、レポート30%、受講態度20%で、総合的に評価する。</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <p>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を</p>

	<p>追求する。</p> <p>○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。提出物の期限を厳守すること。
オフィスアワー	西研3-8 系洲研究室 毎週**曜日 **限目
課題に対するフィードバック方法	.